

令和3年度

男女共同参画に関する
市民アンケート結果報告書

令和4年1月
いすみ市

目 次

I	アンケートの概要	1
1	アンケートの目的.....	1
2	アンケートの内容.....	1
3	アンケートの対象者	1
4	アンケートの方法.....	2
5	アンケートの実施期間	2
6	アンケートの回答数.....	2
7	アンケート結果の留意事項	2
8	回答者の基本属性.....	2
II	アンケート結果の概要	3
1	あなた自身のことについて	3
2	男女の地位等について	5
3	家庭生活全般について	18
4	仕事について	34
5	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	49
6	子育て・教育について	51
7	少子・高齢化について	56
8	社会参加について.....	61
9	セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントについて	63
10	ドメスティック・バイオレンス（DV）について	64
11	男女共同参画用語について.....	69
12	男女共同参画社会実現に向けての取組みについて	71
13	自由意見	72

I アンケートの概要

1 アンケートの目的

本調査は、男女共同参画に関する市民意識を総合的に把握し、第3次いすみ男女共同参画プランの基礎資料とするため、「令和3年度男女共同参画に関する市民アンケート」（以下「今回調査」という。）を実施しました。今回は平成23年、平成28年に続き、3回目の調査となります。

2 アンケートの内容

下記の（1）～（11）の項目について、27の質問を設定しました。

【アンケート項目】

- （1）あなた自身のことについて
- （2）男女の地位等について
- （3）家庭生活全般について
- （4）仕事について
- （5）仕事と生活の調和について
- （6）子育て・教育について
- （7）少子・高齢化について
- （8）社会参加について
- （9）セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントについて
- （10）ドメスティック・バイオレンス（DV）について
- （11）男女共同参画用語について
- （12）男女共同参画社会実現に向けての取組みについて
- （13）自由意見

3 アンケートの対象者

20歳以上の市民から1,500人を無作為抽出

（基準日：令和3年4月1日現在）

4 アンケートの方法

以下の方法によりアンケートを実施しました。（無記名回答）

- ① 郵送調査法：郵送による調査票の配付・回収。
- ② インターネット調査法：WEB ページへアクセスし、回答

※回答者に①、②いずれかの方法を選択いただきました。

5 アンケートの実施期間

令和3年7月1日（木）～令和3年7月30日（金）

6 アンケートの回答数

配付数	回収数	回収率
1,500	673	44.86%

7 アンケート結果の留意事項

- (1) 集計結果は、すべて小数点以下第二位を四捨五入したため、構成比（%）の合計が100.0%にならないことがあります。
- (2) 1人の対象者に複数の回答を認めた設問では、内訳の合計が100.0%を超えることがあります。

8 回答者の基本属性

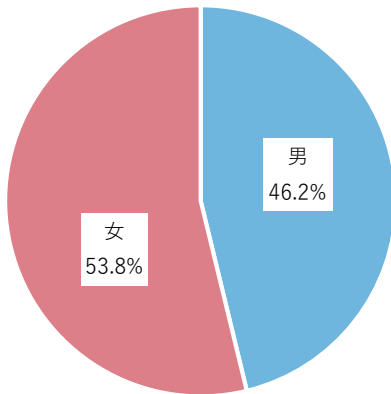
男性が46.2%、女性が53.8%の回答となっており、実人口比と比較すると女性の回答率がやや高くなっています。

II アンケート結果の概要

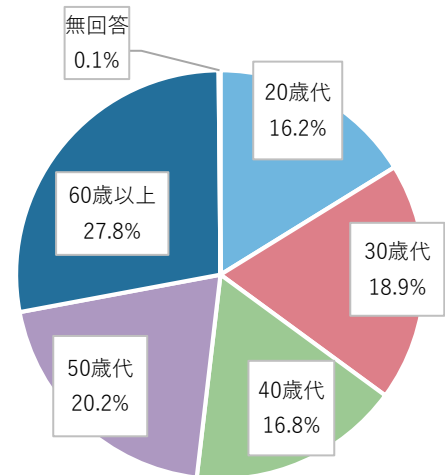
1 あなた自身のことについて

(n=673)

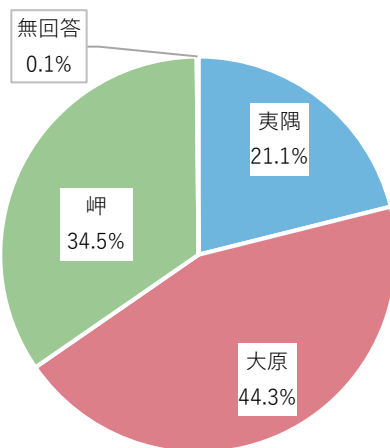
① 性別



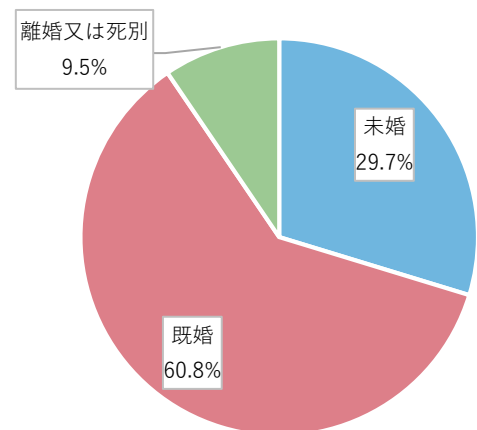
② 年齢



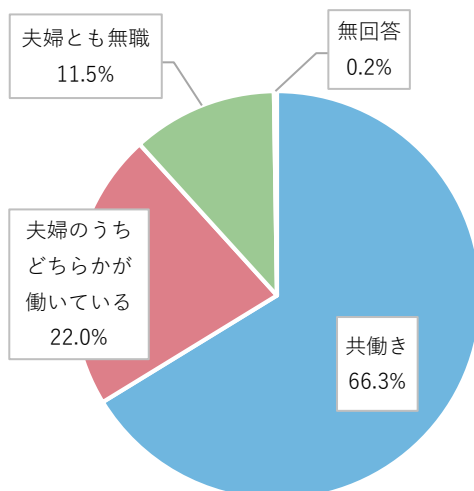
③ 居住地



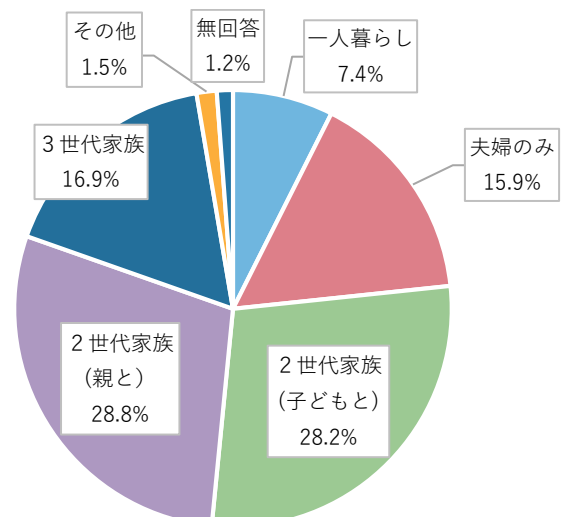
④ 配偶者の有無



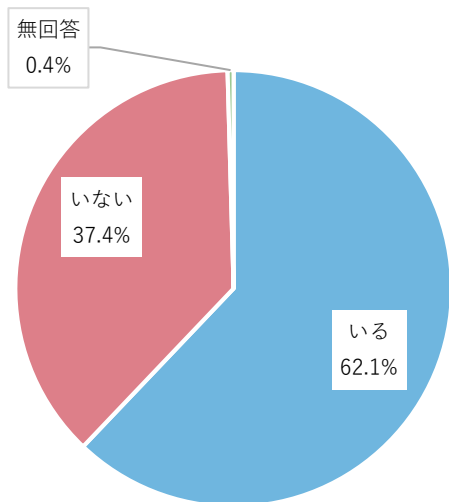
⑤ 就業の形態（既婚者のみ）



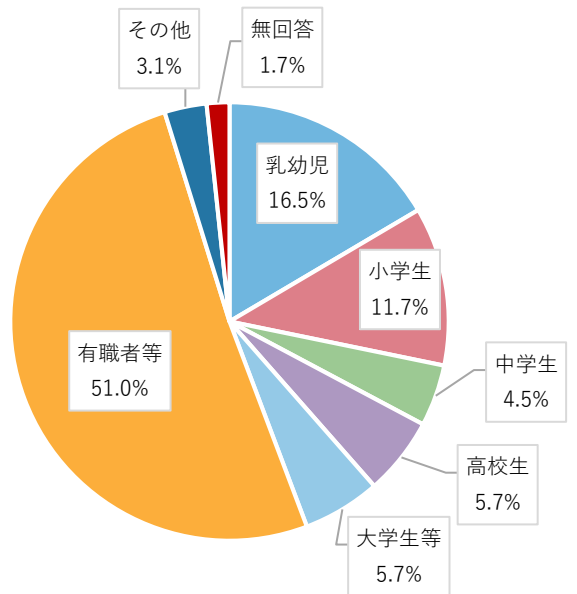
⑥ 世帯構成



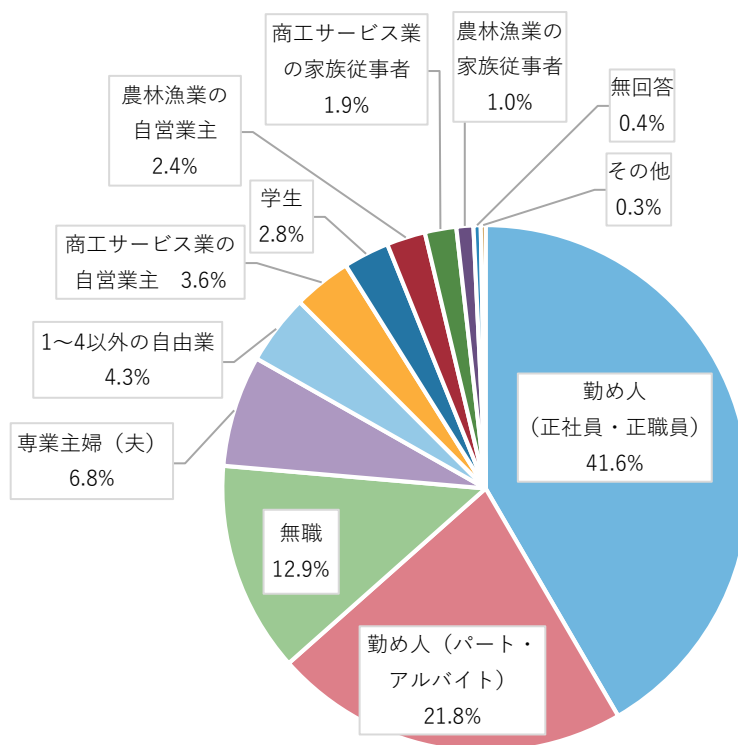
⑦ 子どもの有無



⑧ 一番下の子どもの年齢



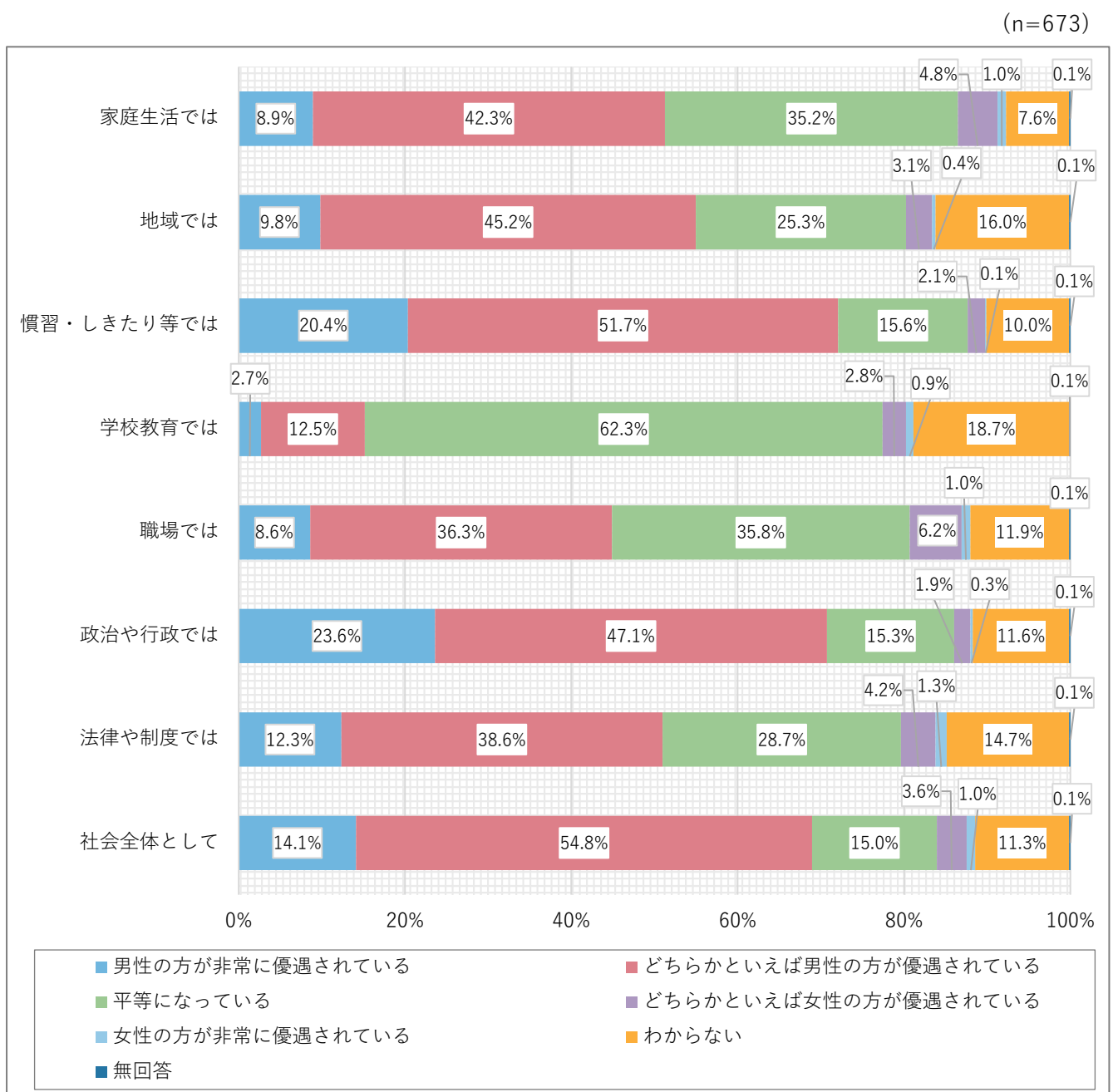
⑨ 職業



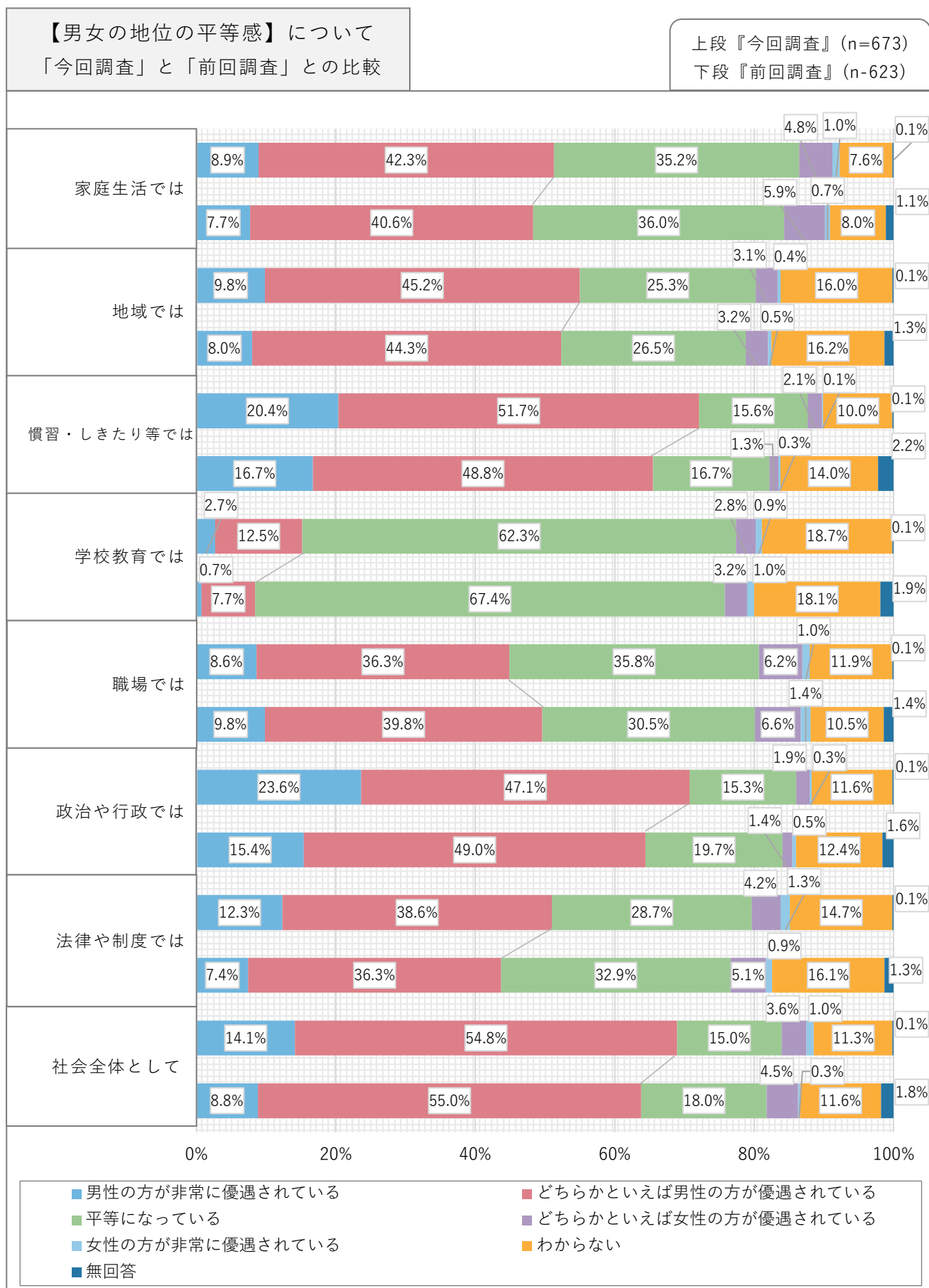
2 男女の地位等について

問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

8つの項目（「家庭生活」、「地域」、「慣習・しきたり等」、「学校教育」、「職場」、「政治や行政」、「法律や制度」、「社会全体」）における男女の地位等について尋ねたところ、「平等になっている」という回答は、「学校教育では」の62.3%が最も高く、以下「職場では」35.8%、「家庭生活では」35.2%となっています。「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答（以下「男性の方が優遇されている」という。）の割合が最も高いのは、「慣習・しきたり等」で72.1%、以下「政治や行政では」70.7%、「社会全体として」68.9%の順になっています。前回「平成28年度に実施した『男女共同に関する市民アンケート』」（以下「前回調査」という。）と比べると、ほとんどの項目で「男性の方が優遇されている」と回答している割合が増えています。（右表のとおり）



前回調査との比較は以下のとおりです。上段が今回調査の結果、下段が前回調査の結果となっています。



項目ごとの性別、年代別の結果は以下のとおりです。

問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていますか。

(1) 家庭生活では

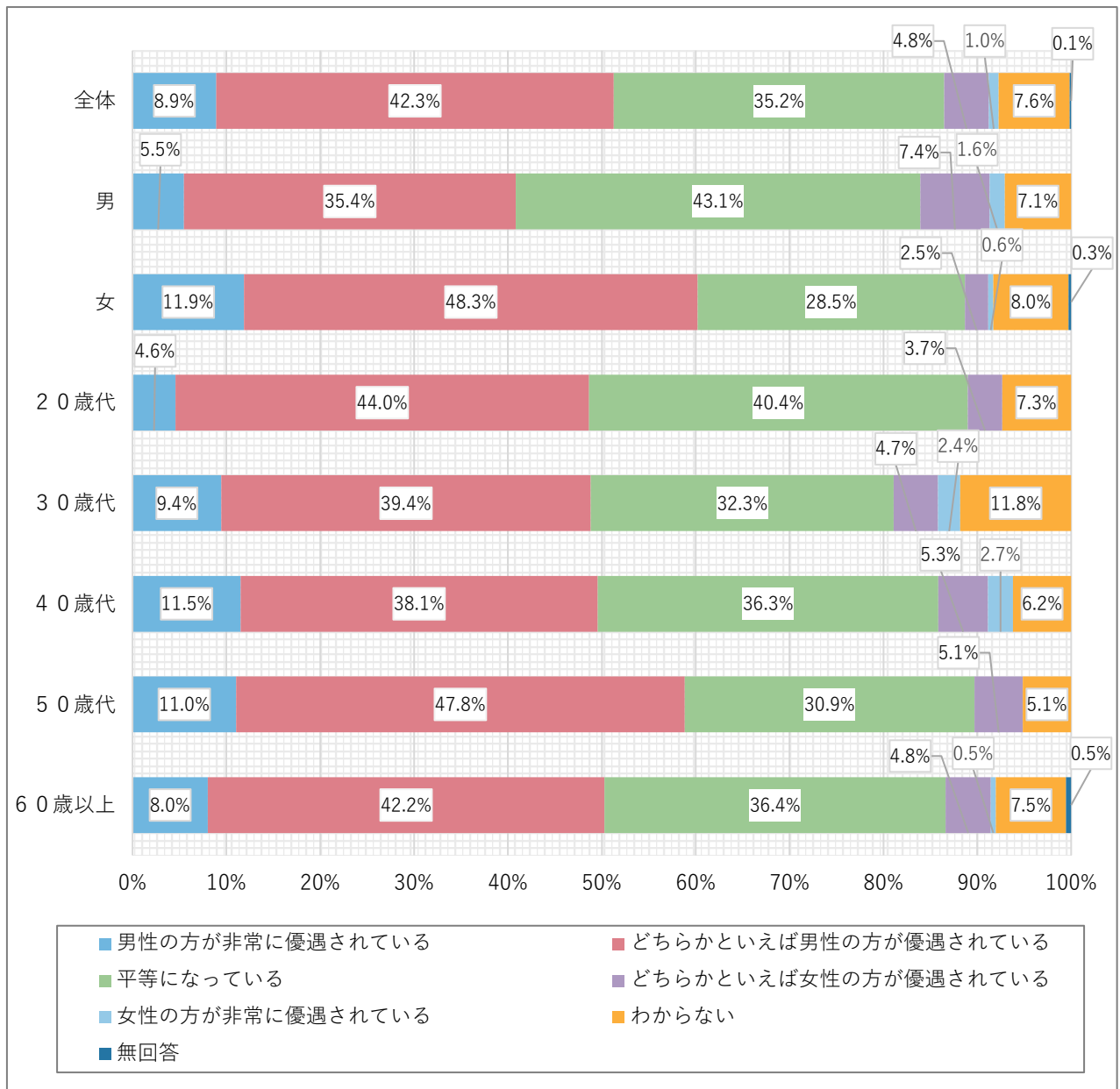
家庭生活における男女の地位について、全体でみると「男性の方が優遇されている」という回答は51.2%、「平等になっている」という回答は35.2%となっています。

性別でみると「男性の方が優遇されている」という回答は男性の40.9%に対し、女性は60.2%と女性の方が19.3ポイント高く、反対に「平等になっている」という回答は男性の43.1%に対し、女性は28.5%と男性の方が14.6ポイント高くなっており、男女間での違いが大きくなっています。

前回調査では、性別でみると「男性の方が優遇されている」と回答した男性は41.1%、女性は54.0%と12.9ポイント差となっており、「平等になっている」と回答した男性は40.1%、女性は32.9%と7.2ポイント差となっていることから前回調査よりも乖離が大きくなっています。

【家庭生活における男女の地位の平等感】

(n=673)



問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

(2) 地域では

地域における男女の地位について、全体でみると「男性の方が優遇されている」という回答は55.0%、「平等になっている」という回答は25.3%となっています。

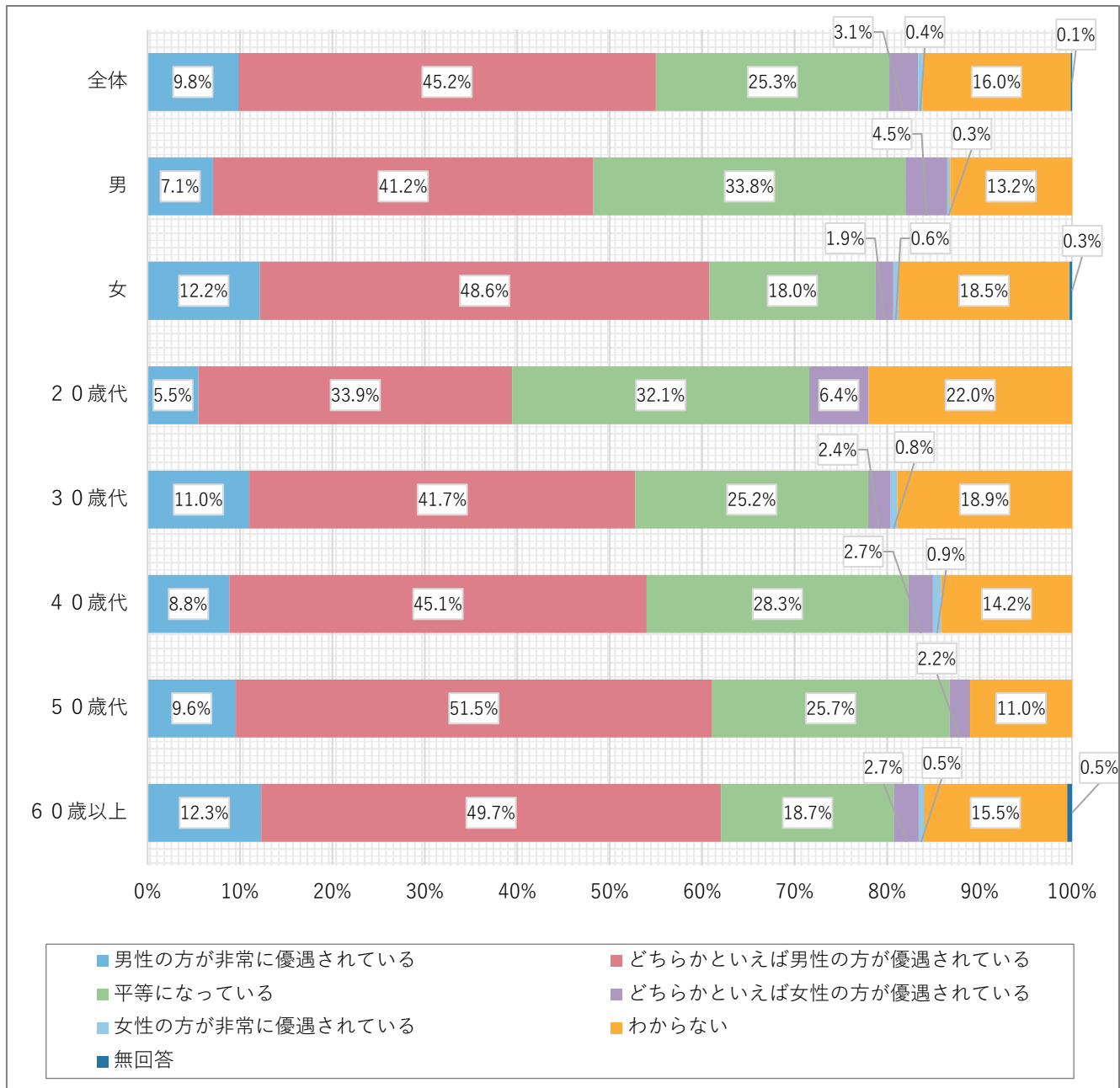
性別でみると「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性の48.3%に対し、女性は60.8%と女性の方が12.5ポイント高く、反対に「平等になっている」と回答した割合は男性の33.8%に対し、女性は18.0%と男性の方が15.8ポイント高くなっています。

年代別にみると「男性の方が優遇されている」と回答する割合は、年代が上がるにつれ、高くなっています。

前回調査と比較すると「男性の方が優遇されている」と回答した男女間のポイント差は、今回調査の方がやや大きくなっていますが、回答の割合の傾向として、変化はあまり見られませんでした。

【地域における男女の地位の平等感】

(n=673)



問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

(3) 慣習・しきたり等では

慣習・しきたり等における男女の地位について、全体でみると「男性の方が優遇されている」という回答は72.1%と高く、「平等になっている」という回答の15.6%を大きく上回っています。

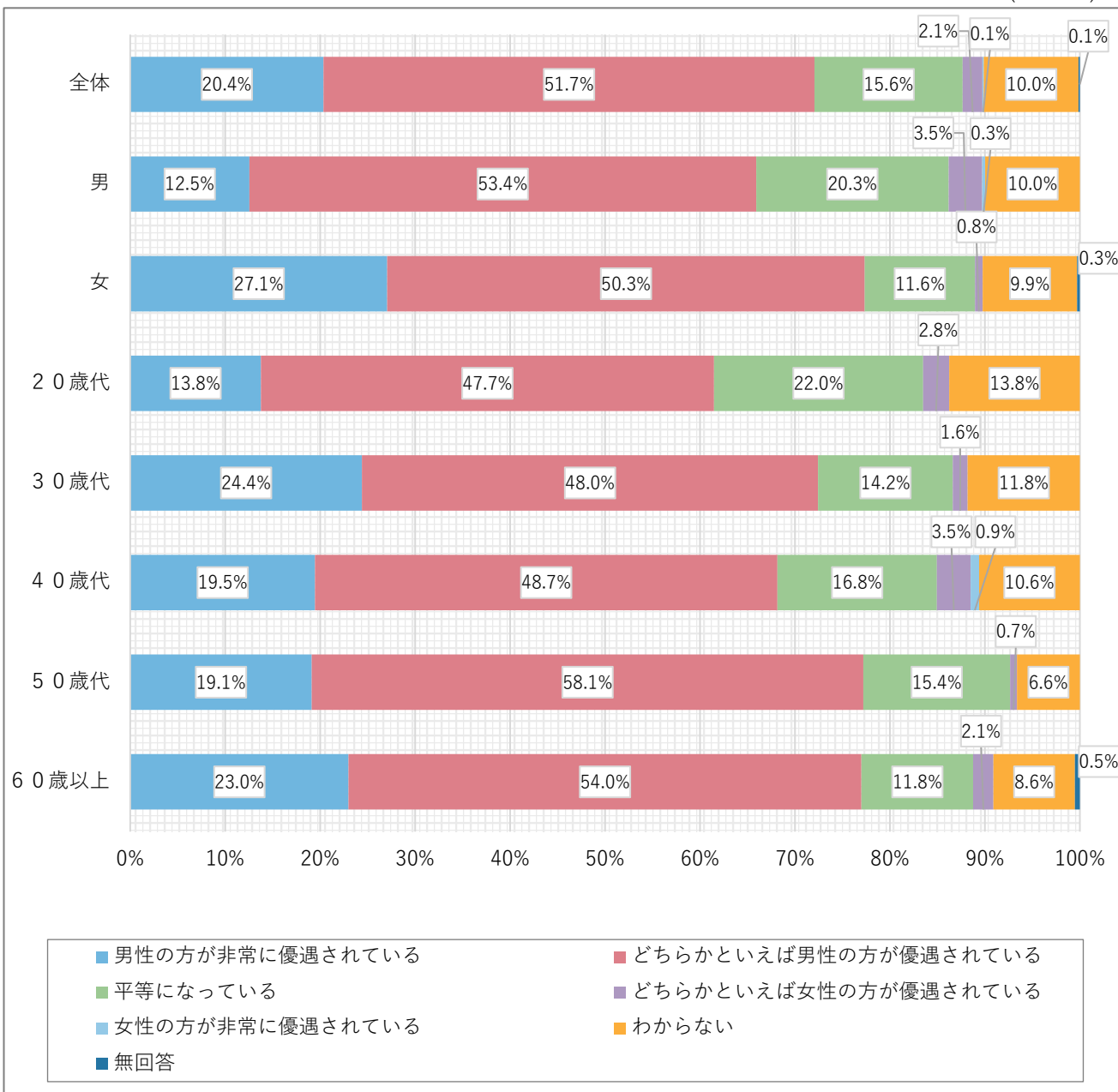
性別でみると「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性の65.9%に対し、女性は77.4%と女性の方が11.5ポイント高く、反対に「平等になっている」と回答した割合は、男性の20.3%に対し、女性は11.6%と男性の方が8.7ポイント高くなっています。

年代別でみると「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、20歳代が最も低く61.5%、50歳代が最も高く77.2%となっています。

年代別の傾向は、前回調査と同様の傾向を示しています。

【慣習・しきたり等における男女の平等感】

(n=673)



問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

(4) 学校教育では

学校教育における男女の地位について、全体でみると「平等になっている」という回答が62.3%と最も高く、「男性の方が優遇されている」という回答の15.2%を大きく上回っています。

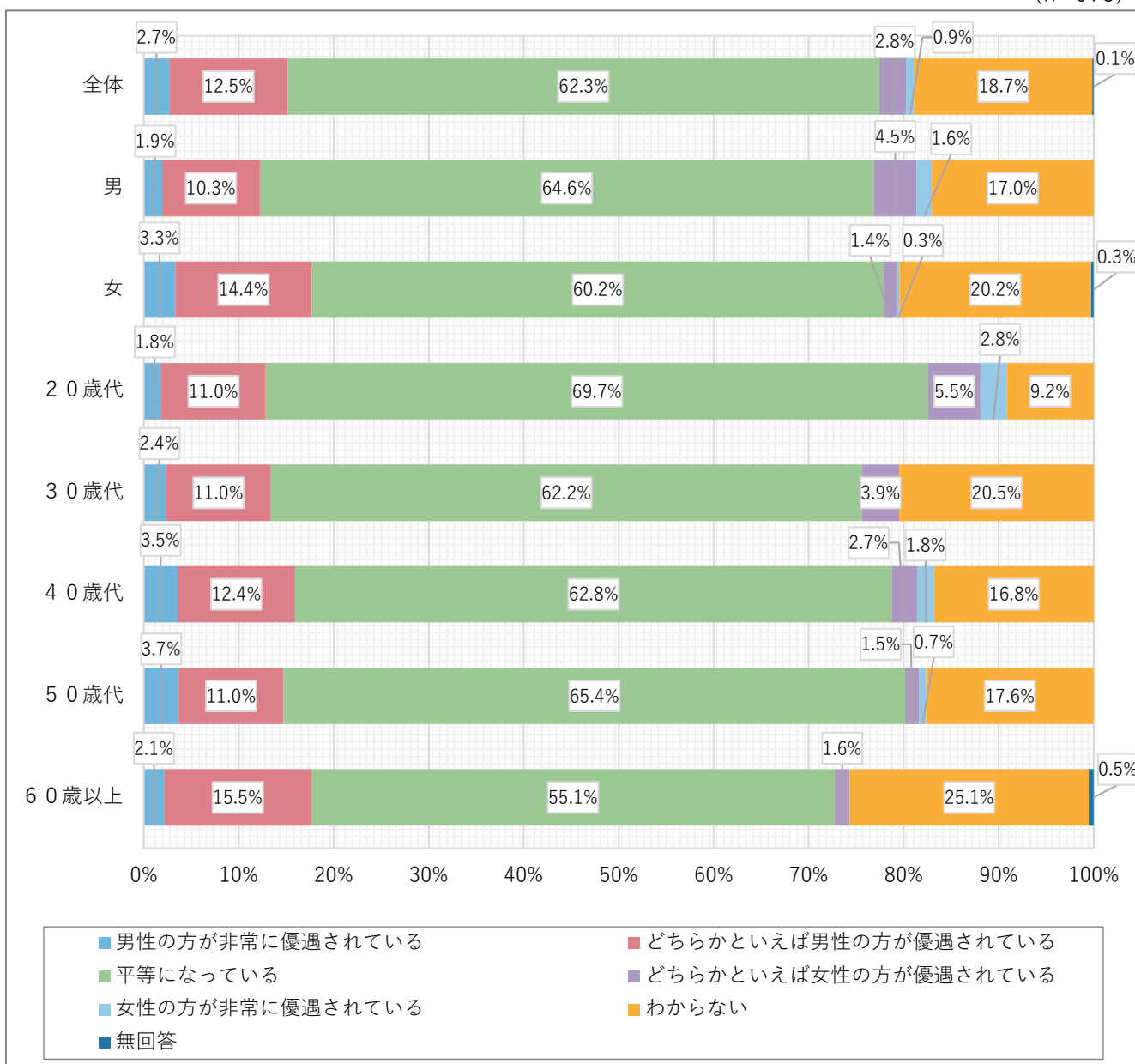
性別でみると、「平等になっている」と回答した割合は、男性の64.6%に対し、女性は60.2%と男性の方がわずかに高く、反対に「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性の12.2%に対し、女性は17.7%と女性の方がわずかに高くなっています。

年代別でみると、「平等になっている」と回答した割合は、60歳以上を除くすべての年代ではいずれも60%を超えており、20歳代が69.7%と最も高くなっています。

前回調査では、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、全体でみると10%を下回っていましたが、今回の調査では性別、年代別でも10%を超えており、「平等になっている」と回答した割合も数%下がっています。

【学校教育における男女の地位の平等感】

(n=673)



問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

(5) 職場では

職場における男女の地位について、「男性の方が優遇されている」という回答は全体でみると44.9%、「平等になっている」という回答は35.8%でした。

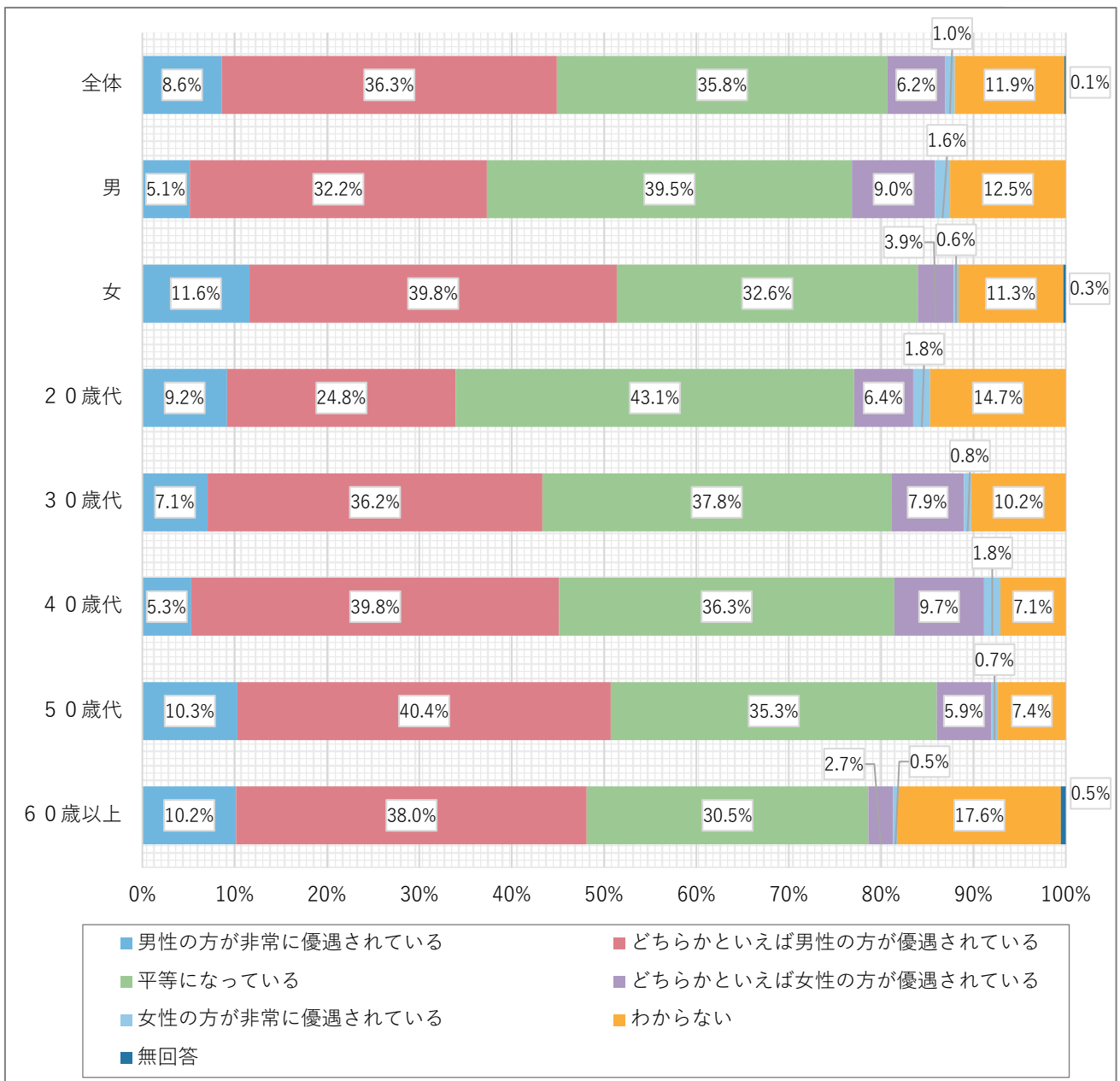
性別でみると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性の37.3%に対し、女性は51.4%と14.1ポイント女性の方が高く、「平等になっている」と回答した割合は、男性の39.5%に対し、女性は32.6%と6.9ポイント男性の方が高くなっています。

年代別でみると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、20歳代が最も低く34.0%、50歳代が最も高く50.7%となっています。20歳代では「平等になっている」と回答した割合が「男性の方が優遇されている」を上回りました。

前回調査と比較すると、いずれの年代でも「平等になっている」と回答した割合が増えています。

【職場における男女の地位の平等感】

(n=673)



問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

(6) 政治や行政では

政治や行政における男女の地位について、全体で見ると「男性の方が優遇されている」という回答は70.7%、「平等になっている」という回答は15.3%となっています。

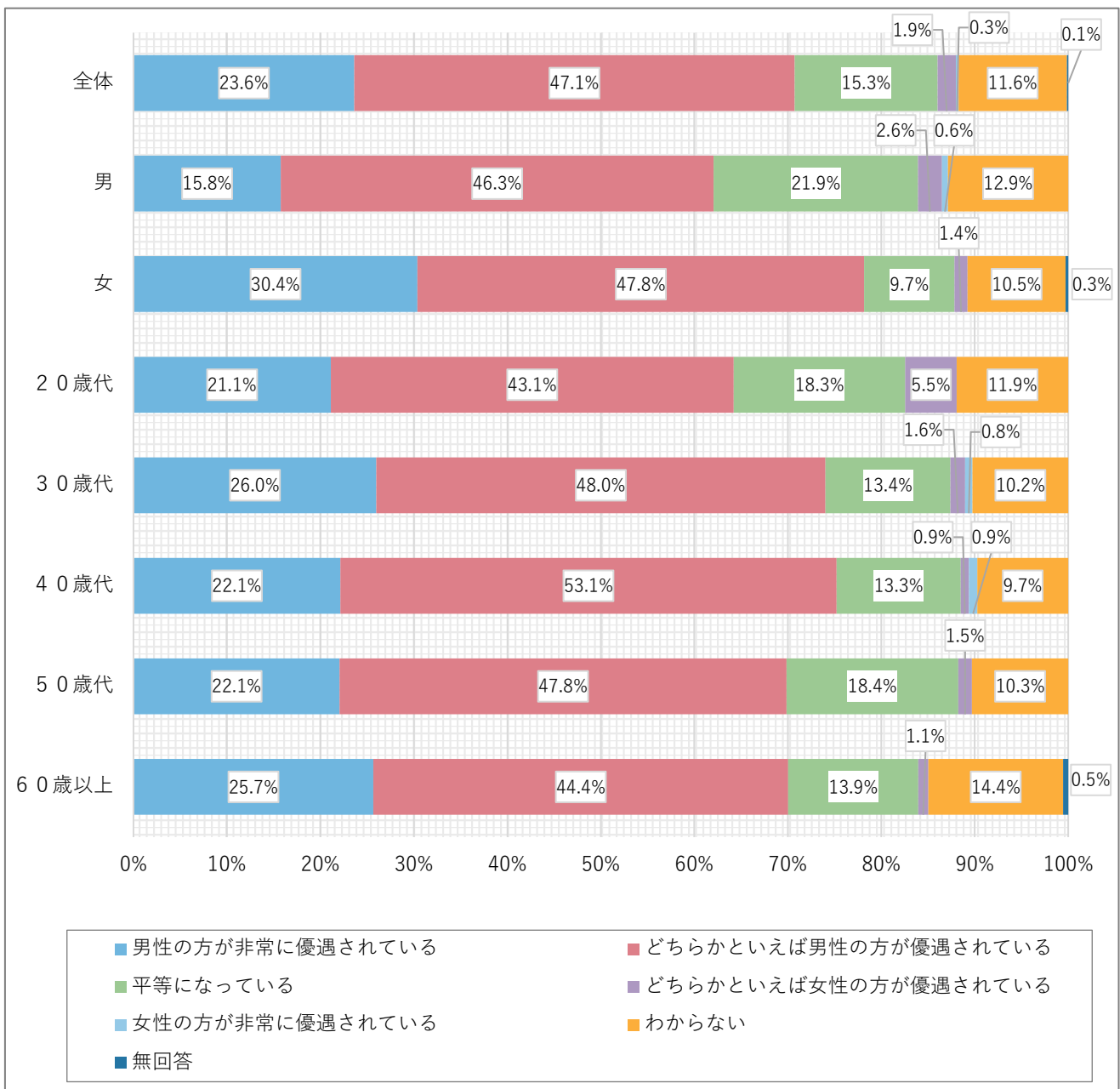
性別で見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性の62.1%に対し、女性は78.2%と16.1ポイント女性の方が高くなっています。

年代別で見るとすべての年代で「男性の方が優遇されている」という回答が60%を超えており、40歳代で75.2%と最も高くなっています。

前回調査と比べると、全体で「男性の方が優遇されている」と回答した割合が50.4%だったのに対し、今回調査では70.7%と20ポイント以上高くなっています。

【政治や行政における男女の地位の平等感】

(n=673)



問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

(7) 法律や制度では

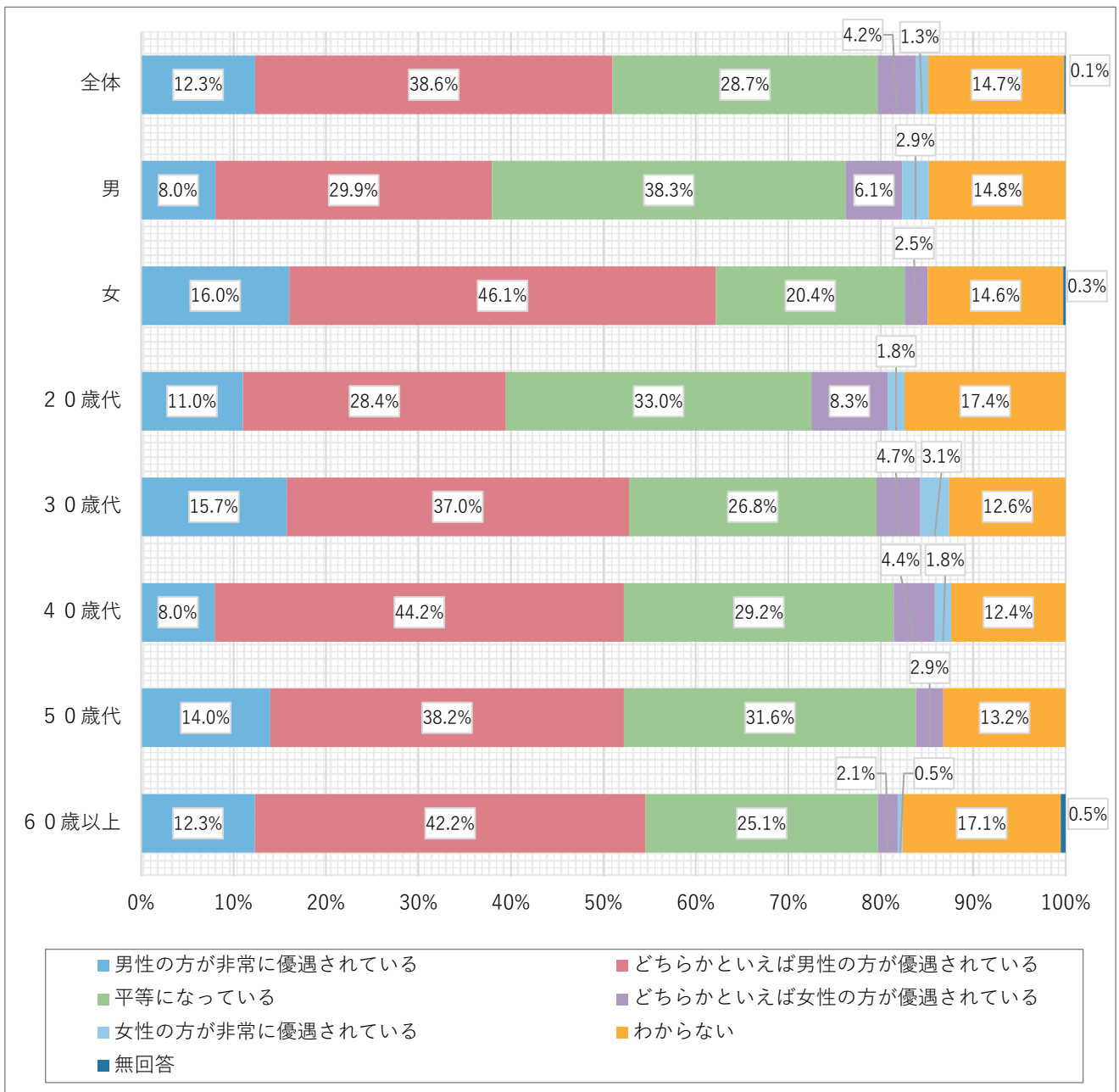
法律や制度における男女の地位について、全体でみると「男性の方が優遇されている」という回答は50.9%、「平等になっている」という回答は28.7%となっています。

性別でみると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性の37.9%に対し、女性は62.1%と女性の方が24.2ポイント高く、大きな差となっています。

年代別でみると、20歳代以外のすべての年代で「男性の方が優遇されている」と回答した割合が50%を超えており、前回調査と比較すると20歳代も含めたすべての年代で「男性の方が優遇されている」と回答している割合が増えています。

【法律や制度における男女の地位の平等感】

(n=673)



問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

(8) 社会全体として

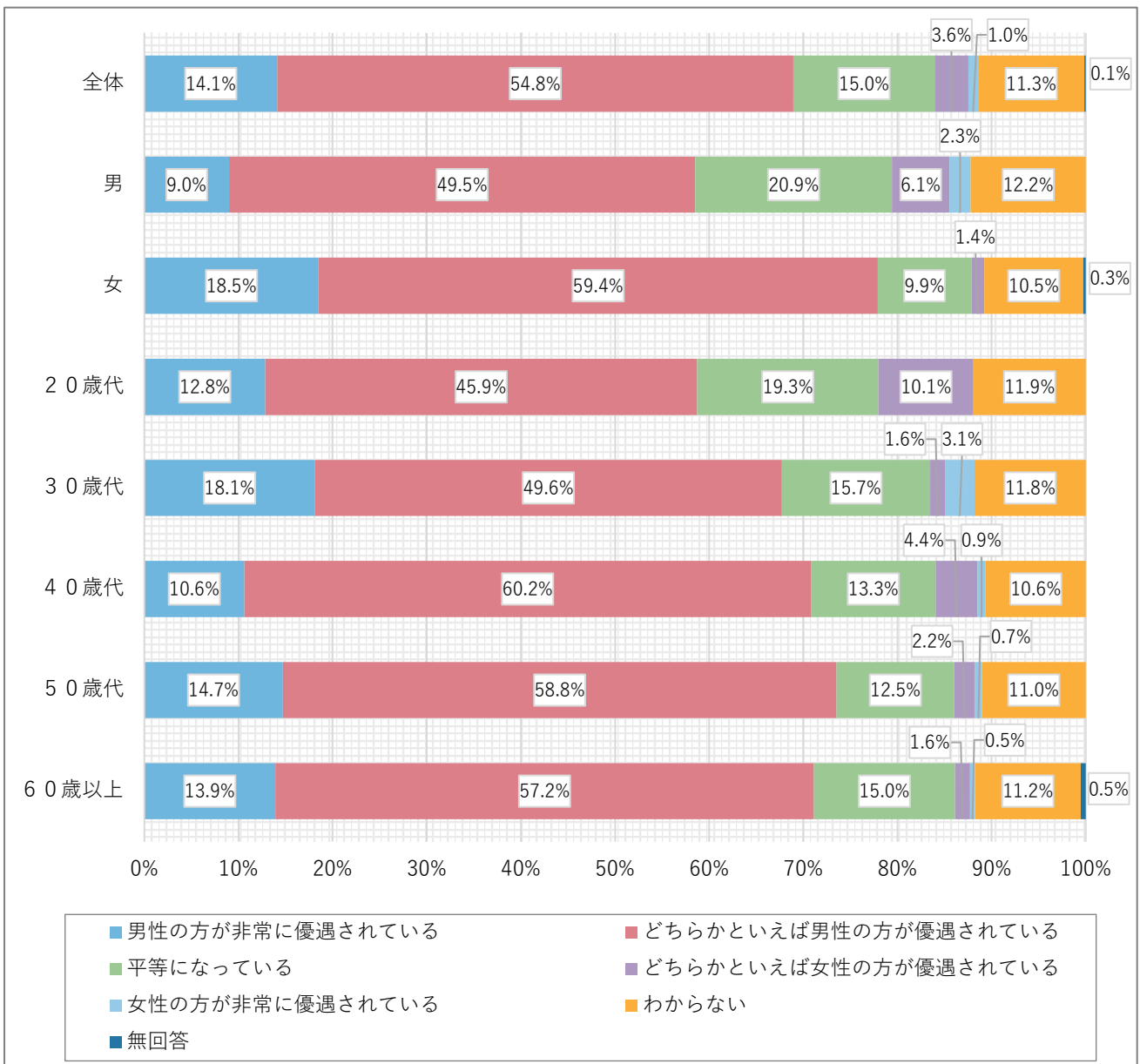
社会全体における男女の地位について、全体で見ると「男性の方が優遇されている」という回答は68.9%、「平等になっている」という回答は15.0%となっています。

性別で見ると、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、男性は58.5%、女性は77.9%となっており、19.4ポイント女性の方が高くなっています。反対に、「平等になっている」と回答した割合は男性で20.9%、女性で9.9%となっており11.0ポイント男性の方が高くなっています。

年代別で見ると、40歳代以上の年代では、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は70%を超えており、50歳代で73.5%と最も高くなっています。一方、「平等になっている」と回答した割合はいずれの年代でも20%未満となっており、前回調査と比較してもほとんどの年代で下回っています。

【社会全体における男女の地位の平等感】

(n=673)



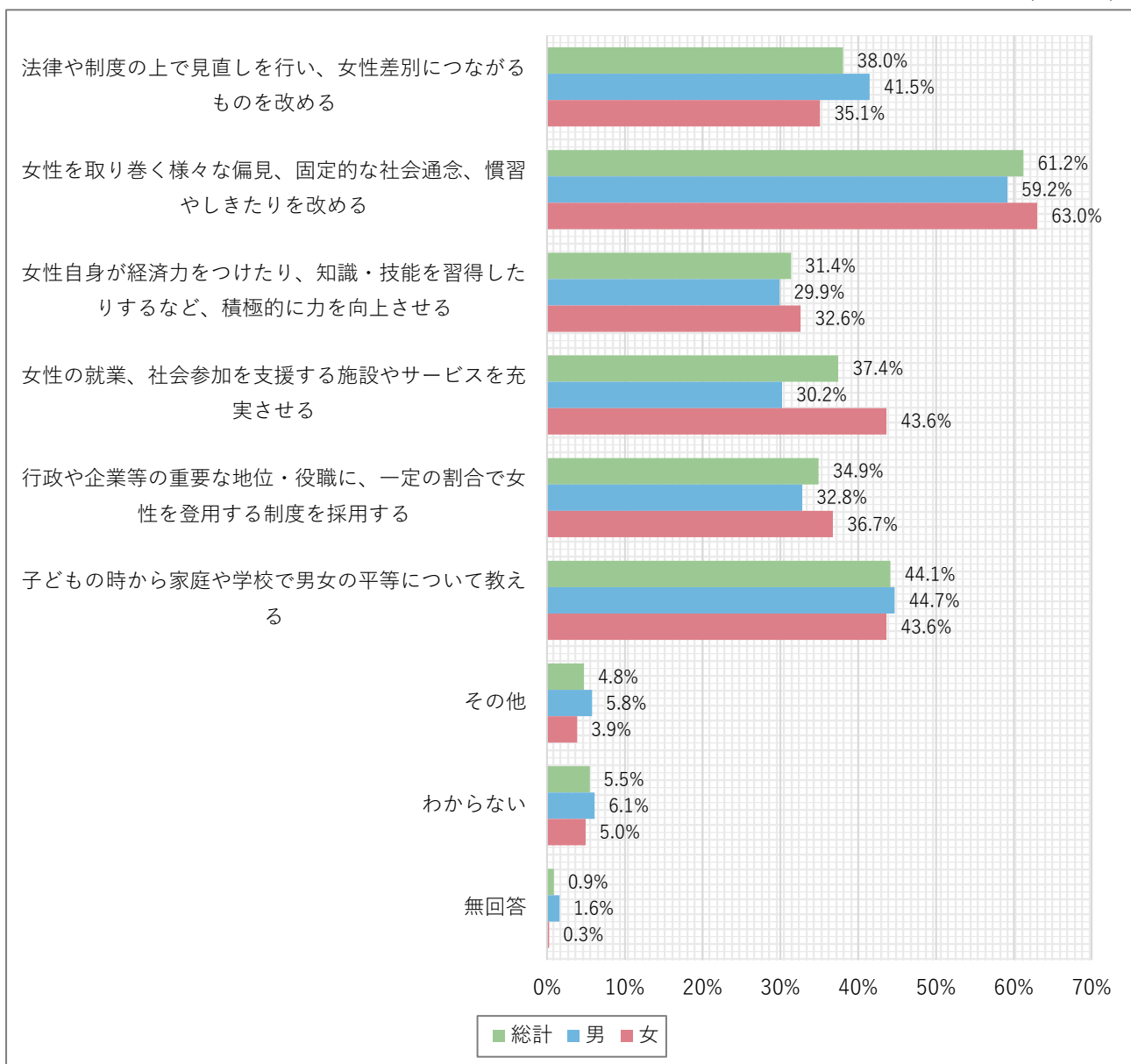
問3 社会のあらゆる分野で、男女が不平等を感じないようにするために、重要なことは何だと思えますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

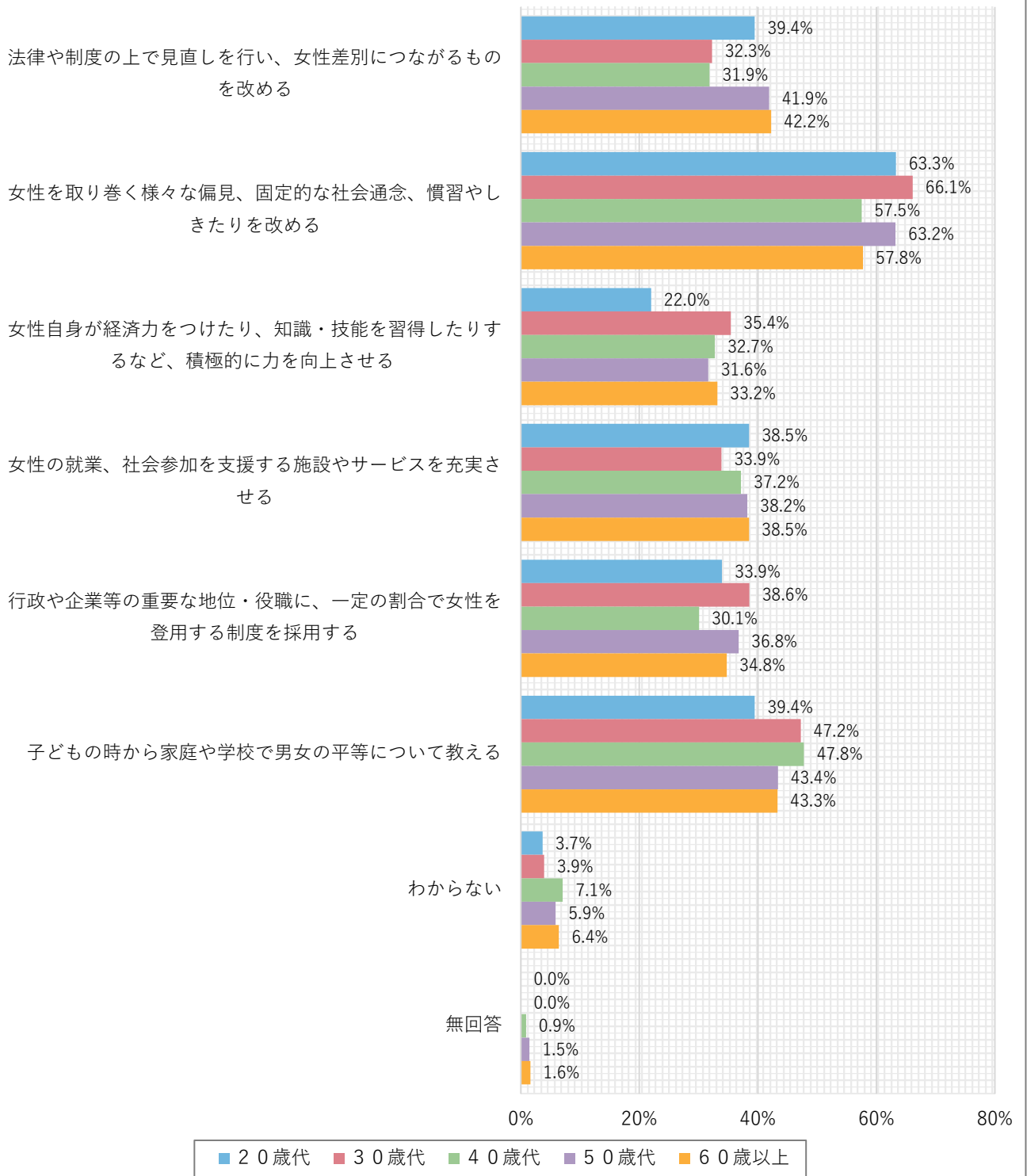
男女が社会のあらゆる分野で不平等を感じないようにするために重要なことについて尋ねたところ、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める」という回答が61.2%と最も高く、次いで、「子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える」が44.1%となり、以下「法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改める」38.0%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」37.4%の順でした。

右表にあるように年代別にみても、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める」がいずれの年代でも最も高くなっていました。

性別でみた場合

(n=673)





その他

- ・マスコミの報道などで過剰な女性優遇を装ったものを改める。(30歳代男性)
- ・男女で得意不得意を分かち合って生活できれば良いと考える。(60歳以上男性)
- ・女性に生まれたのだから当たり前だと思う。現状維持。(20歳代女性)
- ・女性に強く言うとセクハラになるから上司は女性に優しく、若手男性社員には厳しい社会になっているので、男性へのセクハラも強く取り締まってほしい。(20歳代男性)
- ・ぴったりの平等は男女で出来ないなので、身体や考え方も違うのでお互いが補えるような社会になれば良いと思う。(50歳代男性)
- ・性別撤廃。(50歳代男性)
- ・男女2つの性別以外の性もあることへの理解を深めること。(40歳代女性)
- ・お互いによく話し合っって意見交換する。(50歳代女性)
- ・思いやりや相手の立場に立って物事を考える。(30歳代男性)
- ・助け合うことをまず教えるべきと思う。仲良くなるのではなく、協力しあう。責任を分かつことを教育する。(60歳以上女性)
- ・政治(行政、管理職)に高齢の男性が多く占めていることが改善されない要因。(60歳以上女性)
- ・政治や教育現場などで一定の割合で女性を登用すると表現すること自体が差別。(40歳代女性)
- ・男女差別を実際に行っている、または、考えがちな年代をリサーチし、その対象に向けて意識を変えていけるようにしていく。(40歳代男性)
- ・不平等と感じないようにするには、男女差で避けられない違いについて社会全体・年齢層に関わらず理解する必要があるのではないか。(30歳代男性)

等

3 家庭生活全般について

問4 あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。

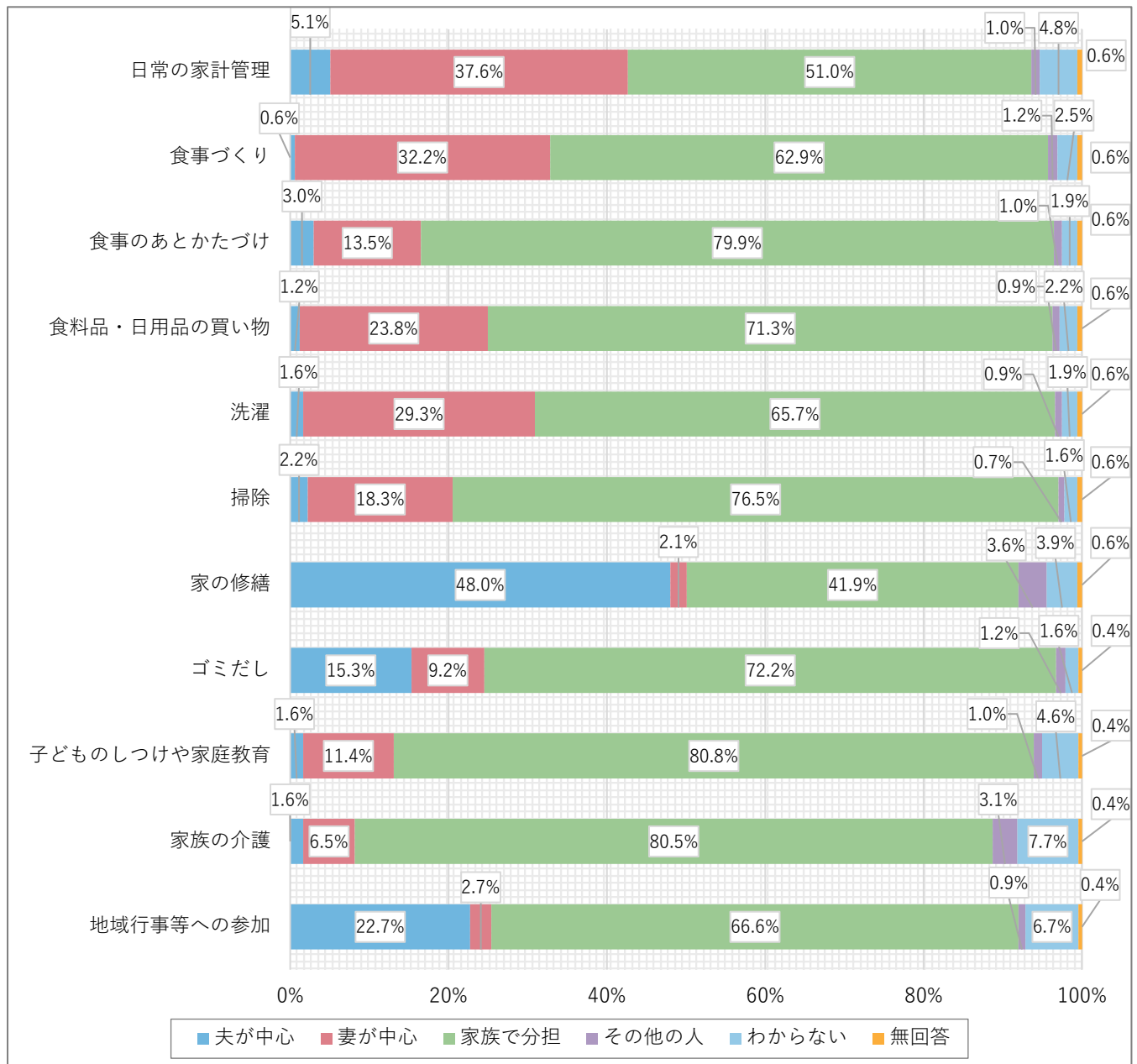
日常の家事（グラフ中11項目）の望ましい分担について尋ねたところ、ほぼすべての項目で「家族で分担」という回答が最も高い割合を示しています。

項目別でみると「家族で分担」という回答が最も多かったのは、「子どものしつけや家庭教育」の80.8%でした。「夫が中心」という回答が最も多かったのは、「家の修繕」48.0%で、「妻が中心」という回答が最も多い項目はありませんでした。

前回調査と比較すると、いずれの項目も「家族で分担」という回答が1.1ポイント～14.4ポイント増えています。最も変化の大きかった項目は「食事づくり」で、前回調査では「妻が中心」が47.5%、「家族で分担」が48.5%だったのに対し、今回調査では「妻が中心」が32.2%と15.3ポイント減少し、「家族で分担」が62.9%と14.4ポイント増加しています。

【望ましい家事の分担】

(n=673)



問4 あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。

日常の家事の望ましい分担について、男女間での意識の差が最も大きかったのが、「食事づくり」で「妻が中心」と回答した割合は男性が40.2%に対し、女性は25.4%と14.8ポイントの差があり、「家族で分担」と回答した割合は男性が54.3%に対し、女性は70.2%と15.9ポイントの差が生じています。

年代別で見たときに、「食事づくり」については、20歳代・30歳代で「妻が中心」と回答した割合は21.1%~25.2%に対し、40歳代・50歳代・60歳以上で「妻が中心」と回答した割合は、36.0%~38.1%と10ポイント以上の差があり、同様に「家族で分担」という回答は20歳代・30歳代では70%以上、40歳代・50歳代・60歳以上では60%以下と10ポイント以上の差がありました。

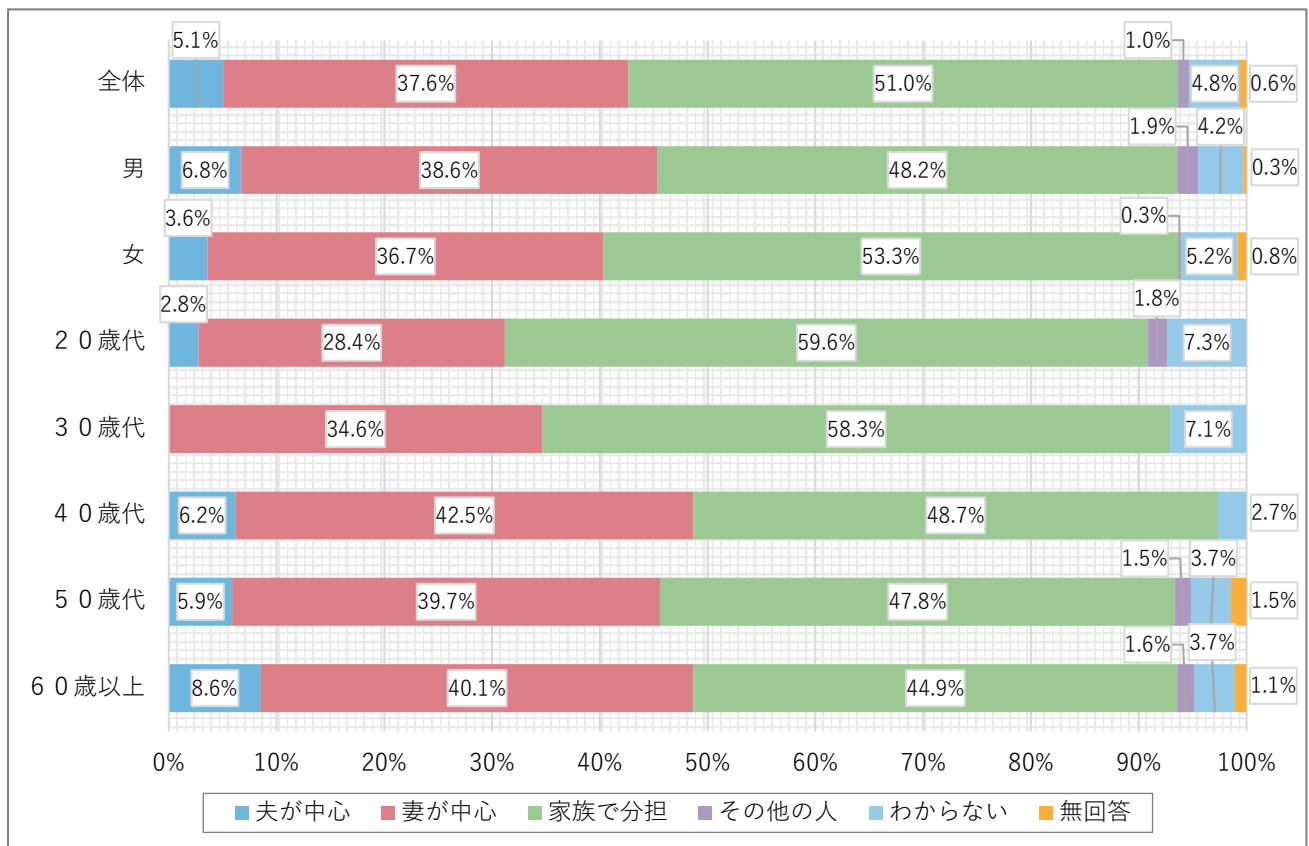
一方、20歳代と60歳以上では「食事づくり」において「夫が中心」という回答は0%でした。

また、30歳代では「日常の家計管理」と「洗濯」においては、「夫が中心」という回答は0%でした。

項目ごとの性別、年代別の調査結果は以下のとおりです。

【日常の家計管理】

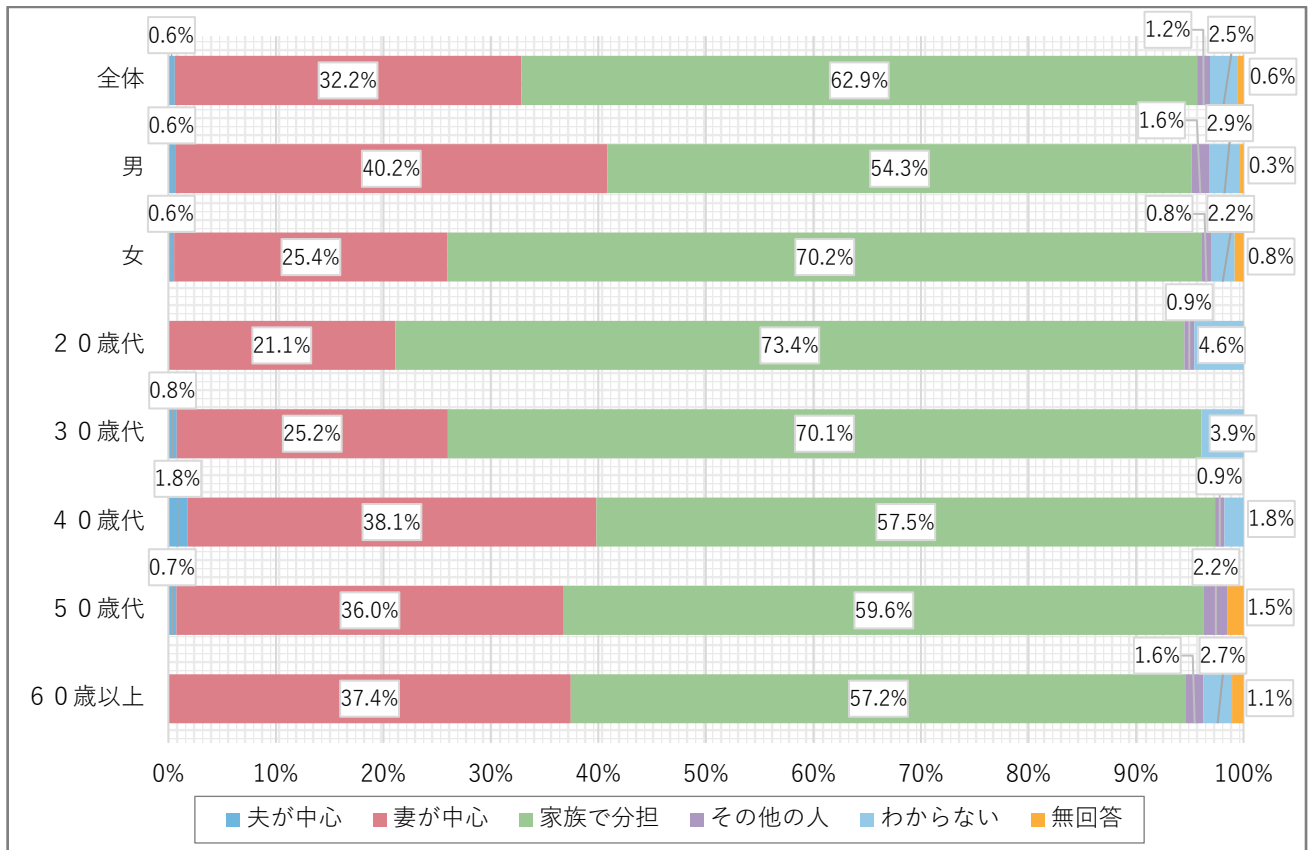
(n=673)



問4 あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。

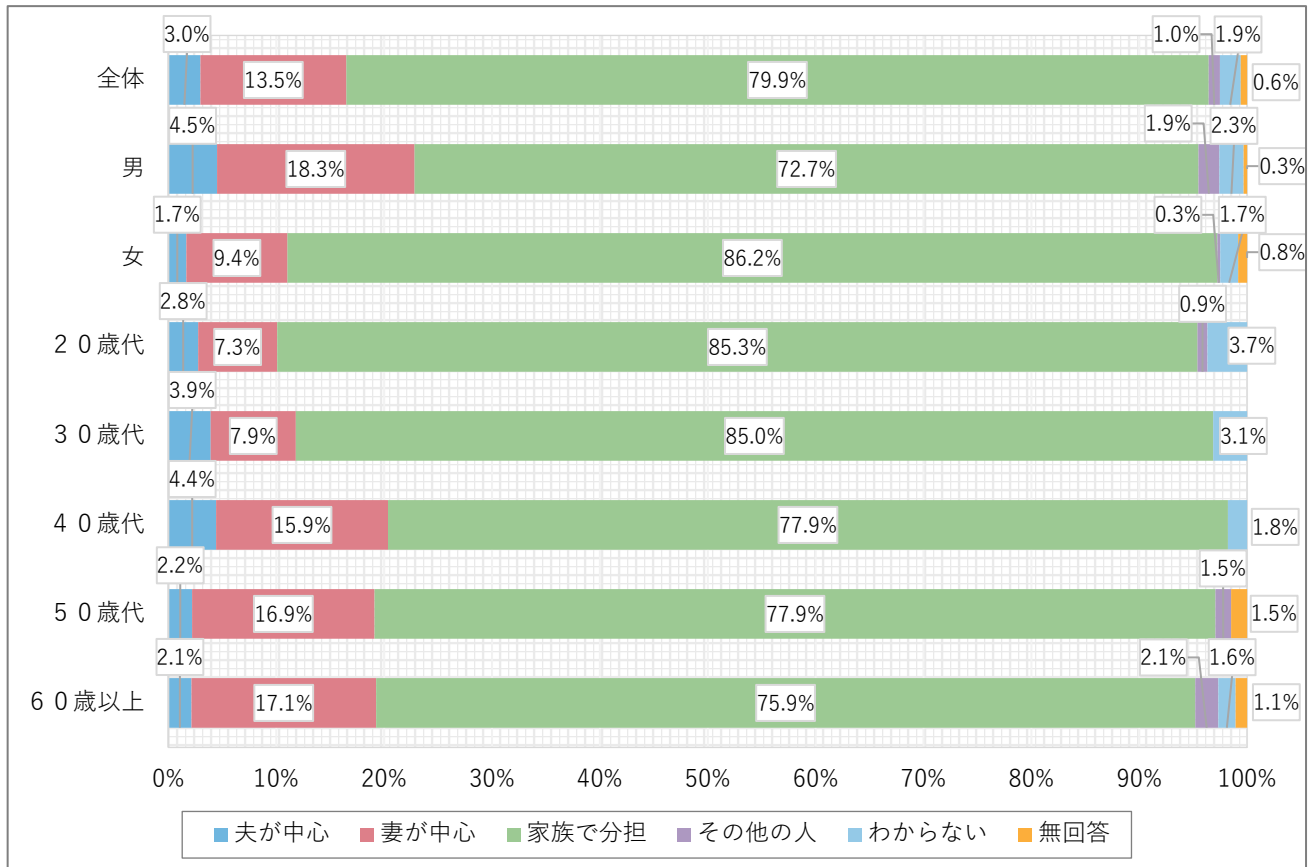
【食事づくり】

(n=673)



【食事のあとかたづけ】

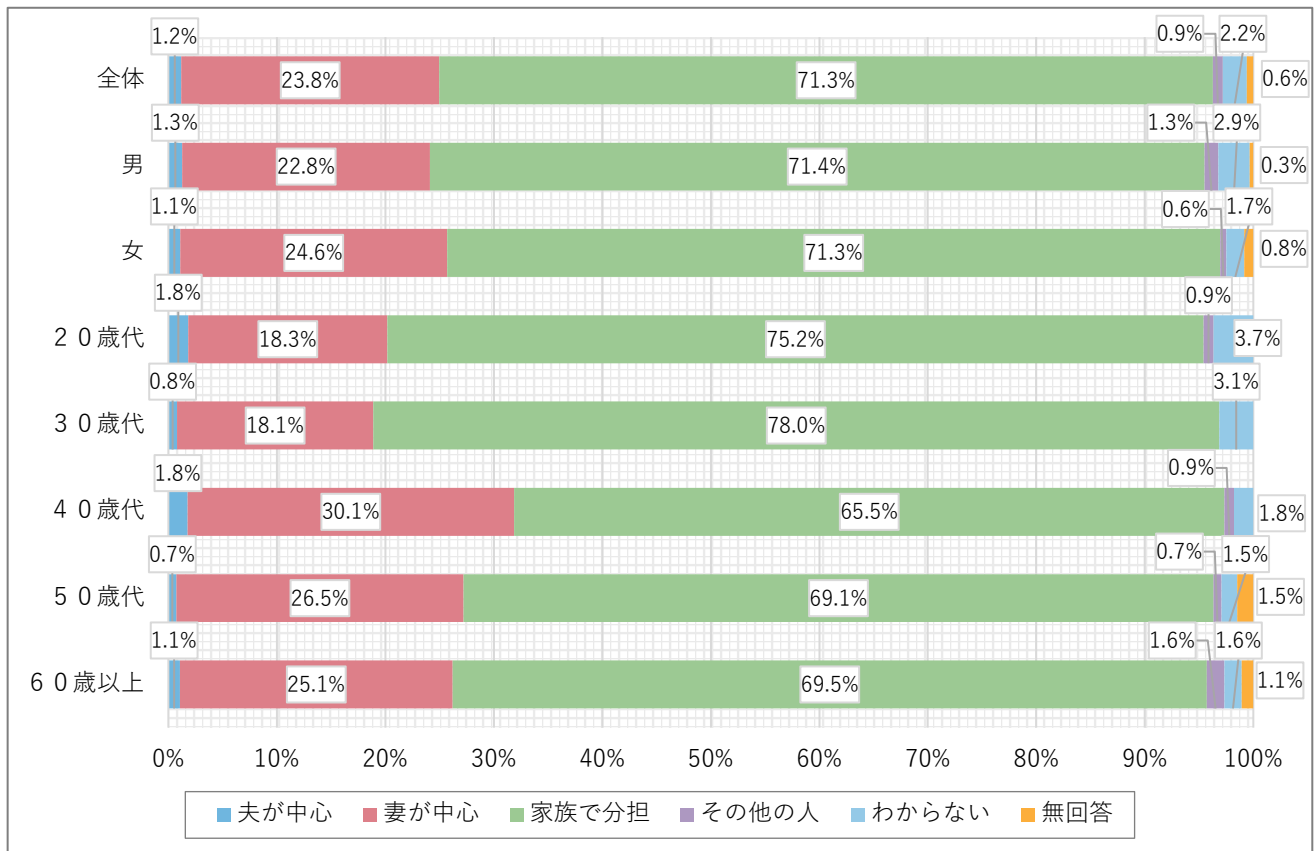
(n=673)



問4 あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください

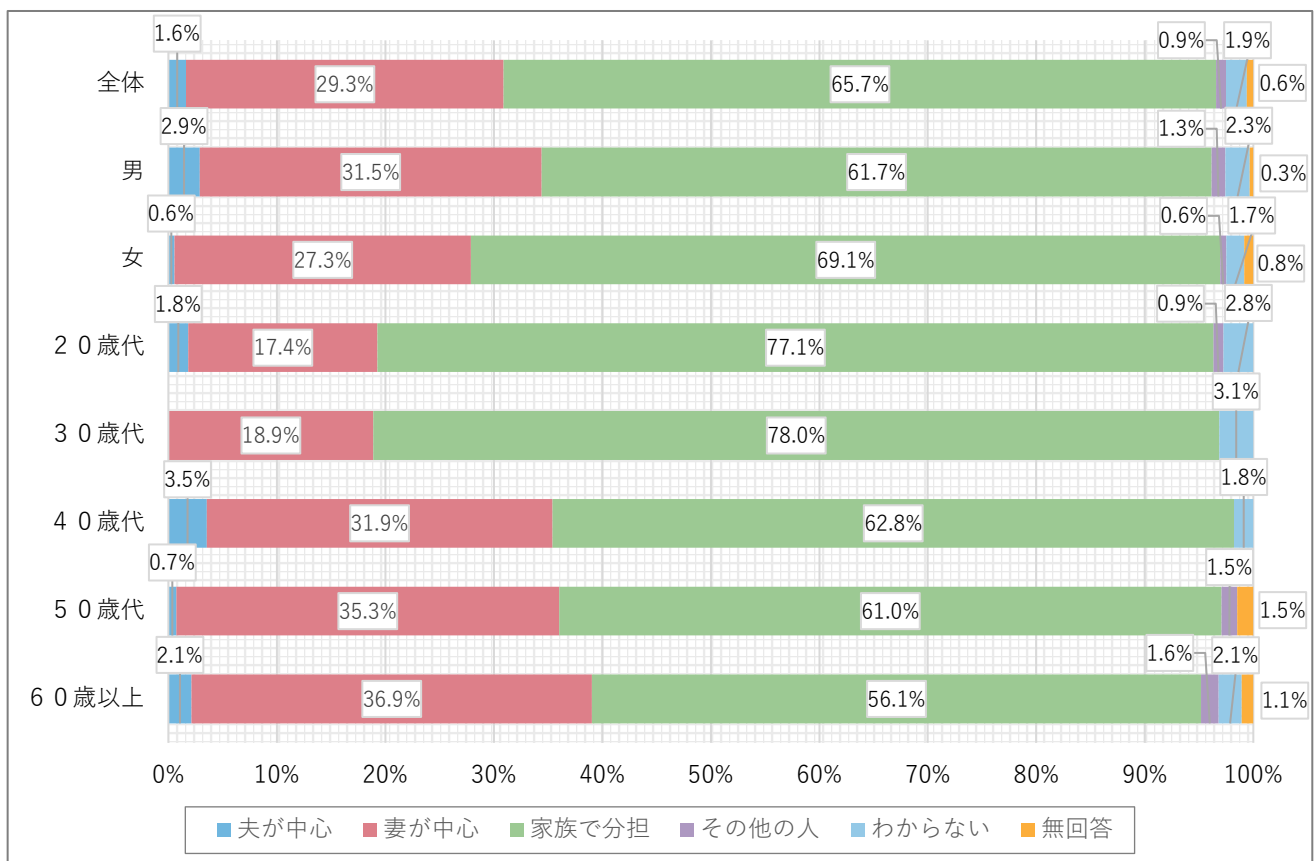
【食料品・日用品の買い物】

(n=673)



【洗濯】

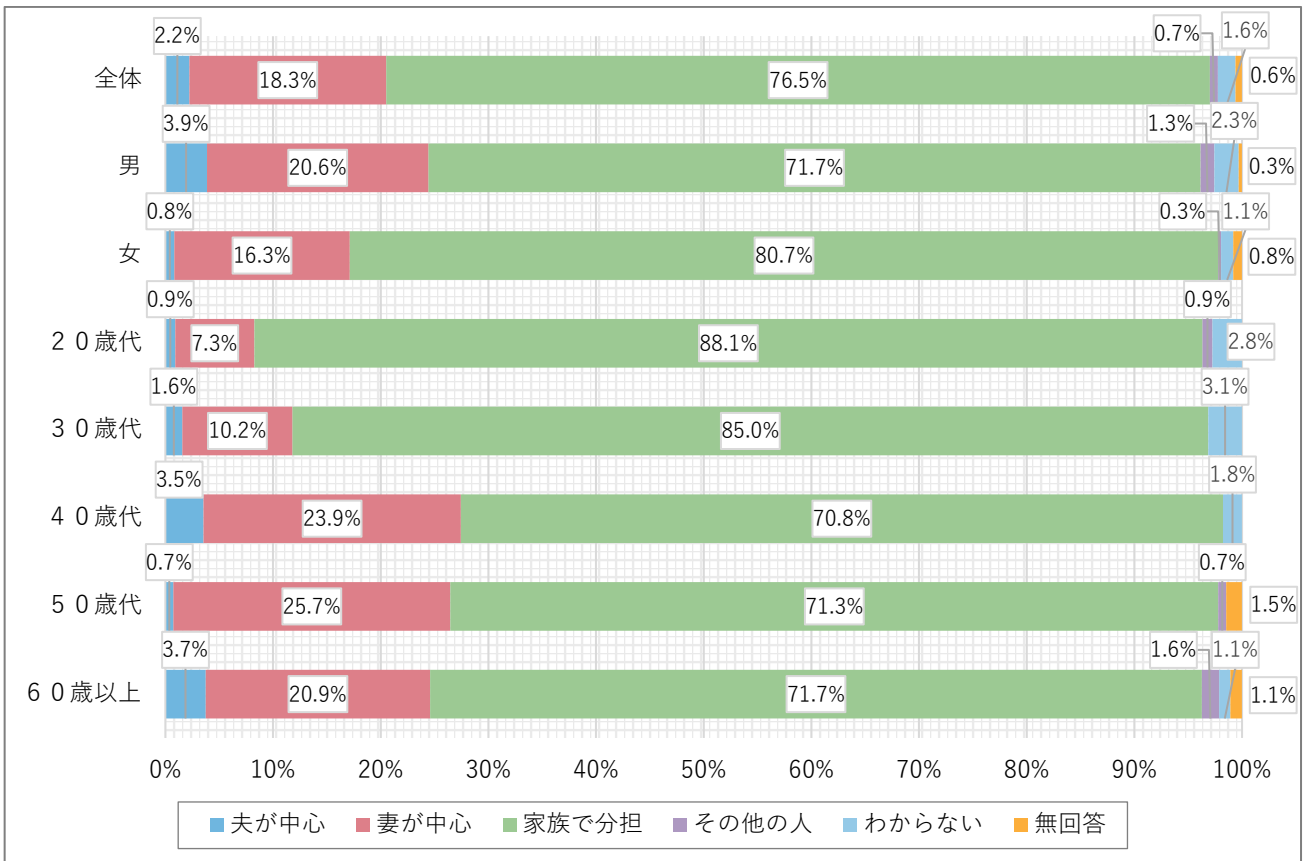
(n=673)



問4 あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。

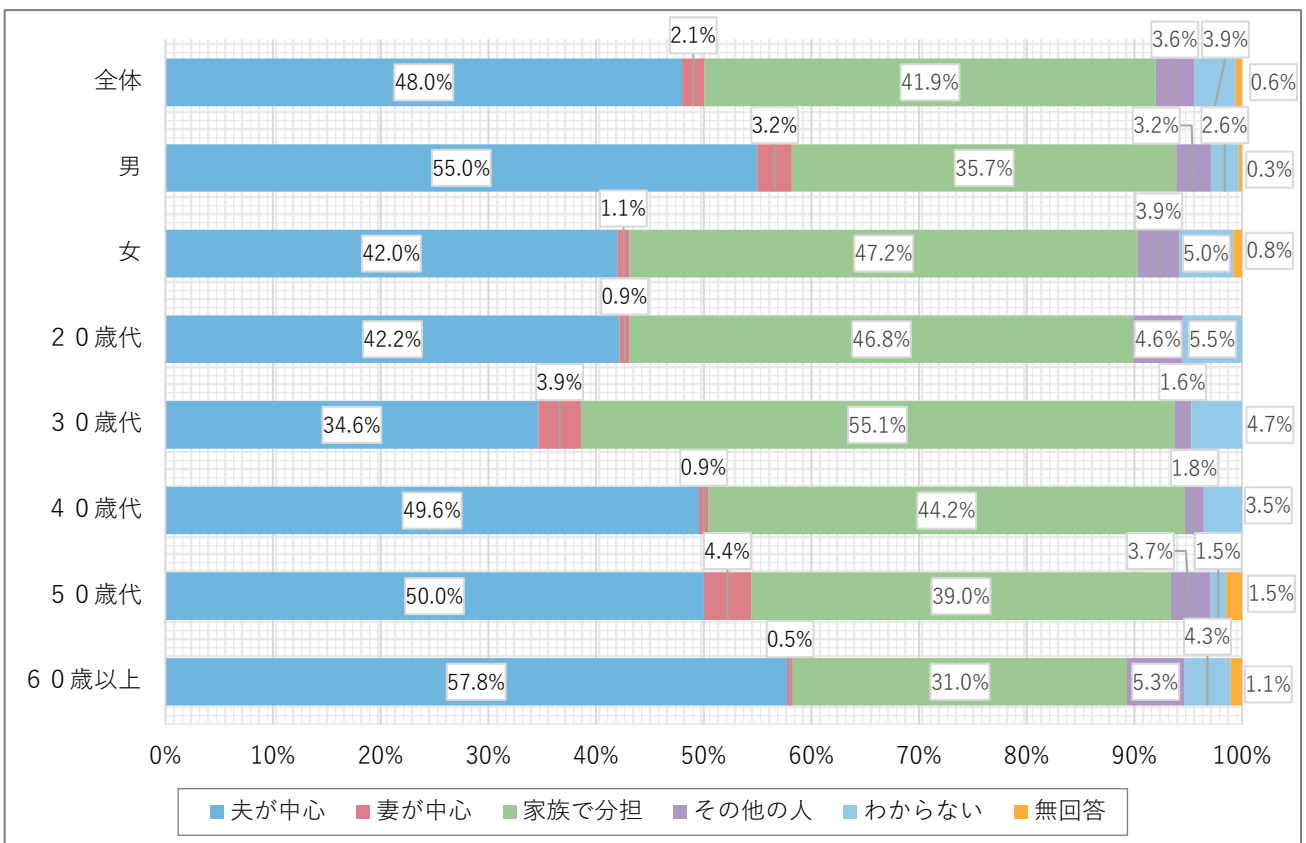
【掃除】

(n=673)



【家の修繕】

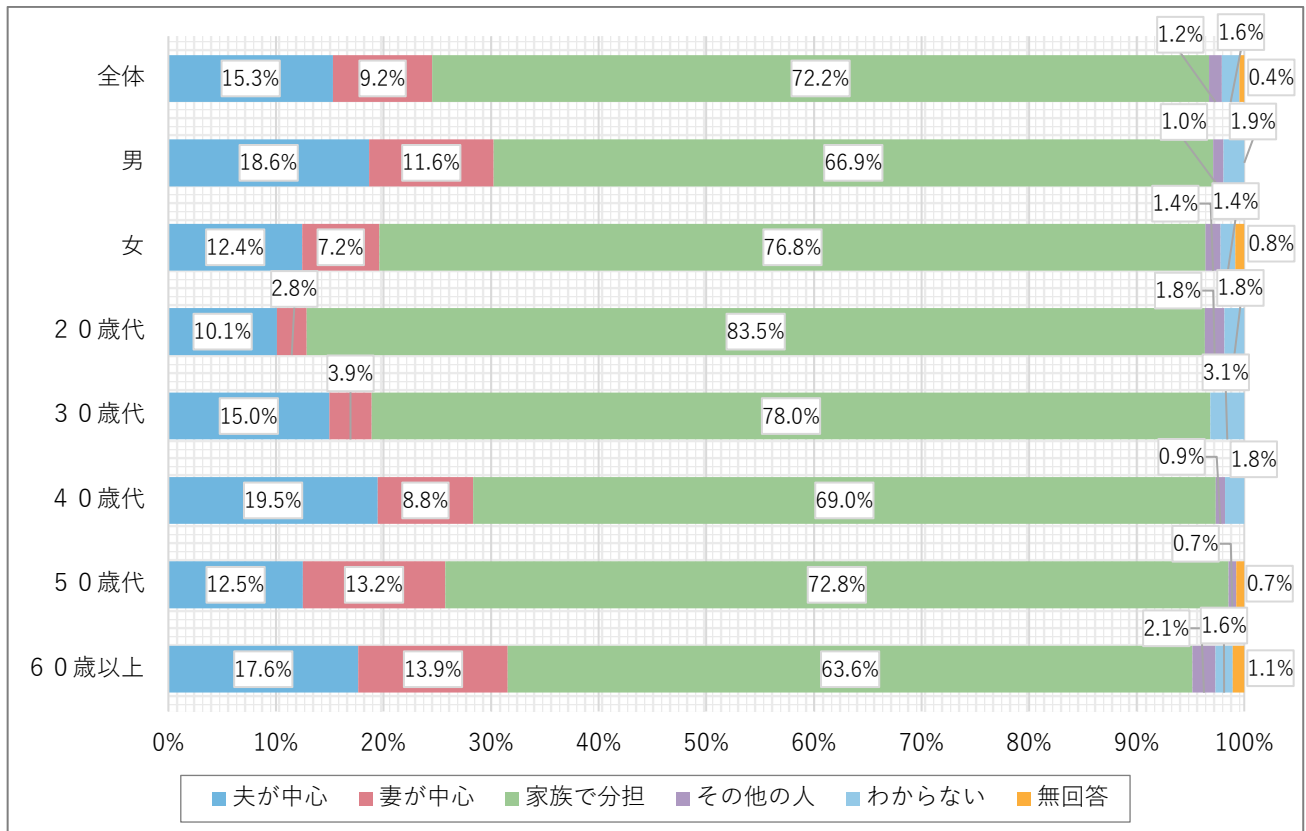
(n=673)



問4 あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。

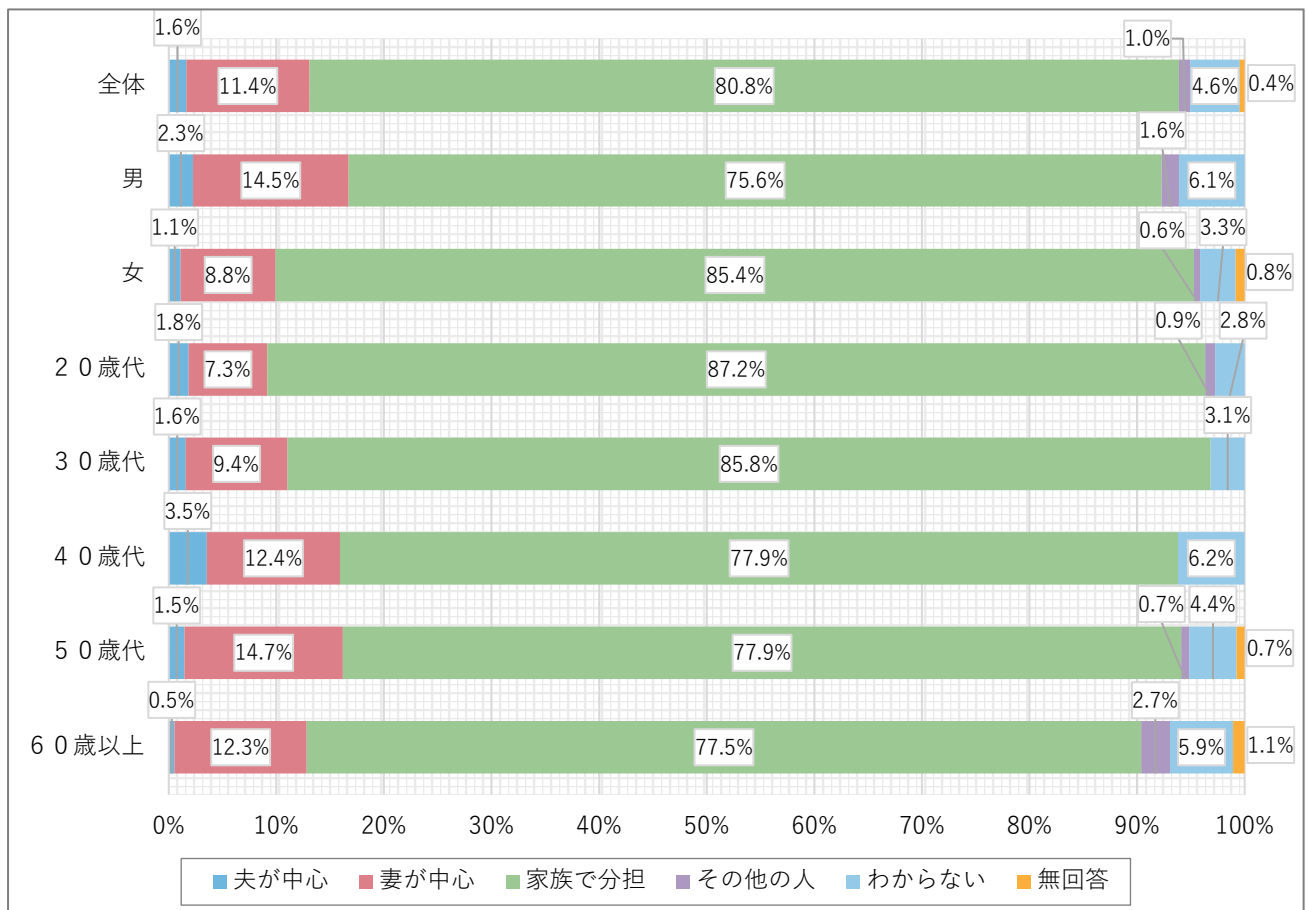
【ゴミだし】

(n=673)



【子どものしつけや家庭教育】

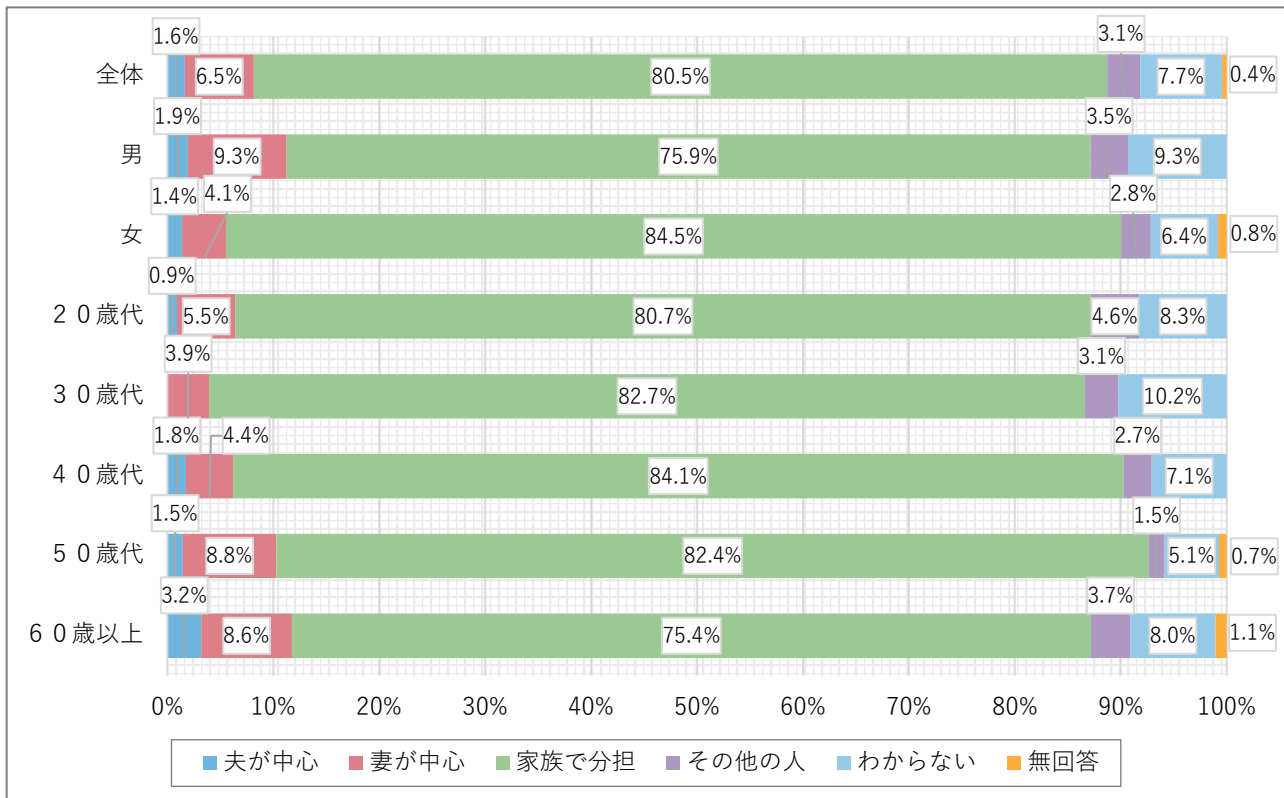
(n=673)



問4 あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。

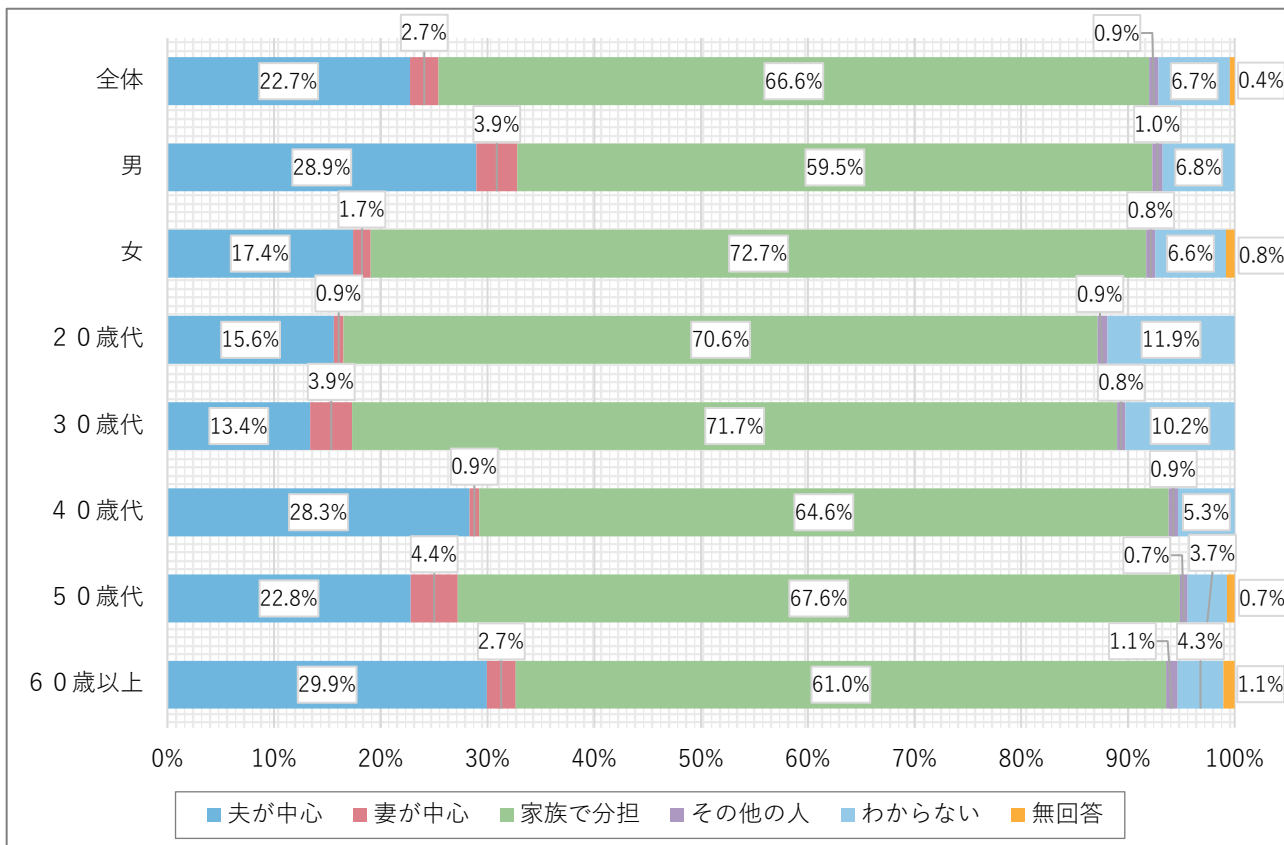
【家族の介護】

(n=673)



【地域行事等への参加】

(n=673)



問5 あなたの家庭では、日常の家事をどのように分担していますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。(既婚者のみ回答)

日常の実際の家事分担(グラフ中11項目)について、結婚している方に尋ねたところ、「妻が中心」という回答割合が最も高い項目は11項目中6項目におよび、『望ましい分担』と『実際の分担』のギャップが大きいことがうかがえます。

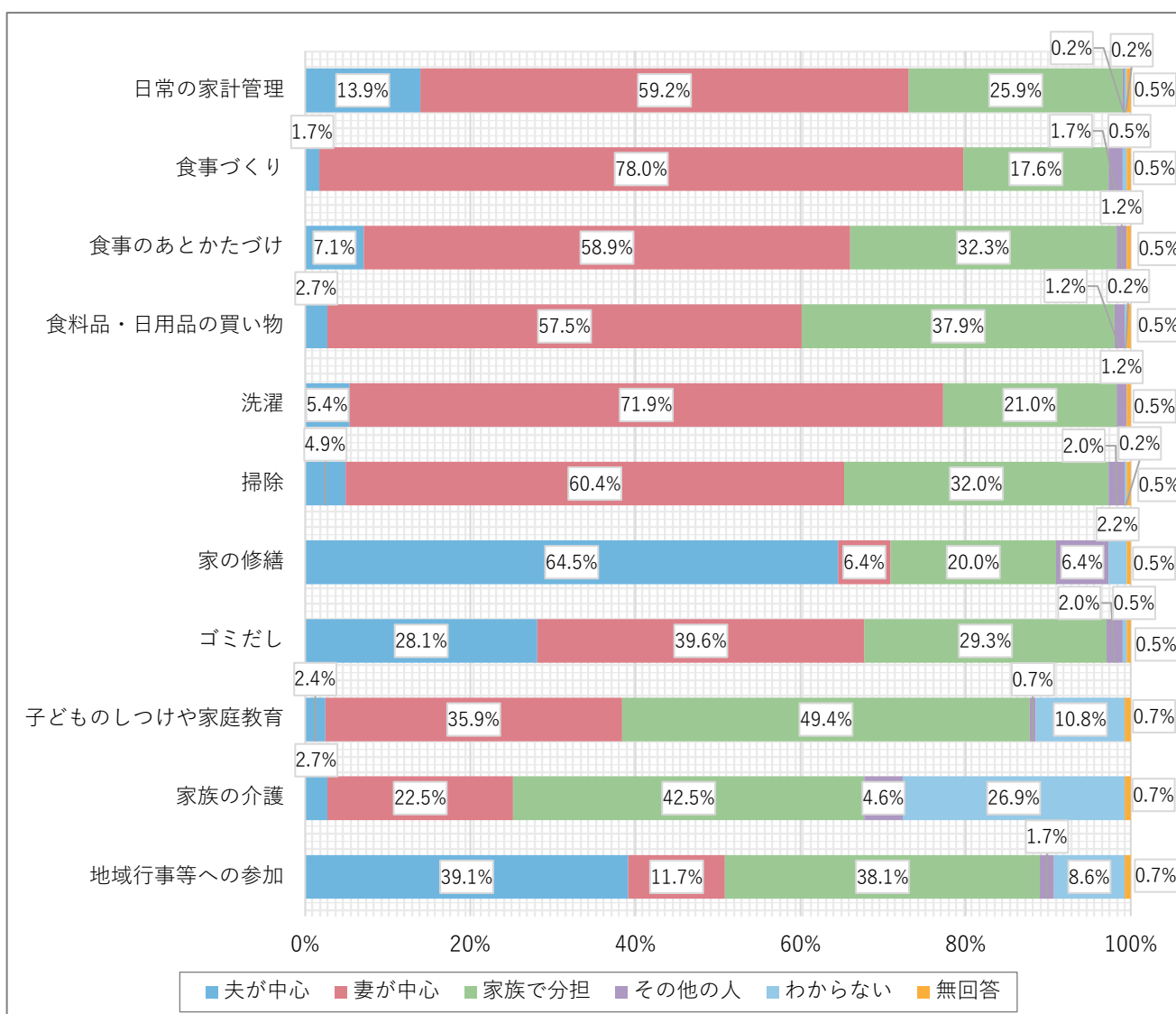
『望ましい分担』と『実際の分担』の乖離が大きかった項目は、「食事づくり」、「食事のあとかたづけ」、「洗濯」の順となっており、「妻が中心」という回答が実際の分担ではいずれも40ポイント以上高くなっていました。

『望ましい分担』と比較すると『実際の分担』ではすべての項目において、「妻が中心」という回答割合が増え、「家族で分担」という回答割合が減っています。

『実際の分担』において「夫が中心」という回答の割合が最も多いのは、「家の修繕」で『望ましい分担』より16.5ポイント高くなっています。

【実際の家事の分担】

(n=409)

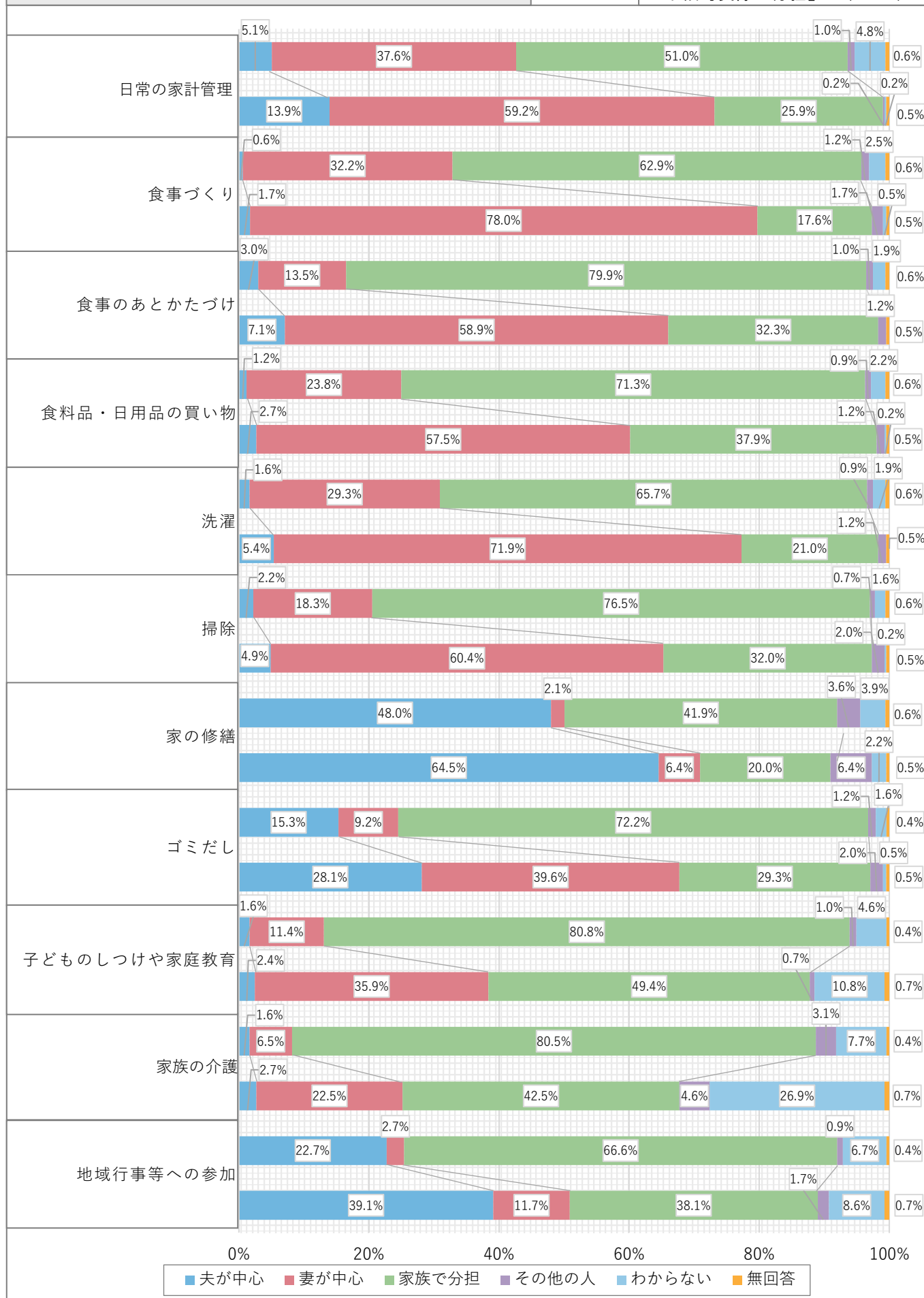


『望ましい分担』と『実際の分担』の比較は右のグラフのとおりです。それぞれの項目の上段が『望ましい分担』、下段が『実際の分担』となっています。

『望ましい家事分担』と『実際の家事分担』の比較

上段『望ましい分担』(n=673)

下段『実際の分担』(n=409)

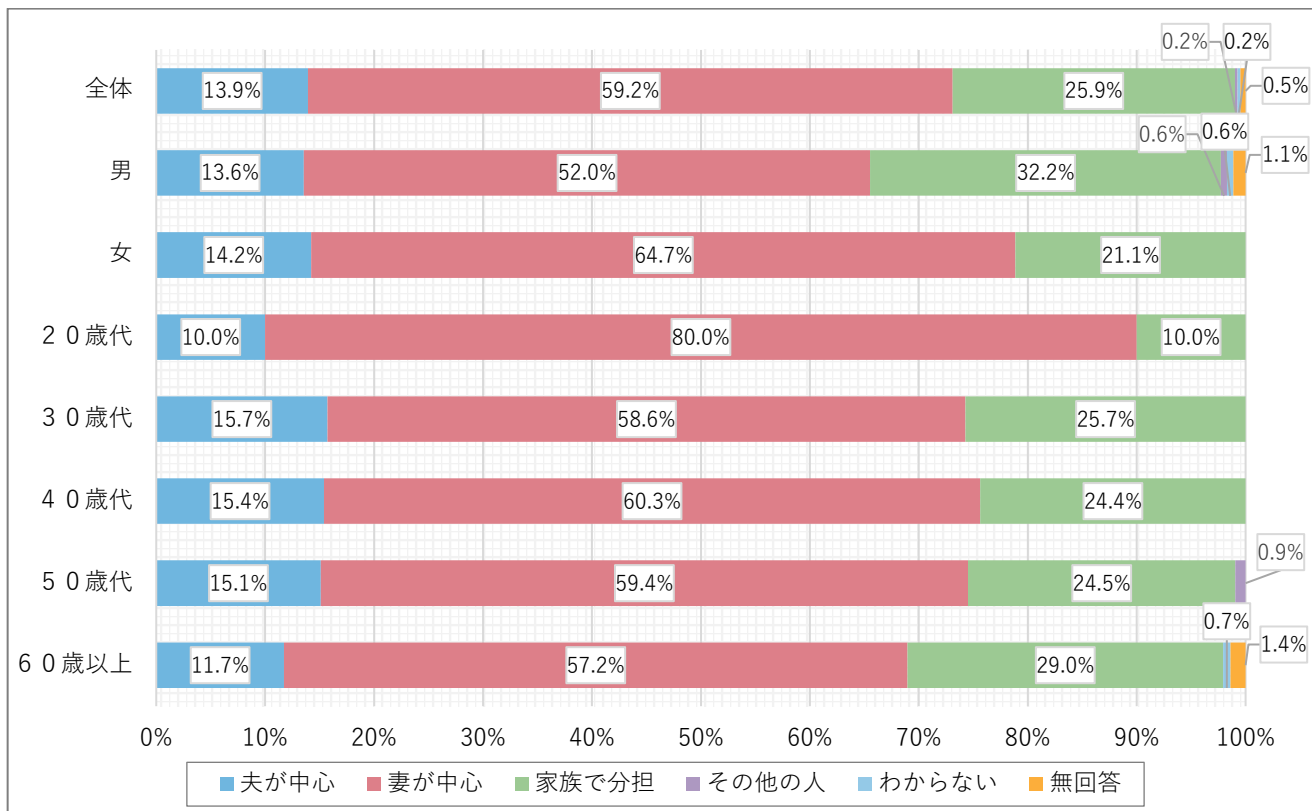


問5 あなたの家庭では、日常の家事をどのように分担していますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。(既婚者のみ回答)

日常の家事分担についての項目ごとの性別、年代別の調査結果は以下のとおりです。

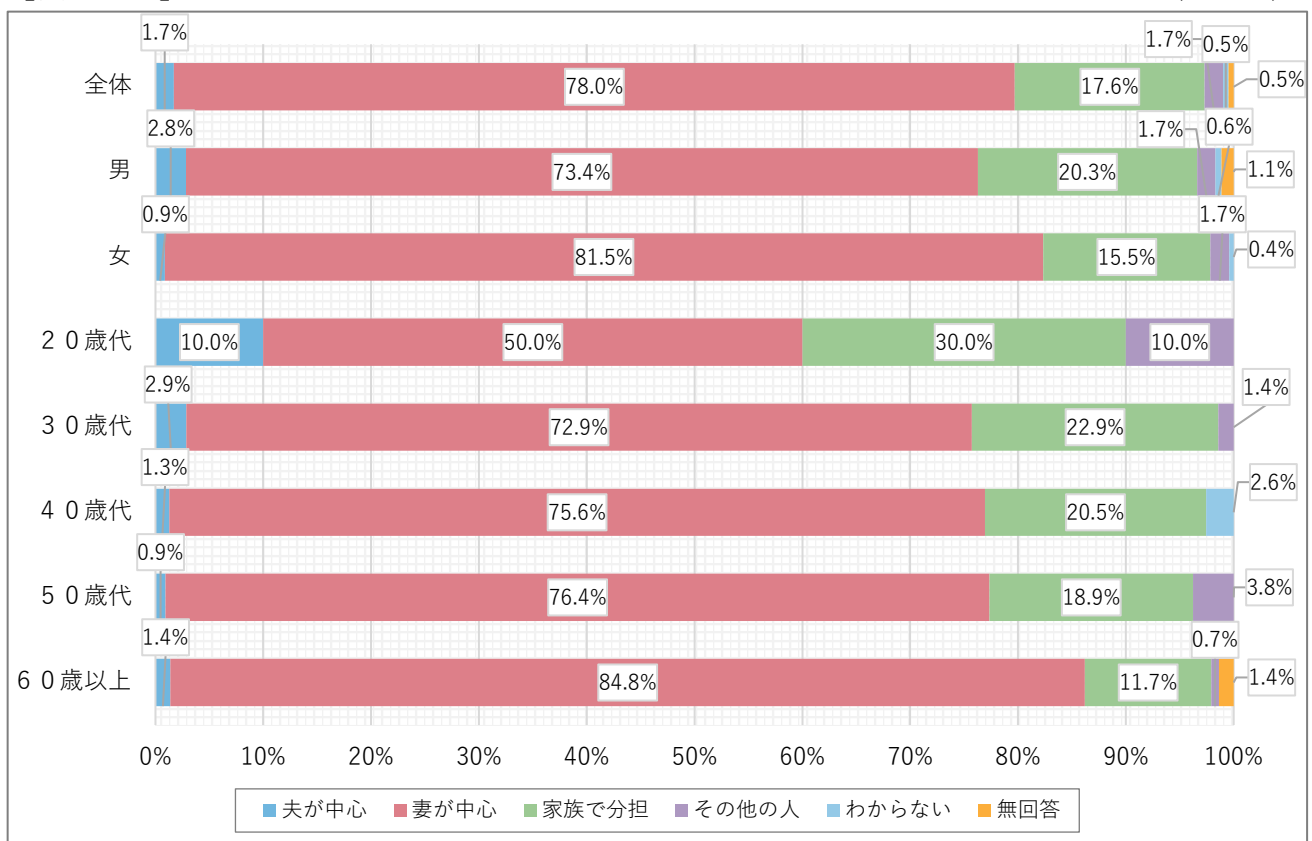
【日常の家計管理】

(n=409)



【食事作り】

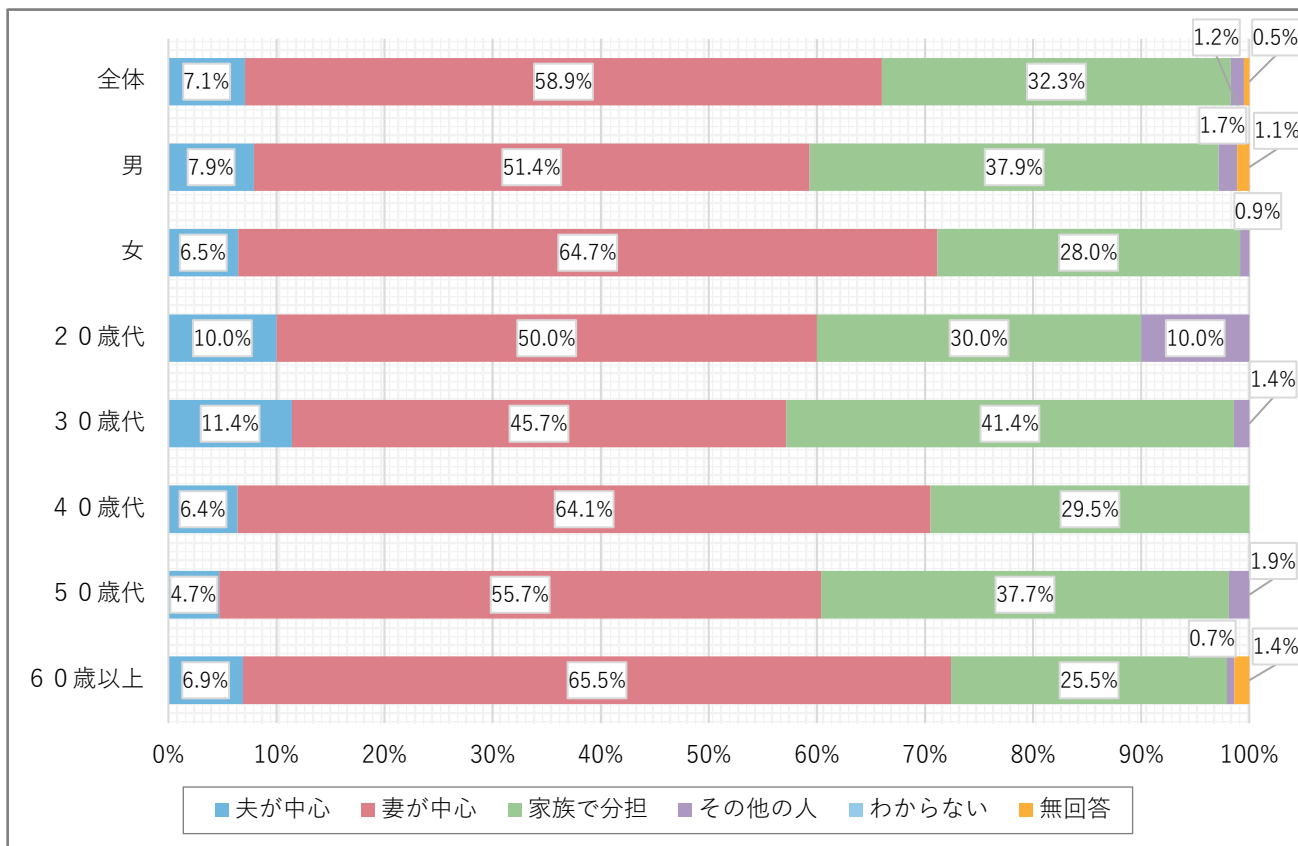
(n=409)



問5 あなたの家庭では、日常の家事をどのように分担していますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。(既婚者のみ回答)

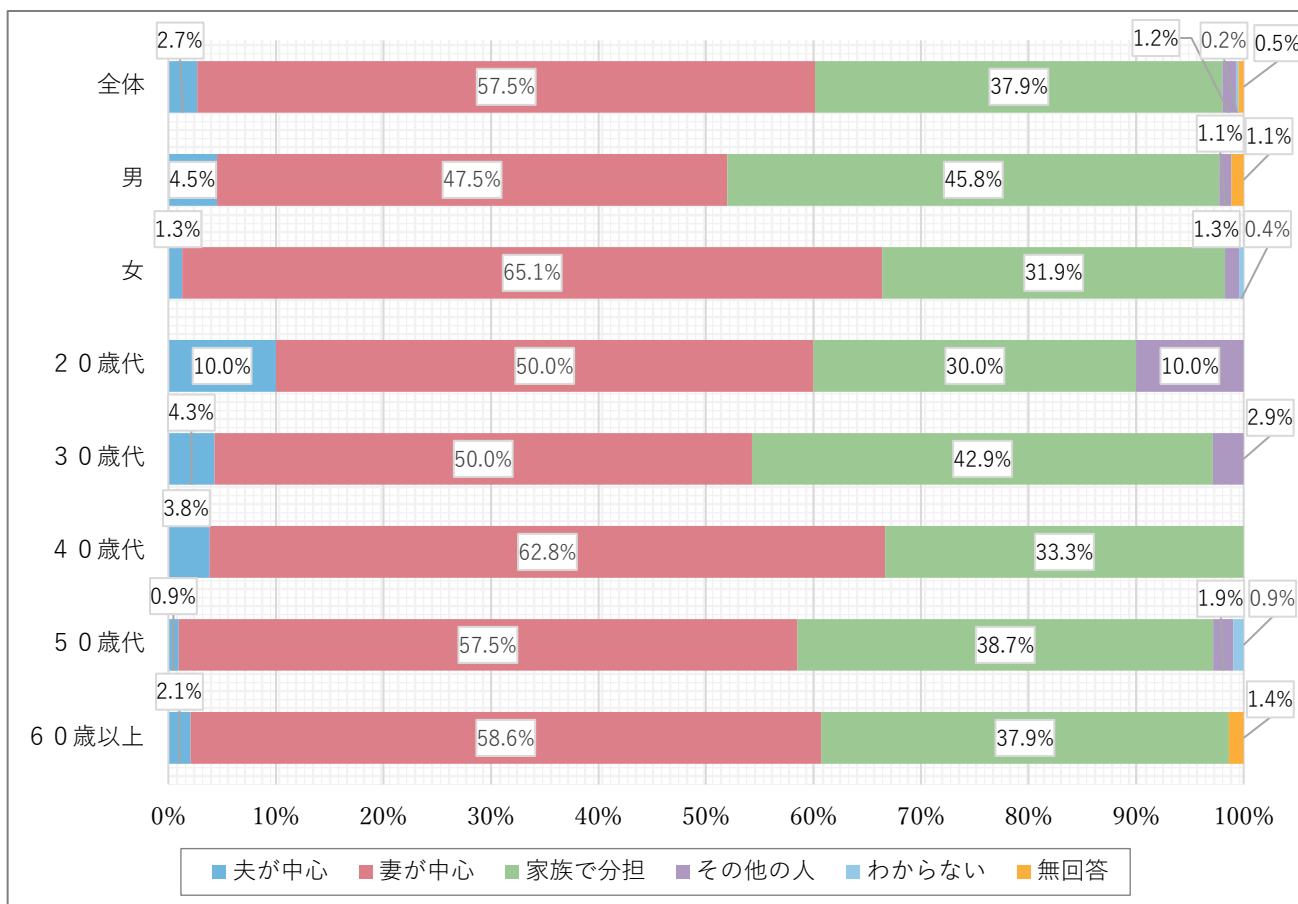
【食事のあとかたづけ】

(n=409)



【食料品・日用品の買い物】

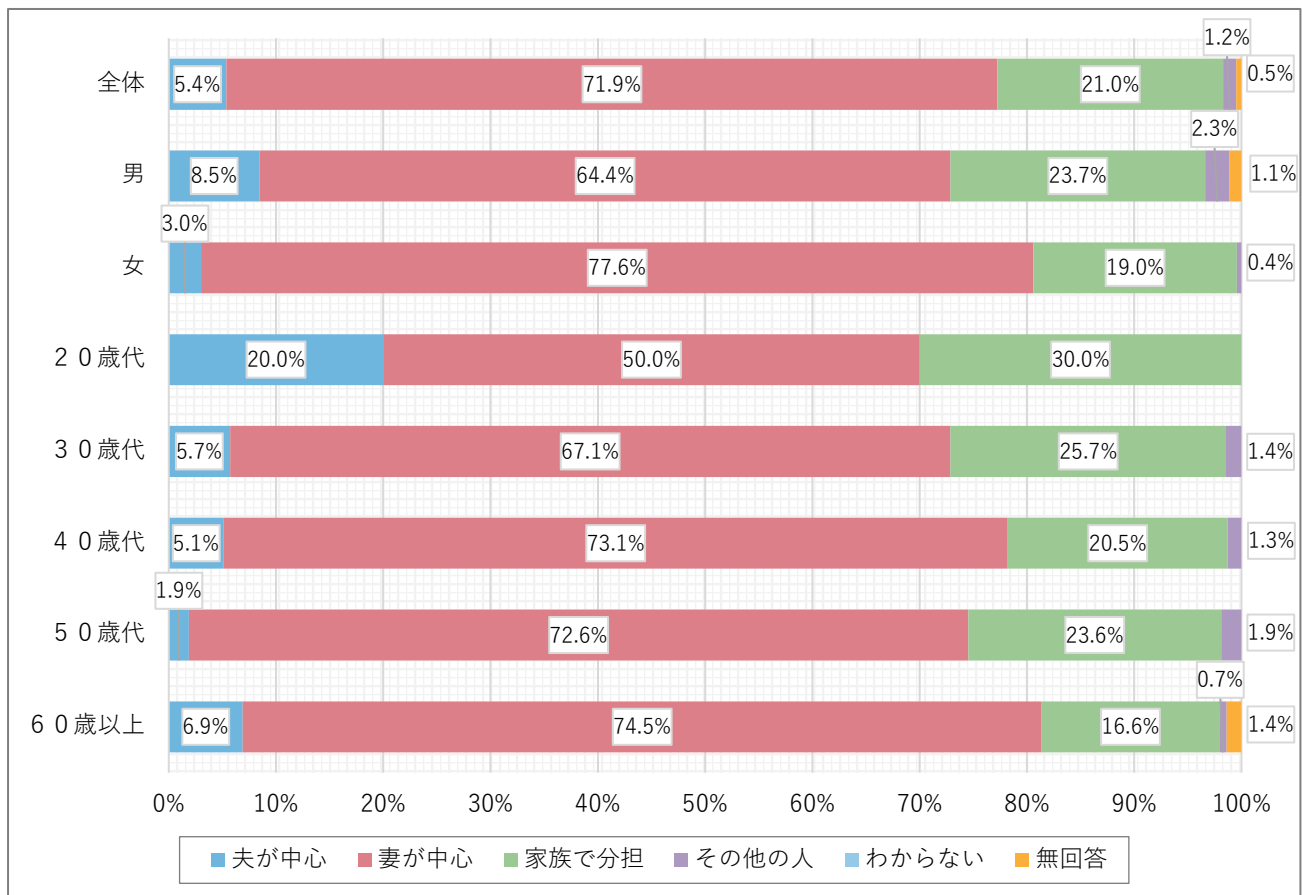
(n=409)



問5 あなたの家庭では、日常の家事をどのように分担していますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。(既婚者のみ回答)

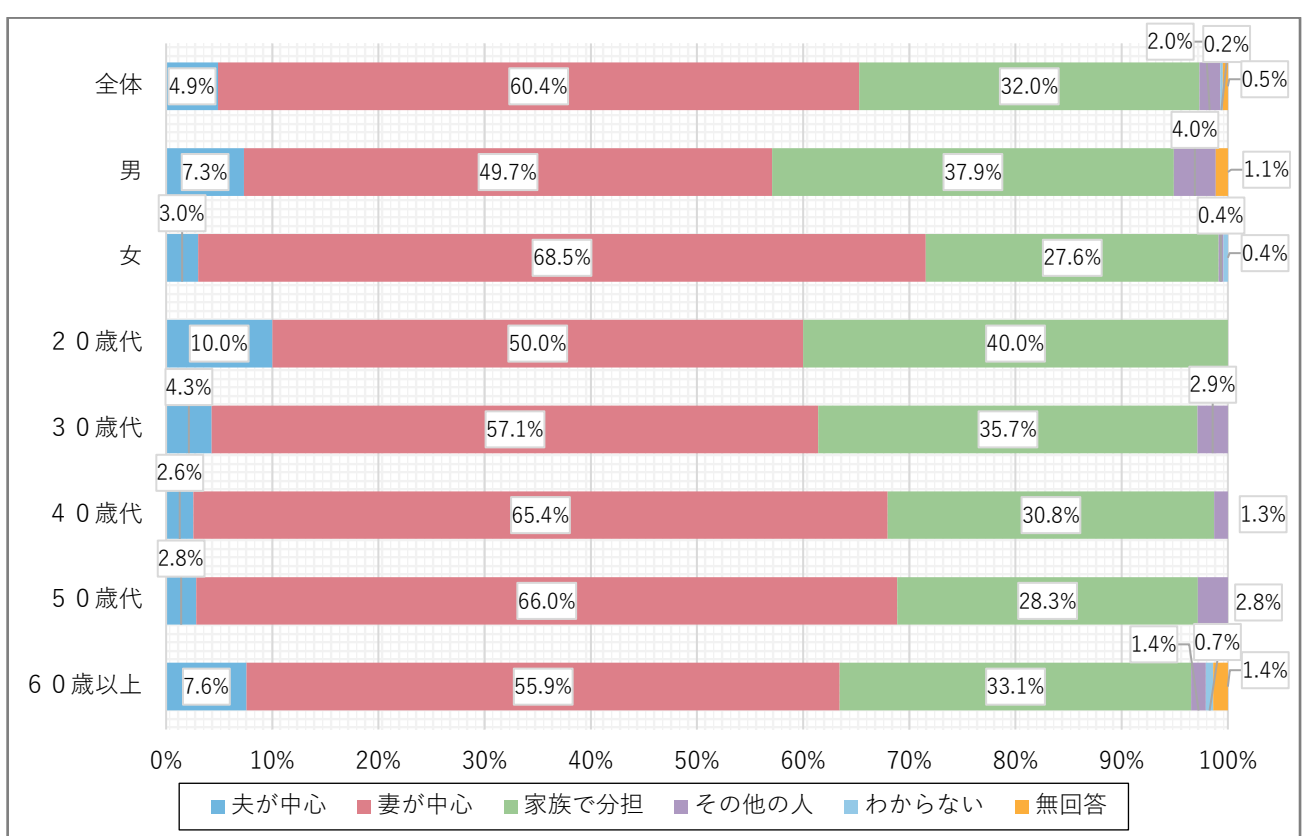
【洗濯】

(n=409)



【掃除】

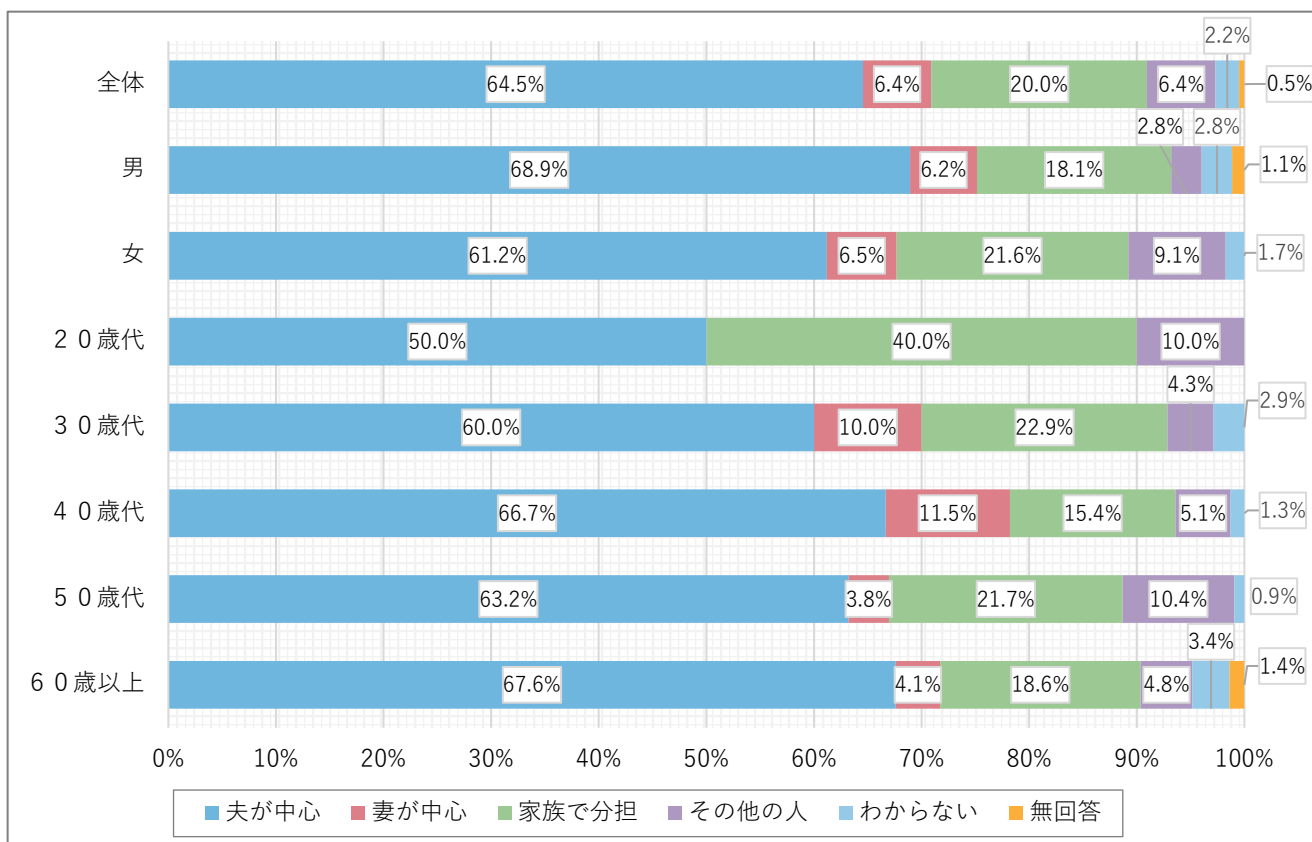
(n=409)



問5 あなたの家庭では、日常の家事をどのように分担していますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。(既婚者のみ回答)

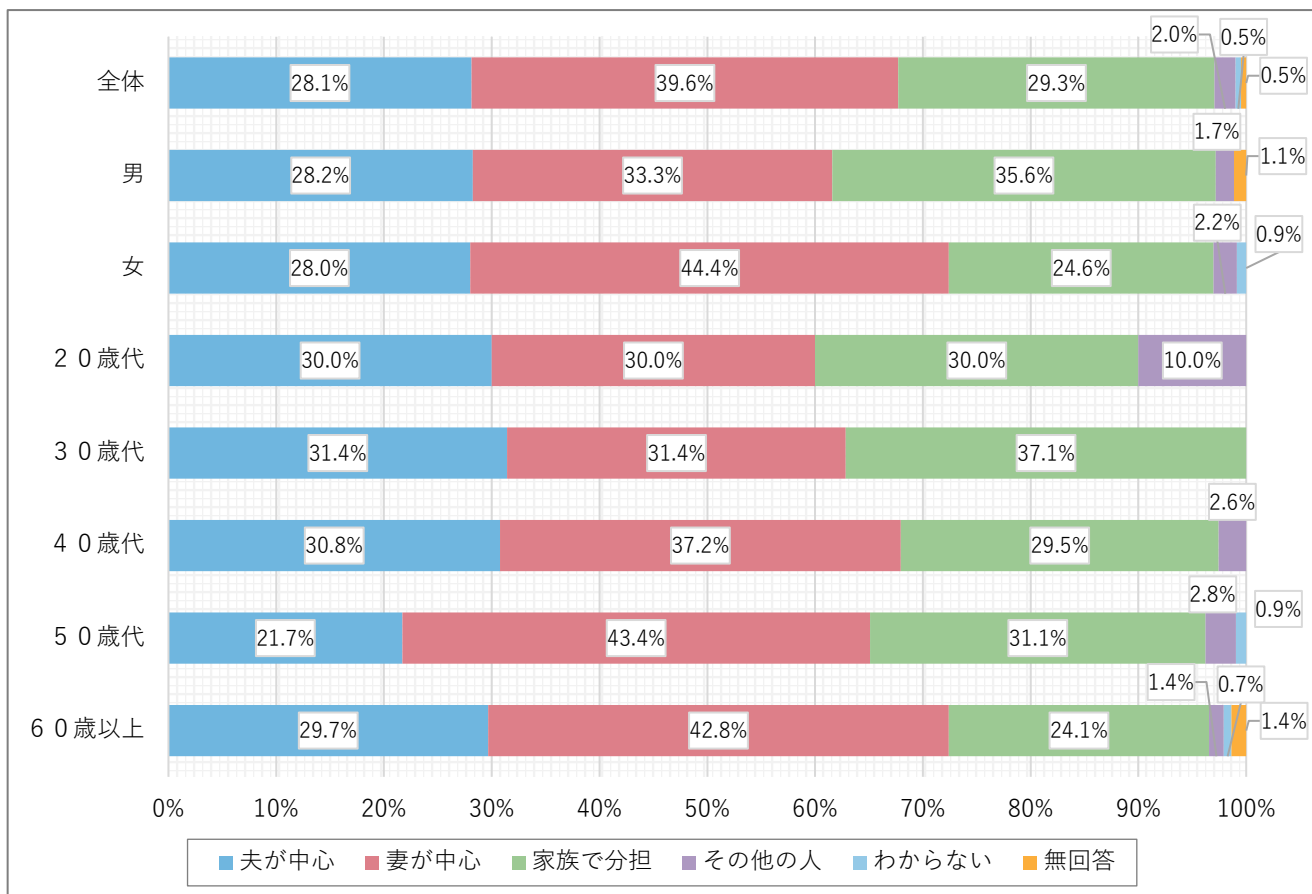
【家の修繕】

(n=409)



【ゴミだし】

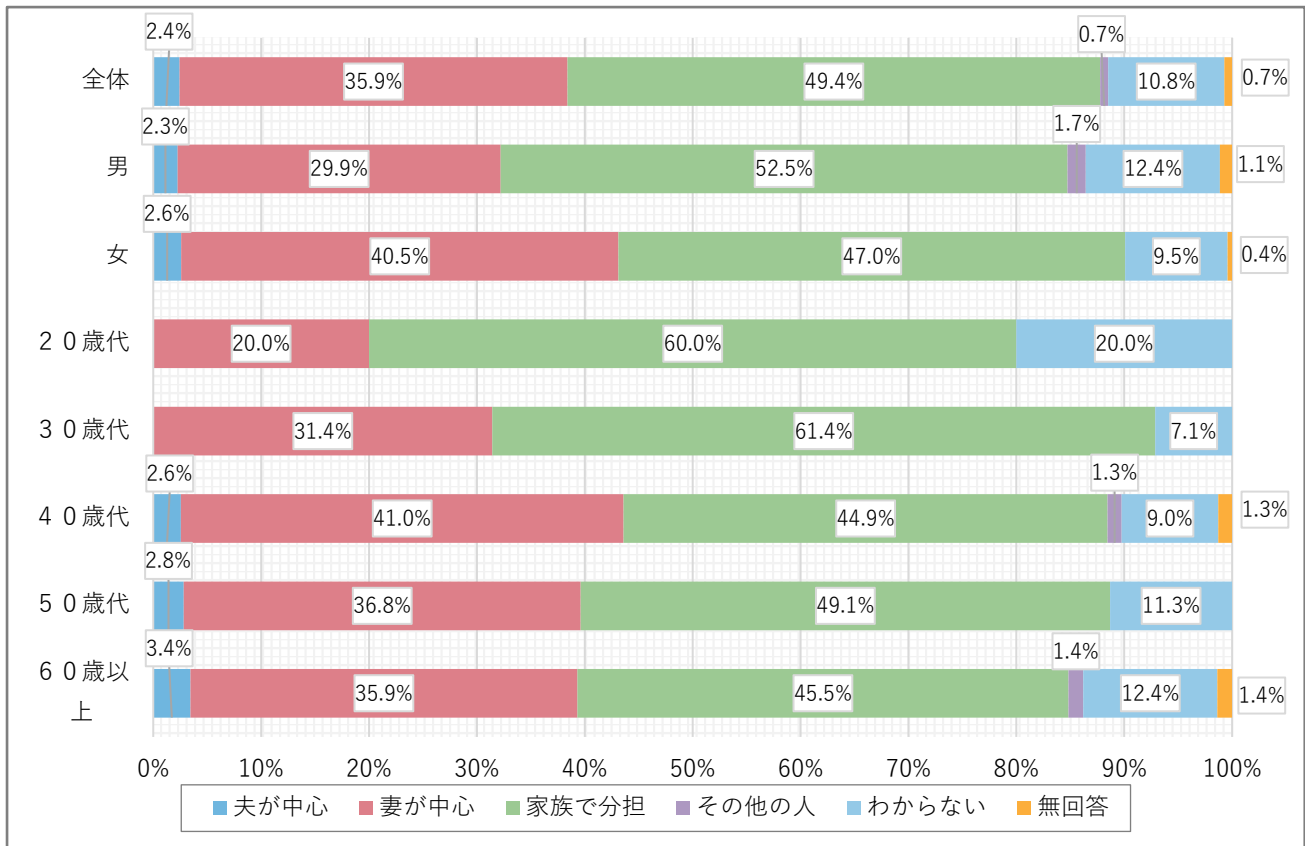
(n=409)



問5 あなたの家庭では、日常の家事をどのように分担していますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。(既婚者のみ回答)

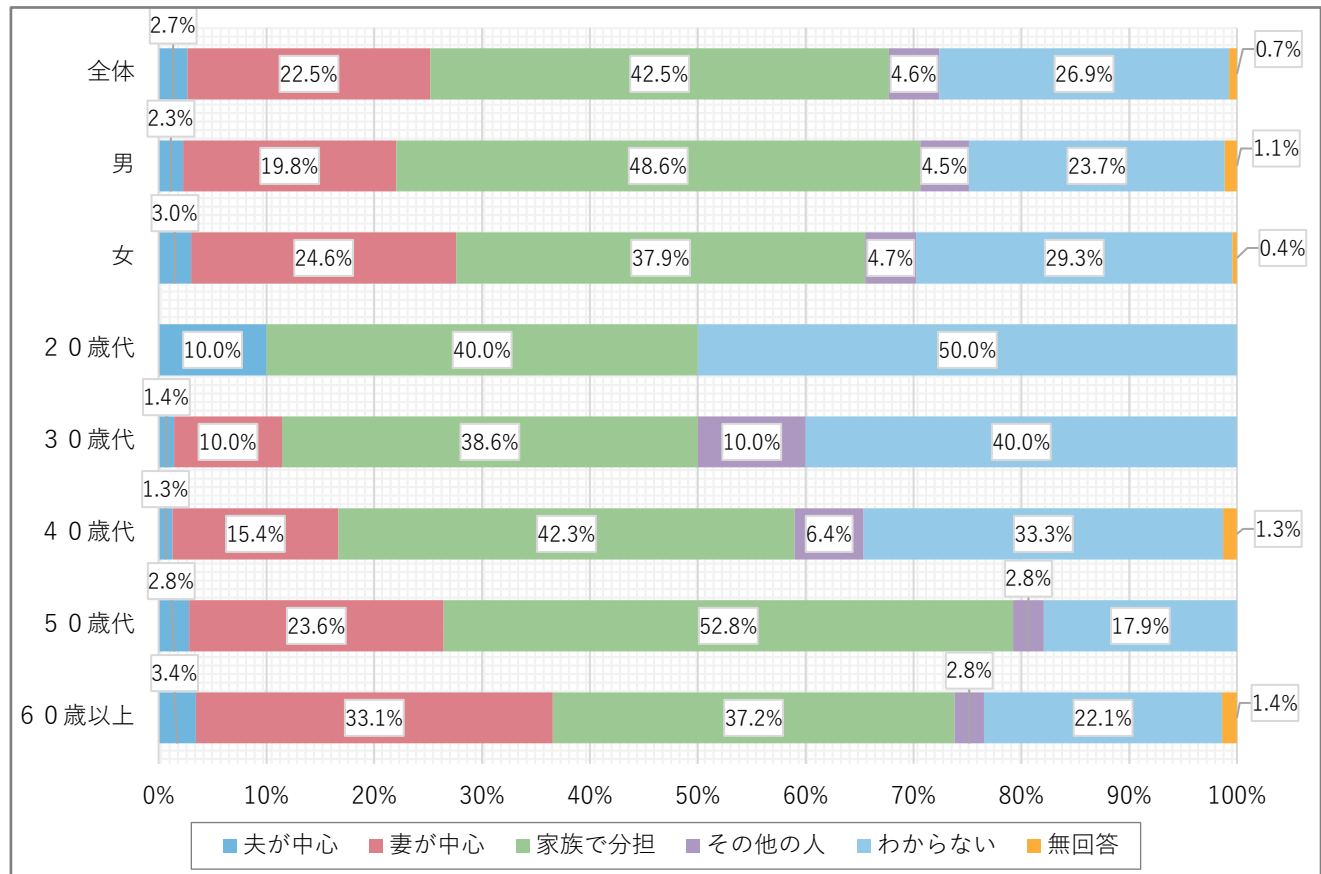
【子どものしつけや家庭教育】

(n=409)



【家族の介護】

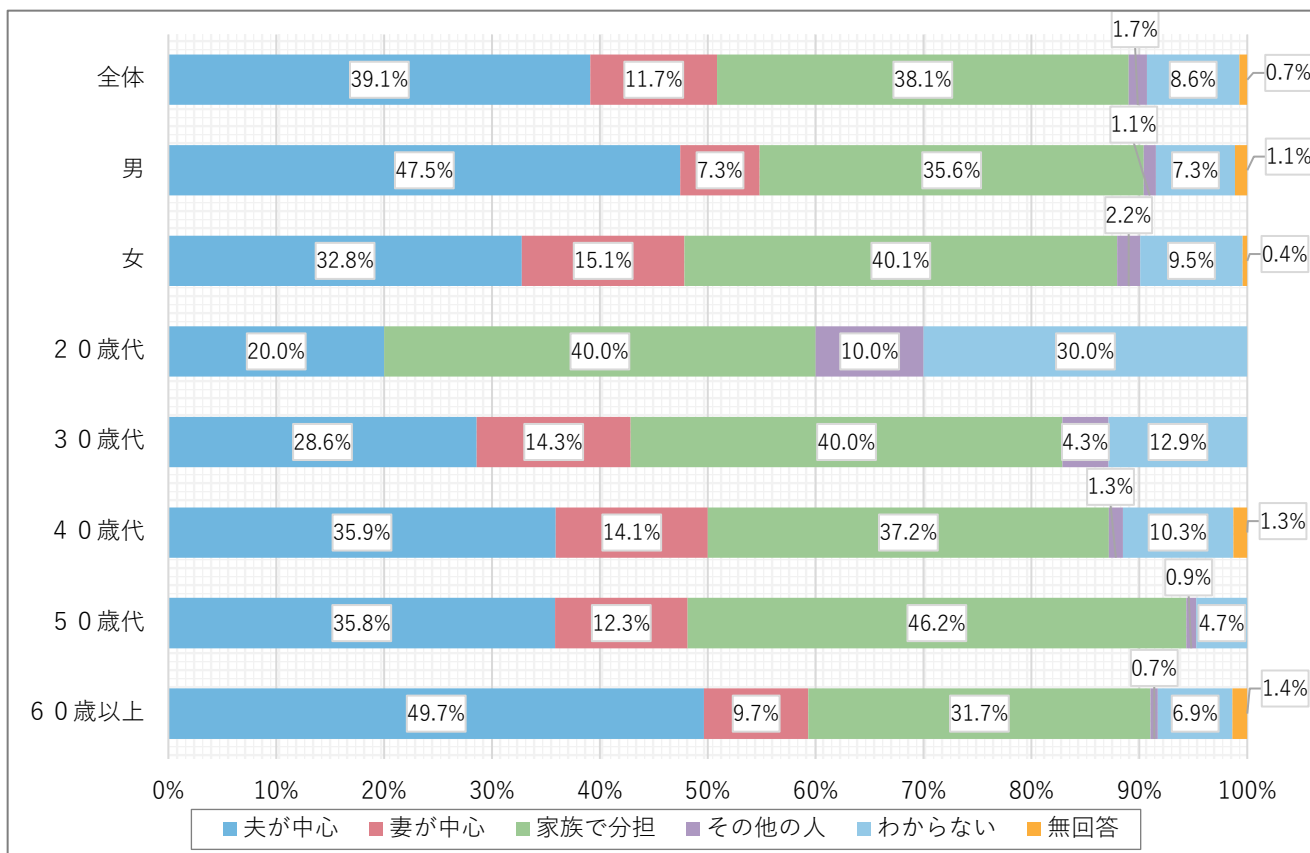
(n=409)



問5 あなたの家庭では、日常の家事をどのように分担していますか。各項目について、それぞれ1つ選んでください。(既婚者のみ回答)

【地域行事等への参加】

(n=409)



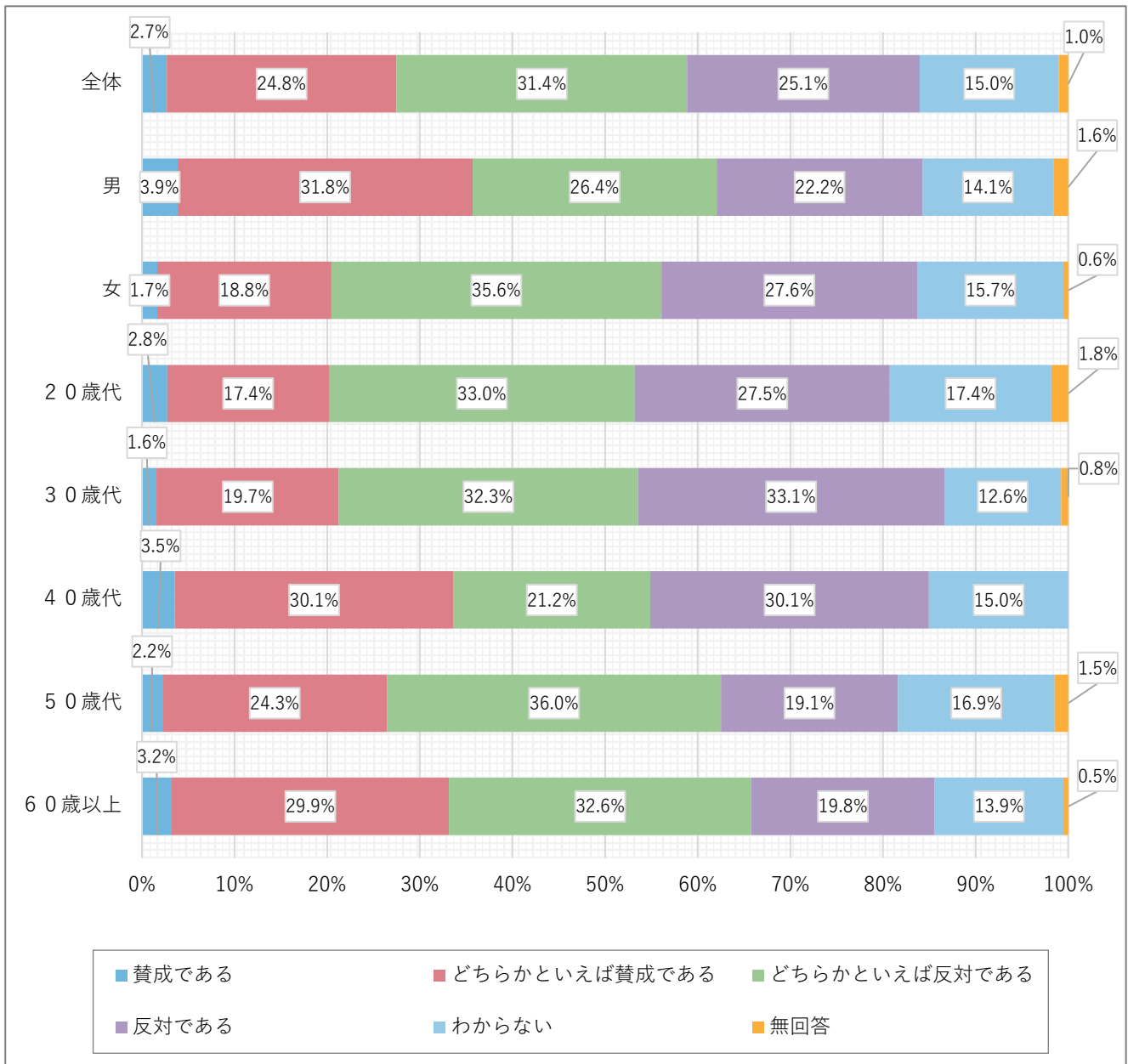
問6 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「賛成である」「どちらかといえば賛成である」を合わせた回答（以下「賛成」という。）が全体の27.5%となっており、「どちらかといえば反対である」「反対である」を合わせた回答（以下「反対」という。）が56.5%となっています。

前回調査と比較すると、前回調査では「賛成」33.8%、「反対」48.3%となっており、今回調査では「賛成」が6.3ポイント減少し、「反対」が8.2ポイント増加しています。

性別でみると、「賛成」と回答したのは、男性は35.7%であり、女性は20.5%、「反対」と回答したのは、男性は48.6%、女性は63.2%と男女間で差が見られました。

(n=673)

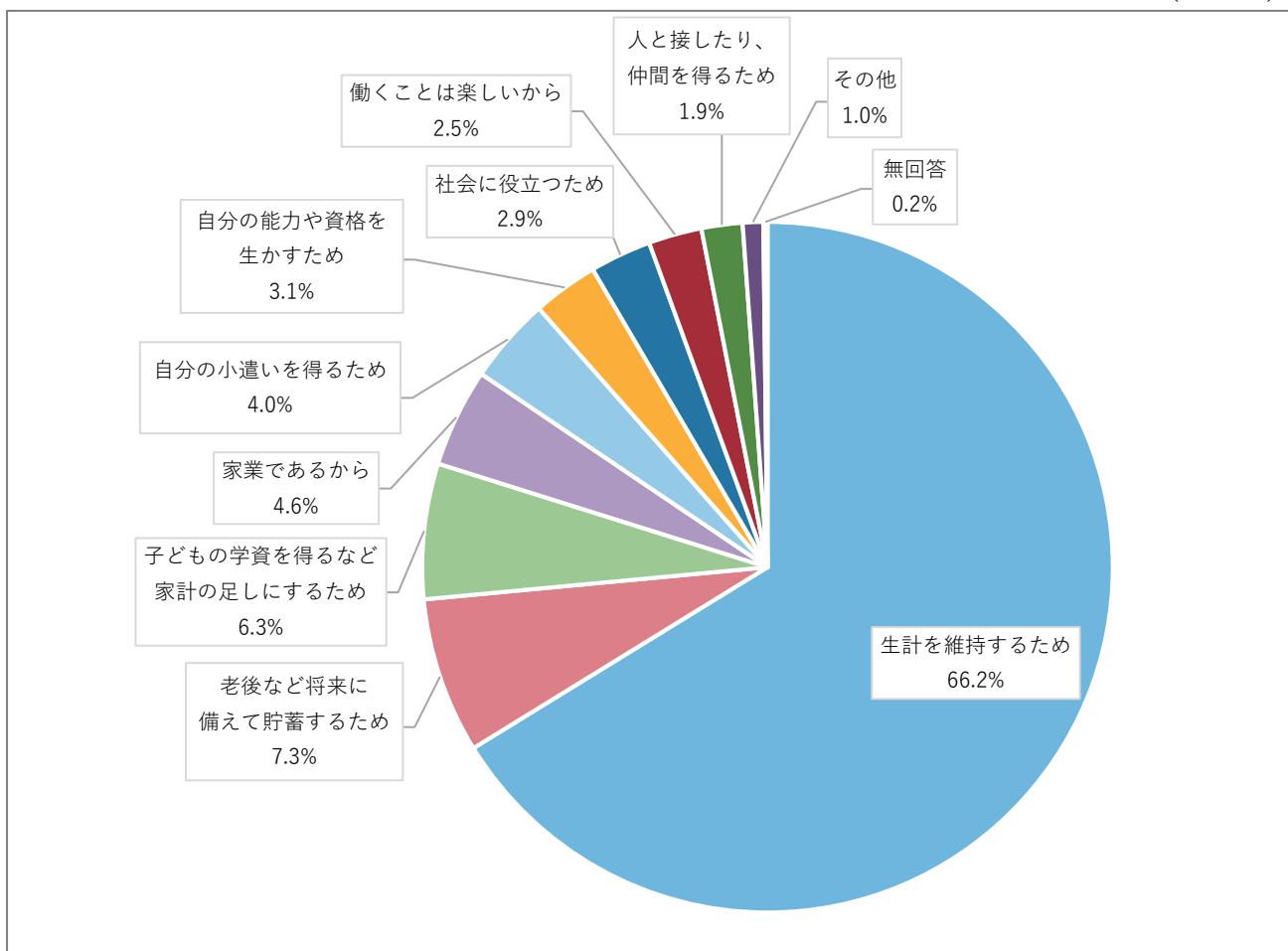


4 仕事について

問7 あなたが働いている最も重要な理由は何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。(働いている方のみ回答)

現在、仕事をしている方に、働いている理由を尋ねたところ、結果は以下のとおり、「生計を維持するため」が66.2%と最も多く、次いで「老後など将来に備えて貯蓄するため」が7.3%、「子どもの学資を得るなど家計の足しにするため」が6.3%となりました。

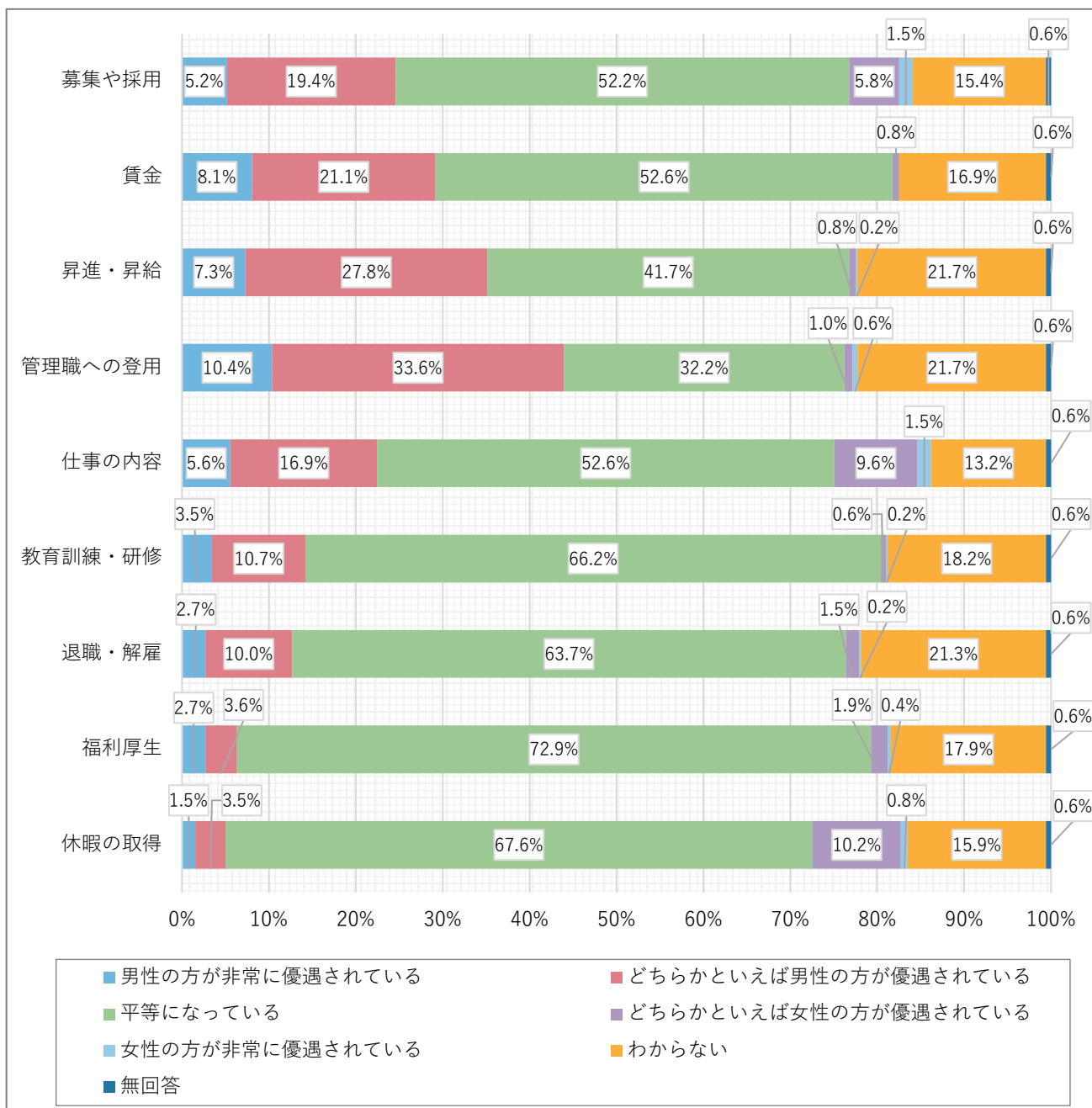
(n=521)



問8 あなたは今の職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。
(働いている方のみ回答)

職場での男女の扱いについて、グラフ中の9項目（「募集や採用」、「賃金」、「昇進・昇給」、「管理職への登用」、「仕事の内容」、「教育訓練・研修」、「退職・解雇」、「福利厚生」、「休暇の取得」）について尋ねたところ、ほぼすべての項目において、「平等になっている」という回答が最も多く、「男性の方が優遇されている」という回答割合が最も高かったのが、「管理職への登用」のみで44.0%でした。「女性の方が優遇されている」という回答割合はいずれの項目でも数%となっているのに対し、「仕事の内容」(11.1%)と「休暇の取得」(11.0%)では、他の項目と比べると若干高い割合を示しています。一方、すべての項目の中で「男性の方が優遇されている」という回答が最も低かった項目は「休暇の取得」の5.0%でした。

(n=521)

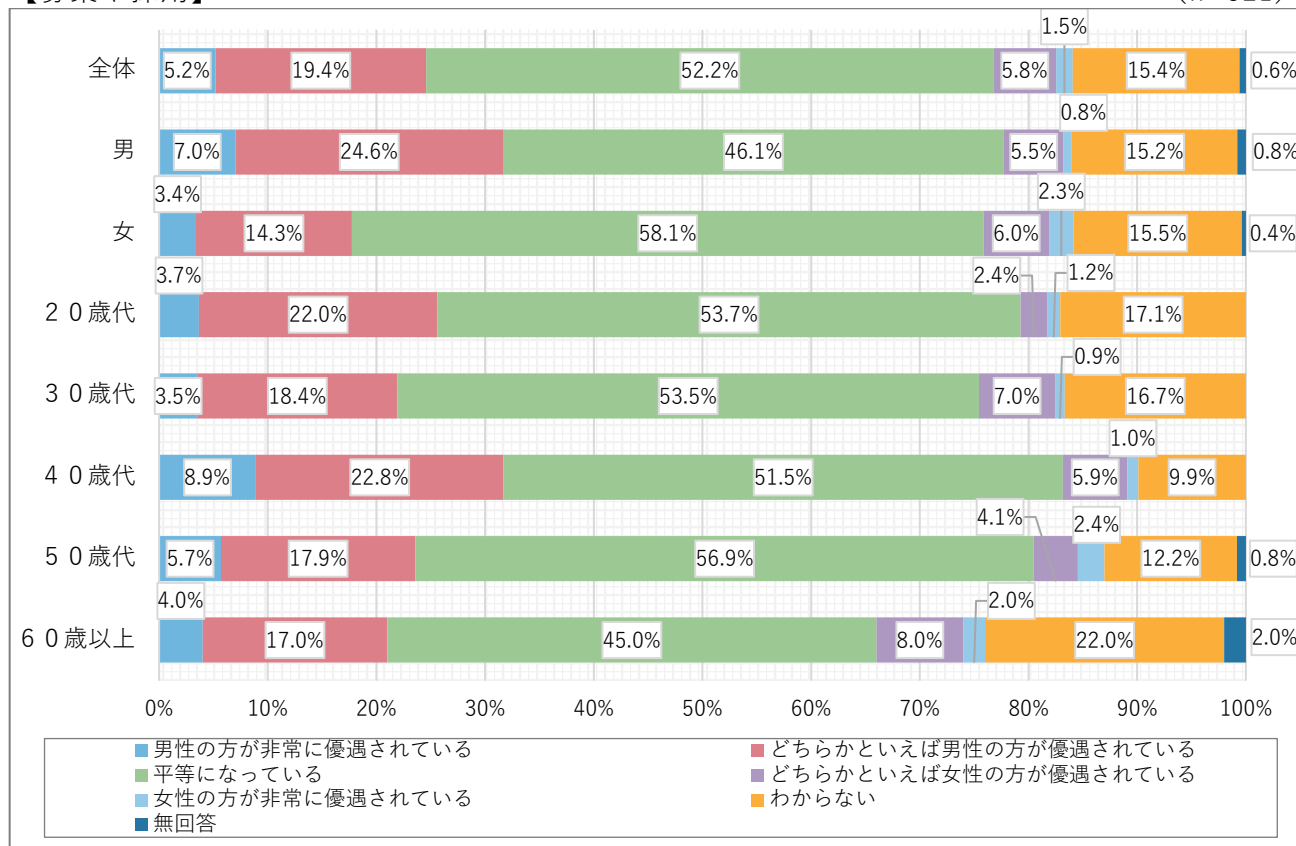


項目ごとの性別、年代別の調査結果は次のとおりです。

問8 あなたは今の職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。
(働いている方のみ回答)

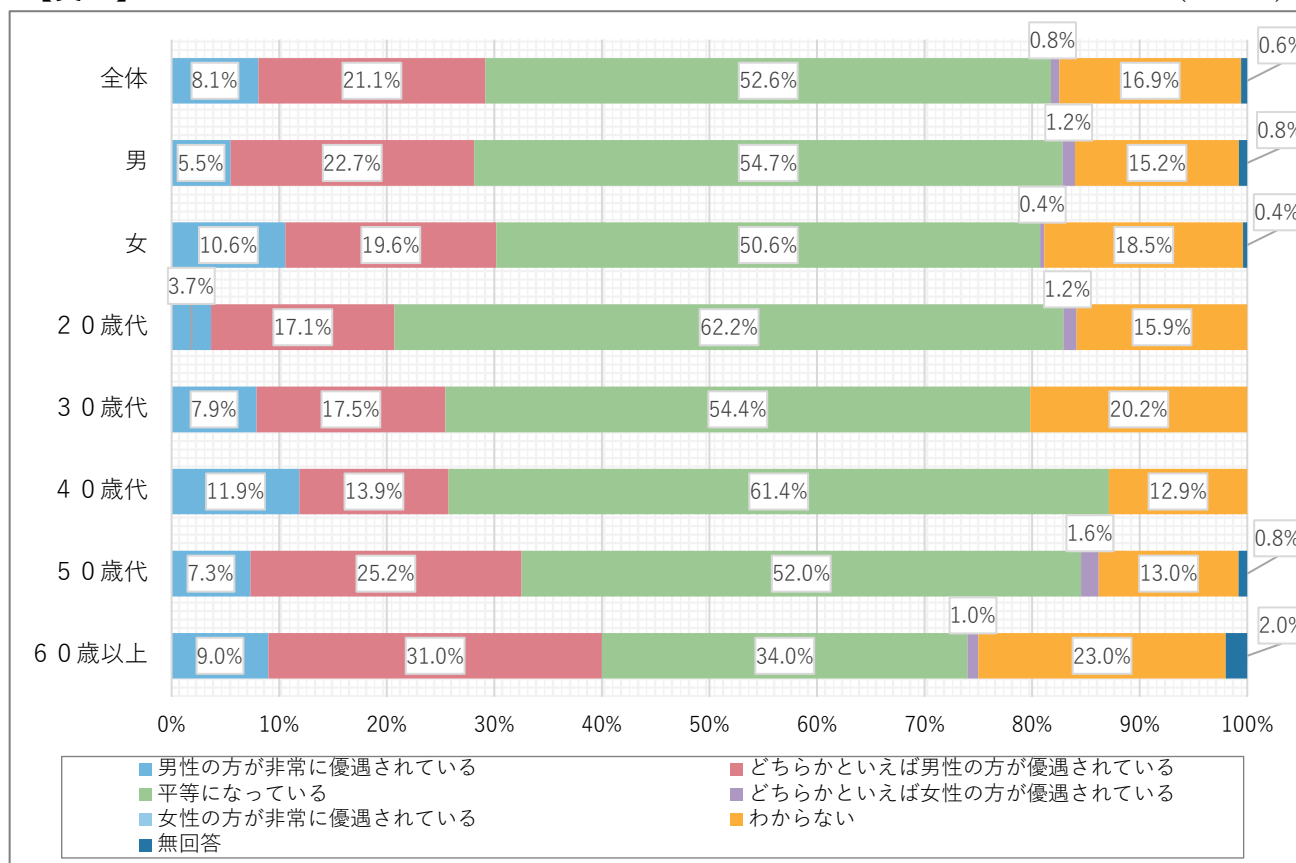
【募集や採用】

(n=521)



【賃金】

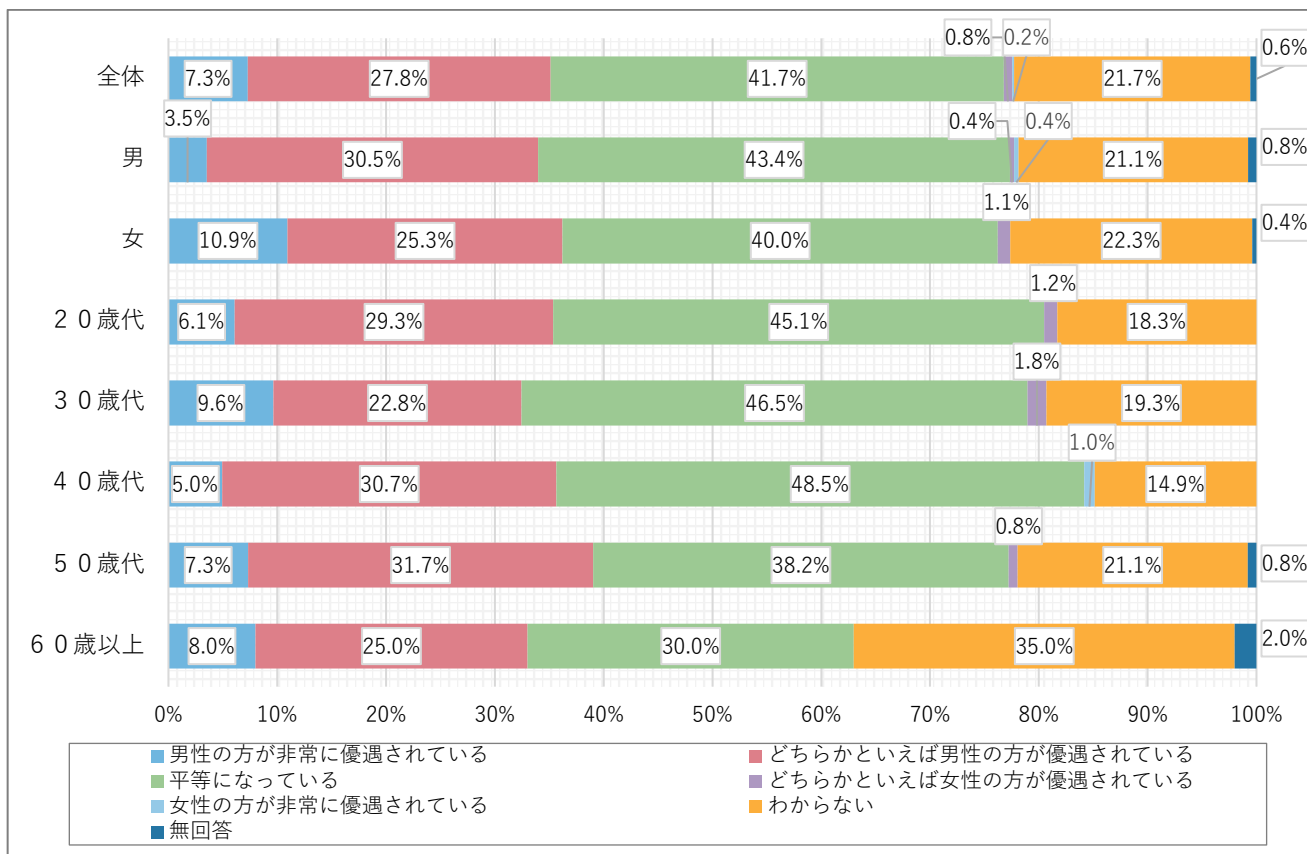
(n=521)



問8 あなたは今の職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。
(働いている方のみ回答)

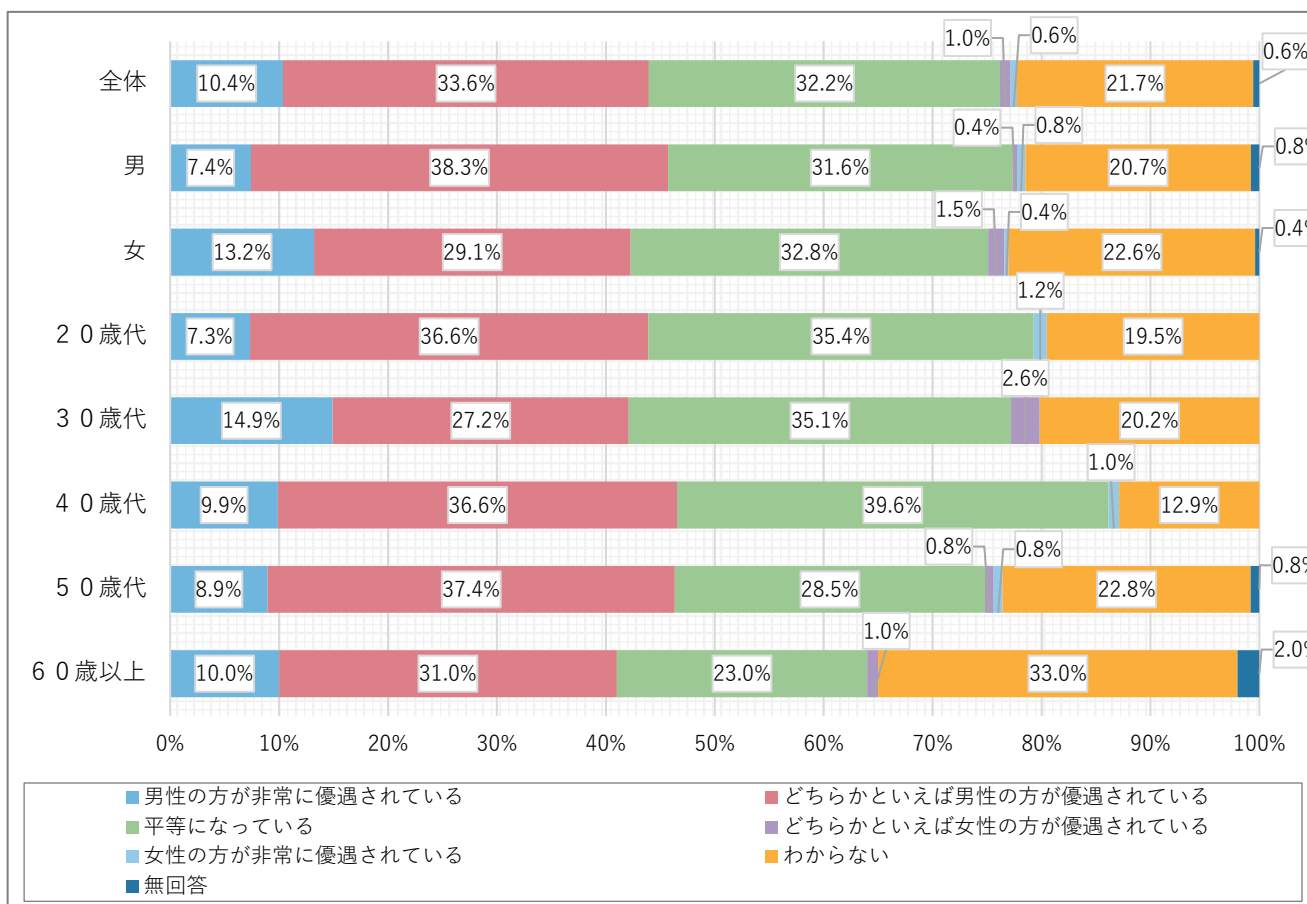
【昇進・昇給】

(n=521)



【管理職へ登用】

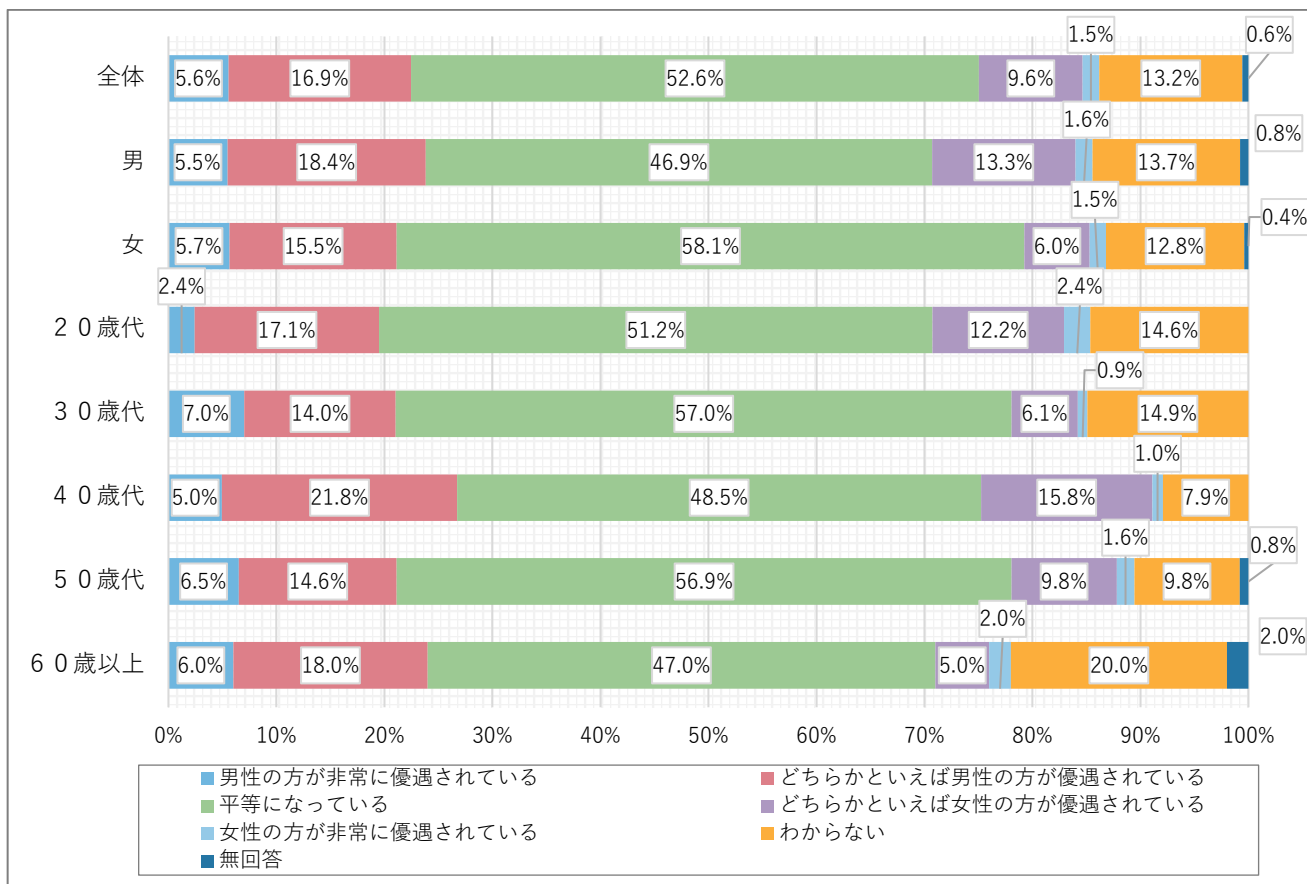
(n=521)



問 8 あなたは今の職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。
(働いている方のみ回答)

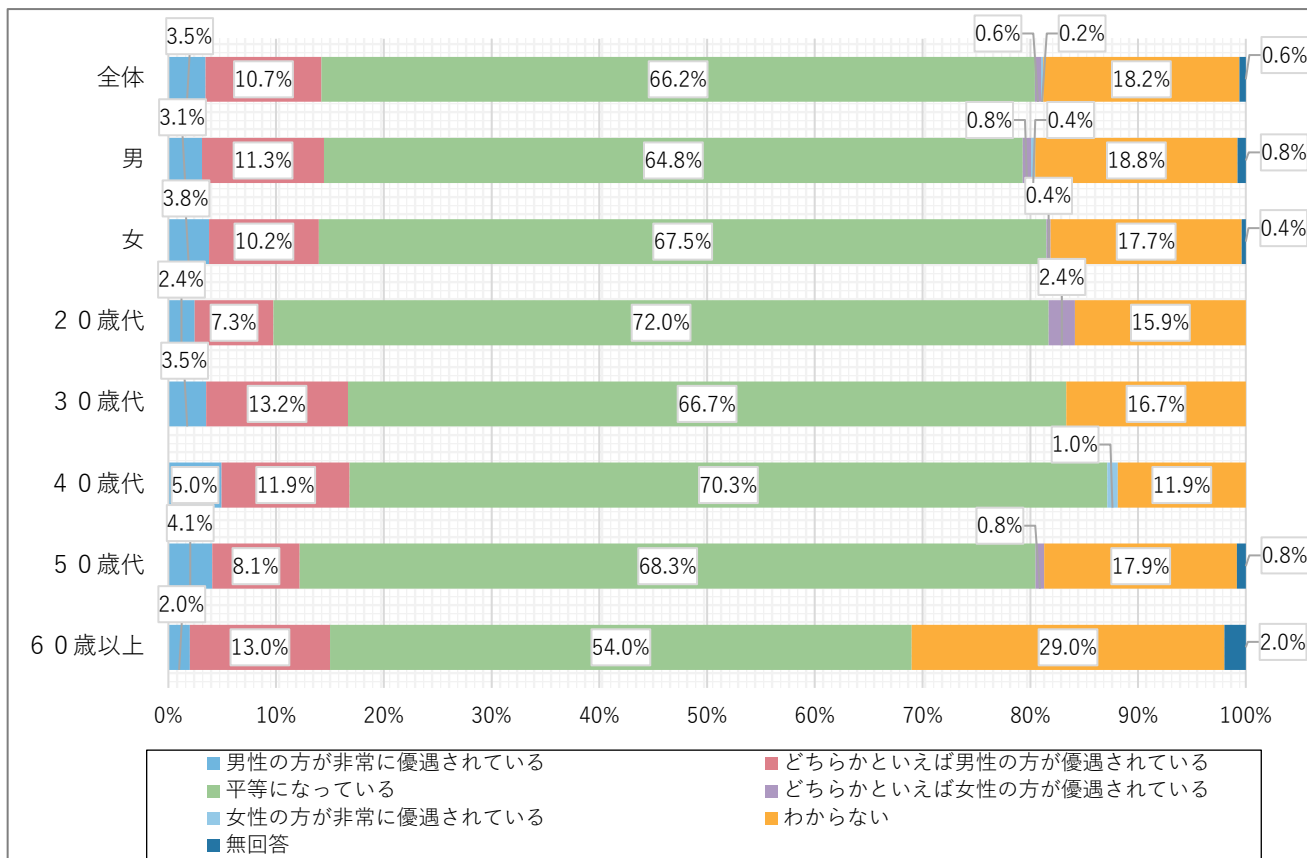
【仕事の内容】

(n=521)



【教育訓練・研修】

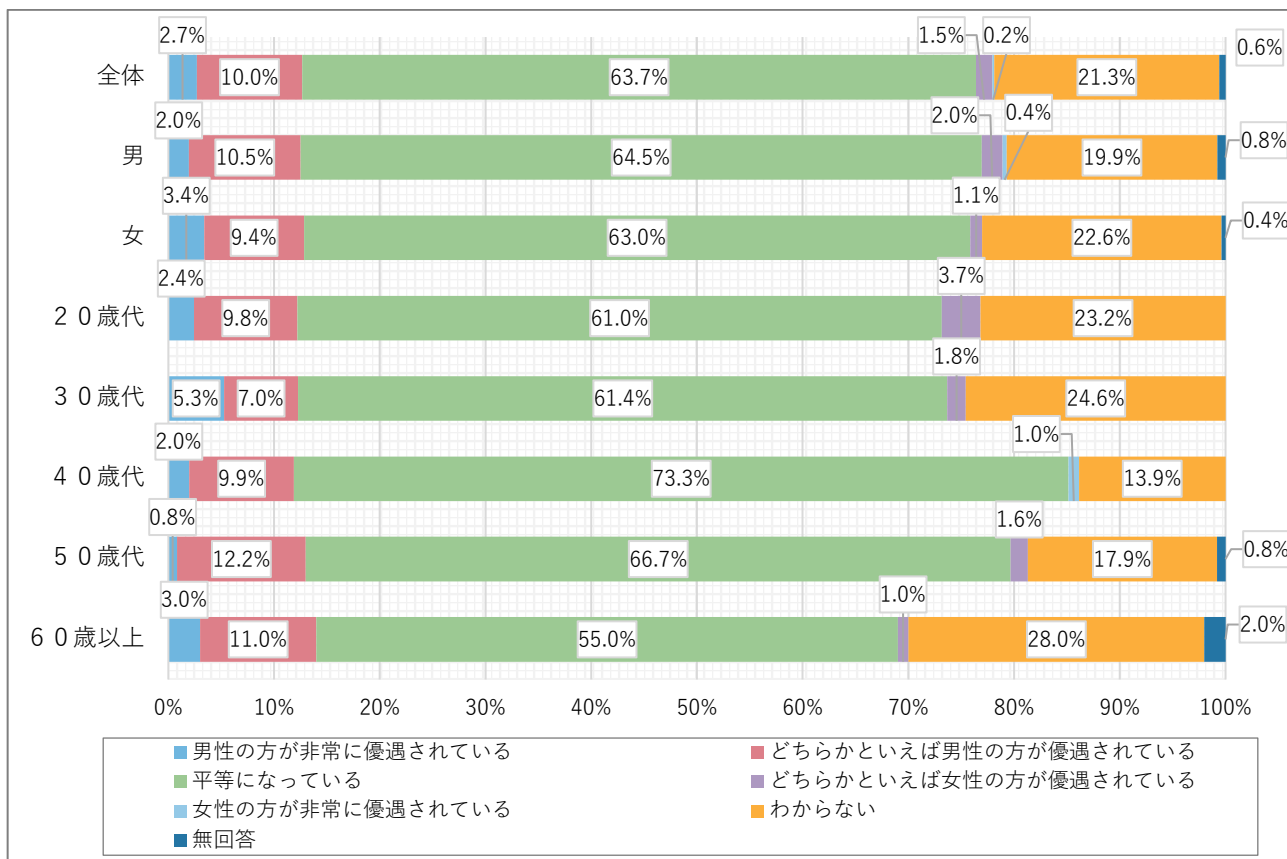
(n=521)



問8 あなたは今の職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。
 (働いている方のみ回答)

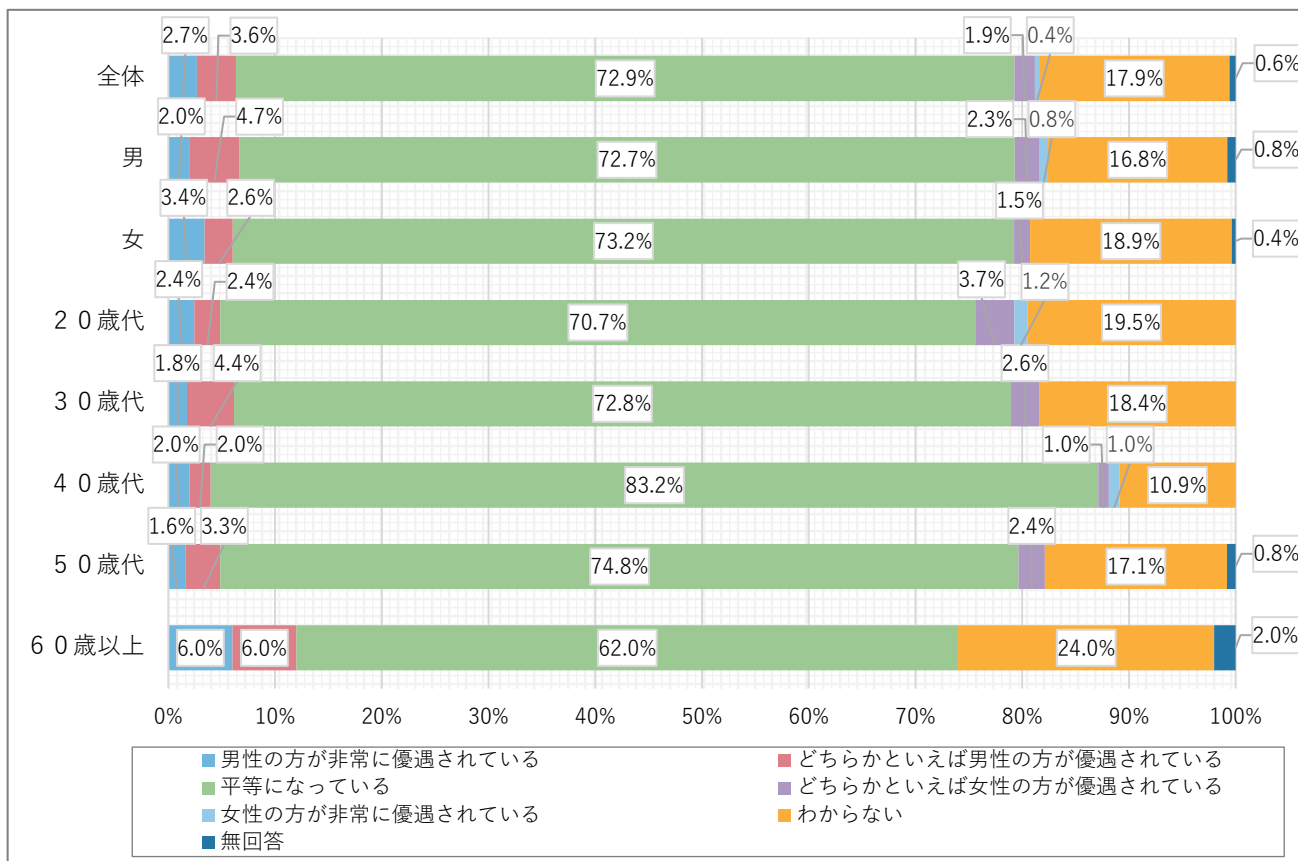
【退職・解雇】

(n=521)



【福利厚生】

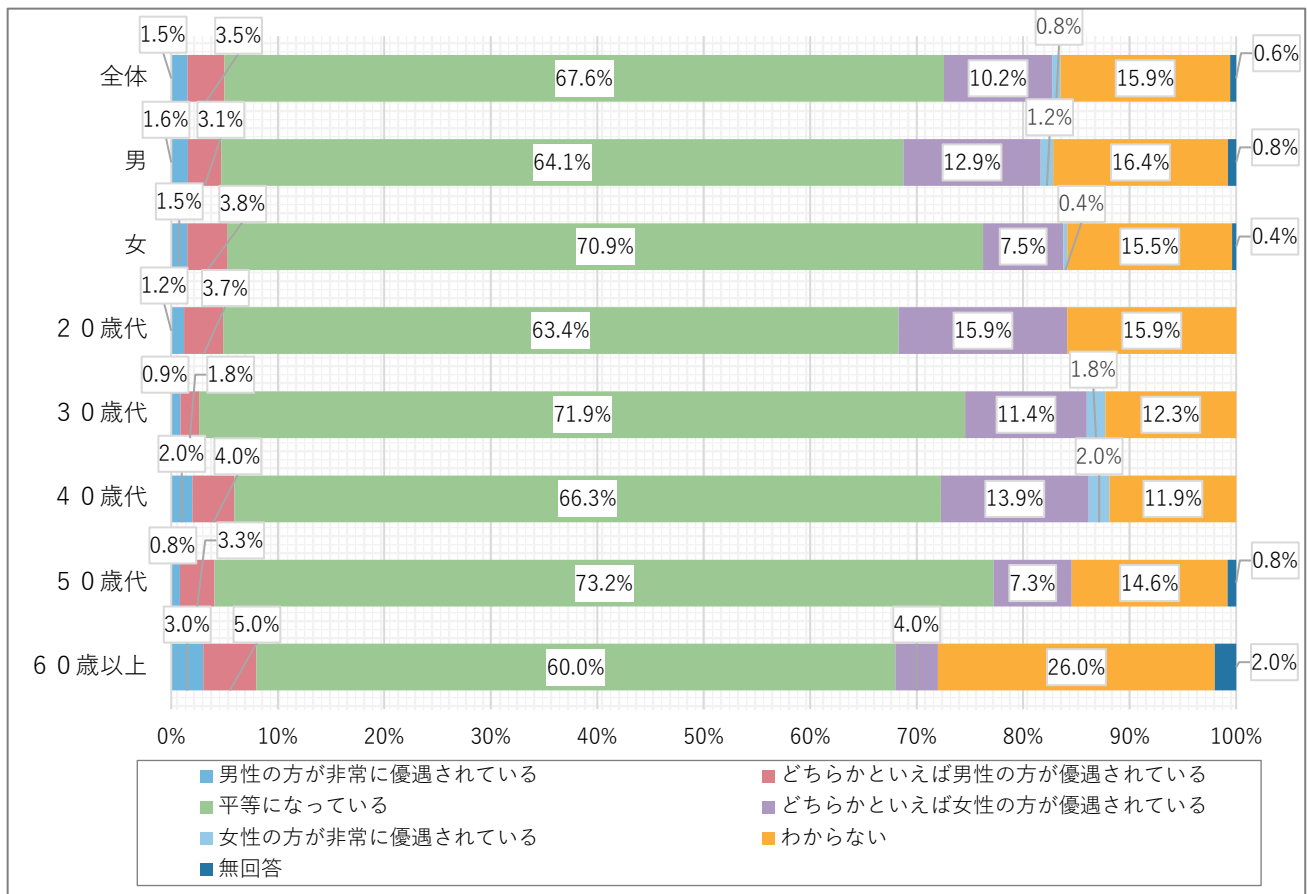
(n=521)



問8 あなたは今の職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。
(働いている方のみ回答)

【休暇の取得】

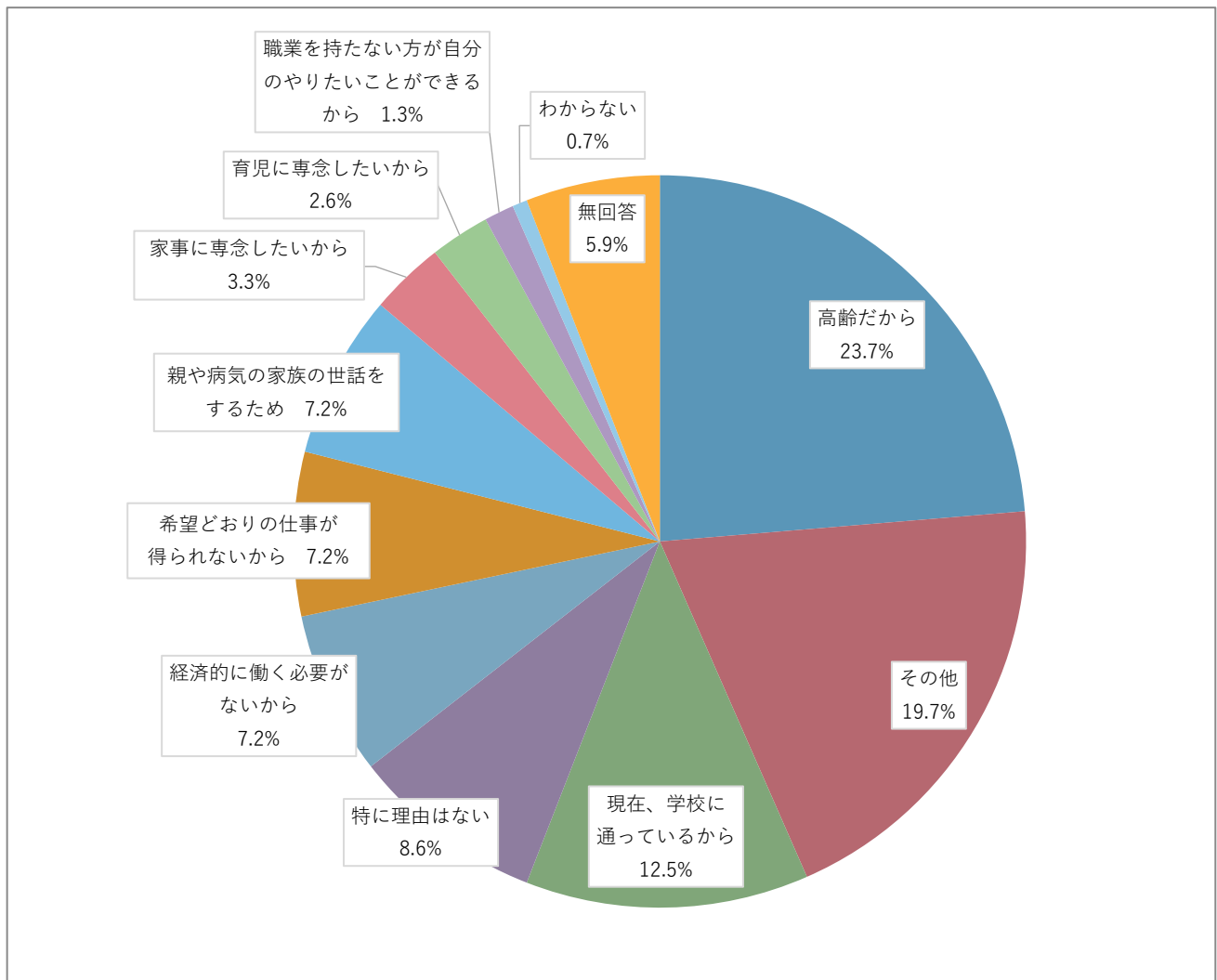
(n=521)



問9 あなたが働いていない最も重要な理由は何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。(現在働いていない方のみ回答)

現在、働いていない方へその理由を尋ねたところ結果は以下のとおりでした。

(n=152)



その他

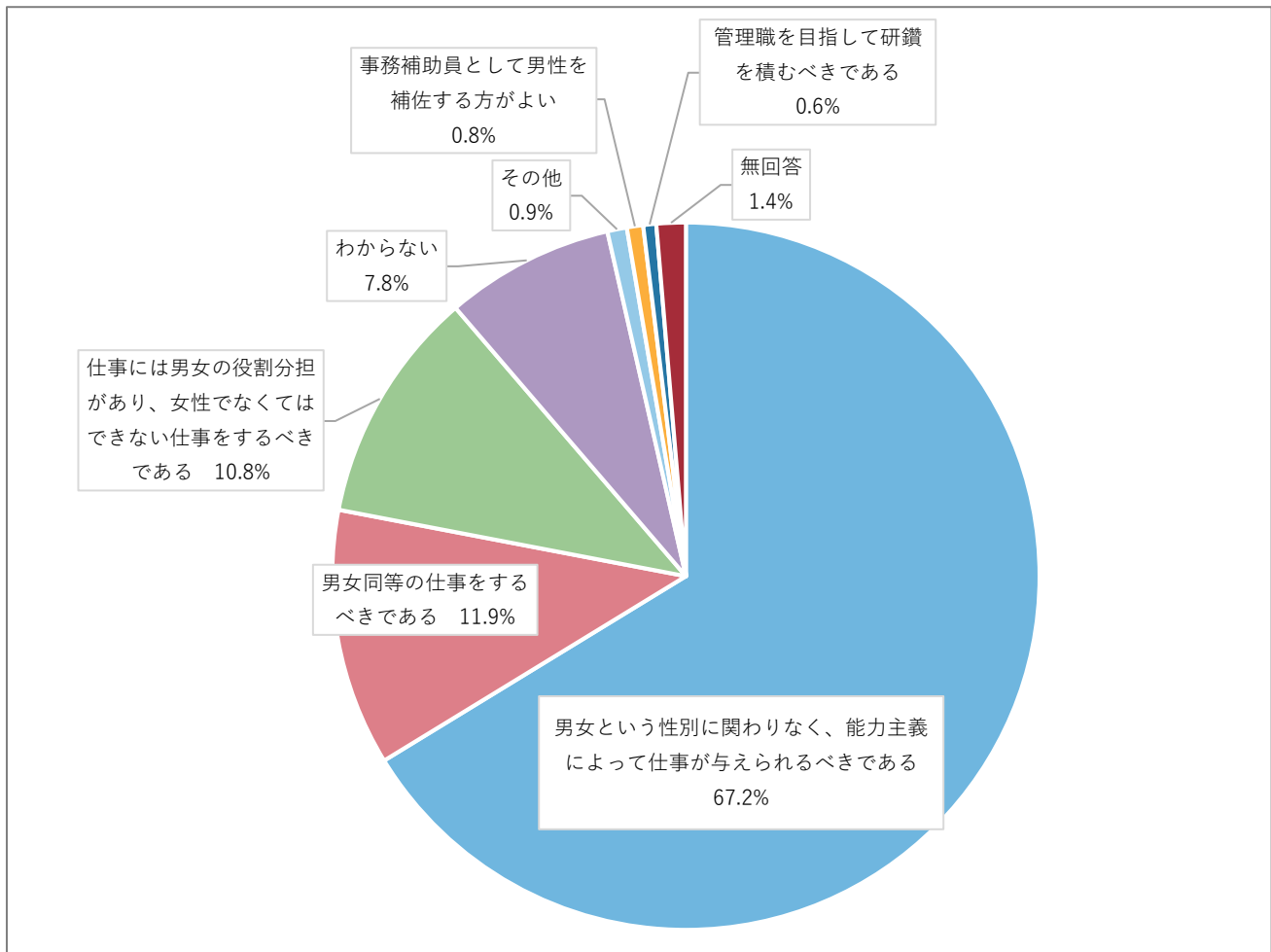
- ・ 病気療養中のため。(40 歳代女性 ほか)
- ・ 仕事にトラウマがあるから。(20 歳代女性)
- ・ 働きたくても子供の面倒を見てくれる人を探すのが大変だから。(40 歳代女性)
- ・ 体力・健康に自信がないから。(50 歳代女性)
- ・ 孫の世話のため。(60 歳以上女性)
- ・ 重い障害のある子供を介護しているため、肉体的、精神的、時間的に難しい。(60 歳以上女性)
- ・ 面接しても障害者のせいか雇ってもらえないため。(40 歳代女性)
- ・ 精神的な病気のため就業できない。(60 歳以上男性)
- ・ 知的障害のため。(30 歳代男性 ほか)
- ・ 定年退職したため。(60 歳以上男性 ほか)

等

問 10 職場での女性の働き方について、次のうちどれが望ましいと思いますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

職場での女性の望ましい働き方について尋ねたところ、「男女という性別に関わりなく能力主義によって仕事を与えられるべきである」という回答が67.2%と最も高く、以下「男女同等の仕事をするべきである」が11.9%、「仕事には男女の役割分担があり、女性でなくてはできない仕事をするべきである」が10.8%という結果でした。前回調査と比較しても大きな差は見られませんでした。

(n=673)



その他

- ・能力主義で平等に仕事を与えられるべきだが、女性の出産・子育てを支援するサービスがもっとも充実しないと実際は難しい。(40歳代女性)
- ・技術に応じて。(60歳以上女性)
- ・男女問わず適性と家庭の状況に応じた働き方が望ましい。(50歳代女性)

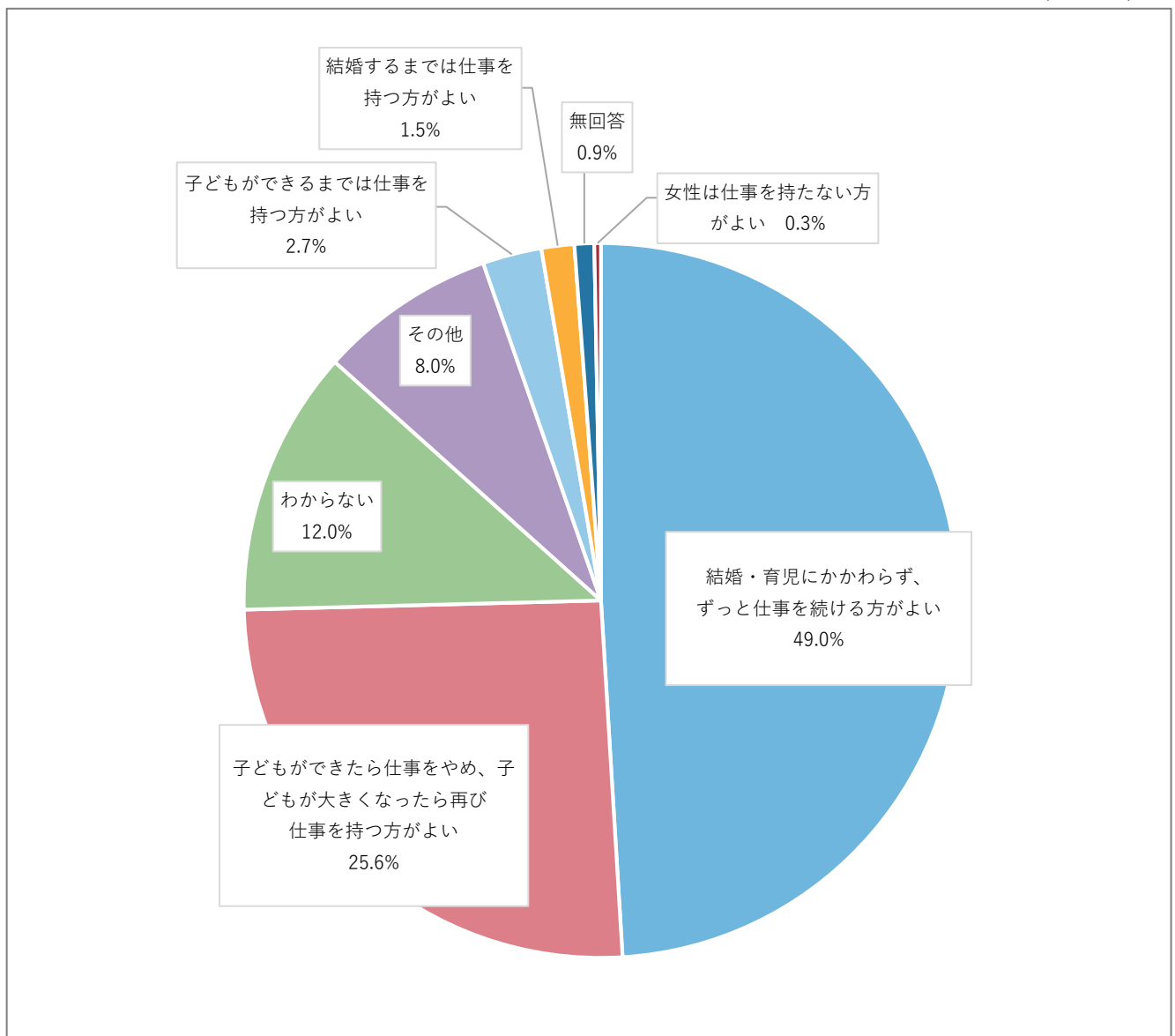
等

問 11 一般的に、女性が仕事を持つことについて、次のうちどれが望ましいと思いますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

女性が仕事を持つことについて望ましいと思うものを尋ねたところ、「結婚・育児にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が49.0%と最も高く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が25.6%、「わからない」が12.0%という結果でした。

前回調査と比較すると、前回調査では「結婚するまでは仕事を持つ方がよい」という回答は32.7%だったのに対し、今回調査では1.5%であり、また、前回調査で「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」という回答は1.9%だったのに対し、今回調査は25.6%と回答に大きく差が出ました。(右グラフのとおり)

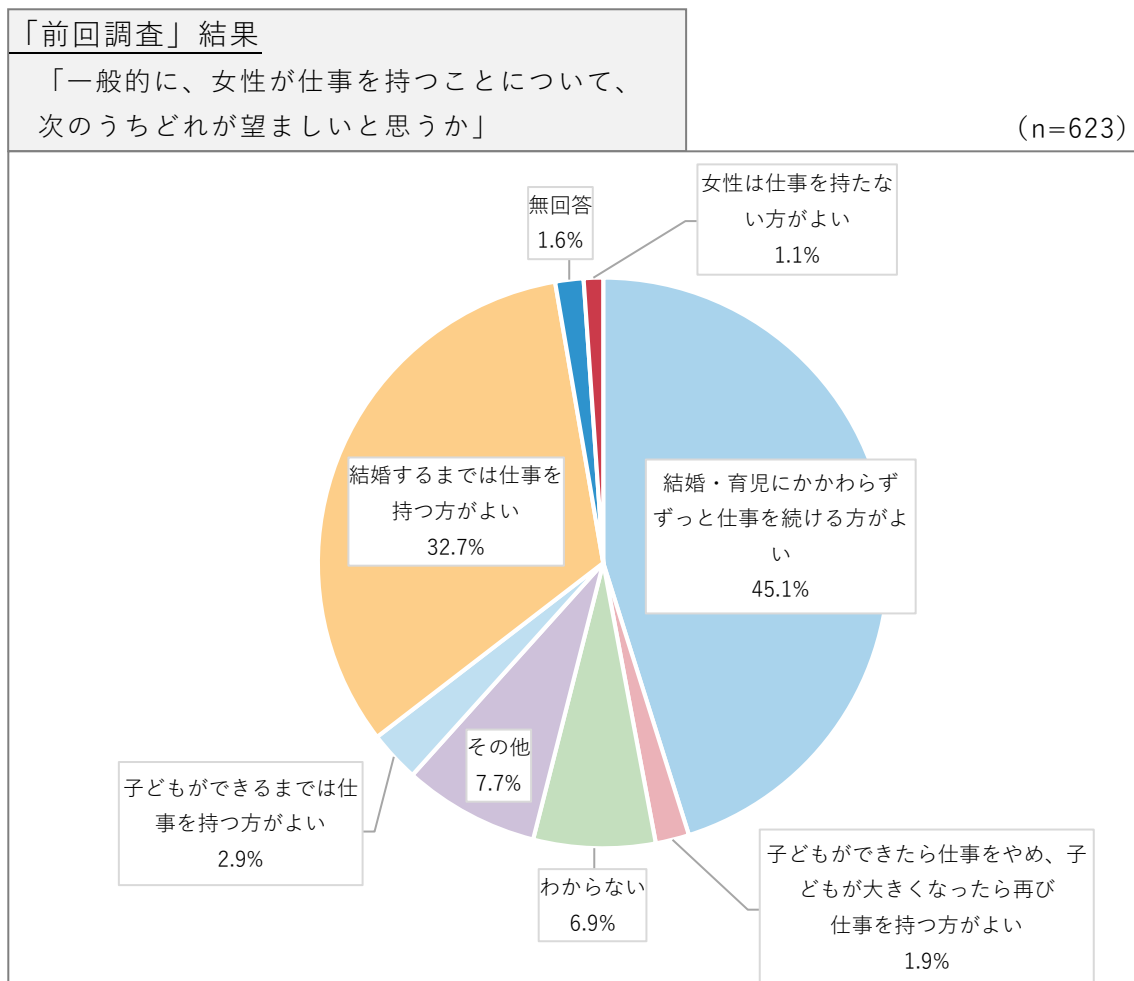
(n=673)



その他

- ・個人の判断による。(60歳以上男性 ほか多数)
- ・個人の状況と考え次第なので一般化して論じるべき問題ではないと思う。(30歳代男性)
- ・結婚や育児を選んだとしても、未婚を選んだとしても、女性自身が自分に都合の良いよう、仕事を持つなりそれ続けるなり辞めるなり、自由に選択すれば良い。(30歳代女性)
- ・家庭によると思う。(20歳代女性)
- ・結婚育児に関わらず、仕事を続けたり辞めたりできるほうがよい。(20歳代男性)
- ・仕事をしたければすれば良い。したくないのに無理する必要はないと思う。社会は、したい人に平等に機会を与えるべき。(50歳代女性)
- ・ずっと仕事を続ける方が良いが、育児も大変、大事なこと。(60歳代女性)
- ・夫婦で話し合うべき。(20歳代男性)
- ・女性が仕事を持つ事について何が望ましいかは、それぞれのライフプランがあるので何とも言えないが、一番大切な事は、周囲のサポート環境だと思う。(30歳代女性)
- ・その人自身の望みで決められるのが一番だが、結婚や子育てで働くことが阻害されない制度は必要だと思う。(20歳代女性)
- ・結婚、出産、育児、介護 etc. その都度に合わせて多様な選択肢があることが望ましい。(50歳代女性)
- ・産休・育児休暇等を使って仕事を続ける方がよい。会社が産休・育児休暇がとれるようにした方がよい。(50歳代女性)
- ・男女とかではなく仕事をできる方がやった方がいいのでは。(20歳代女性)

等

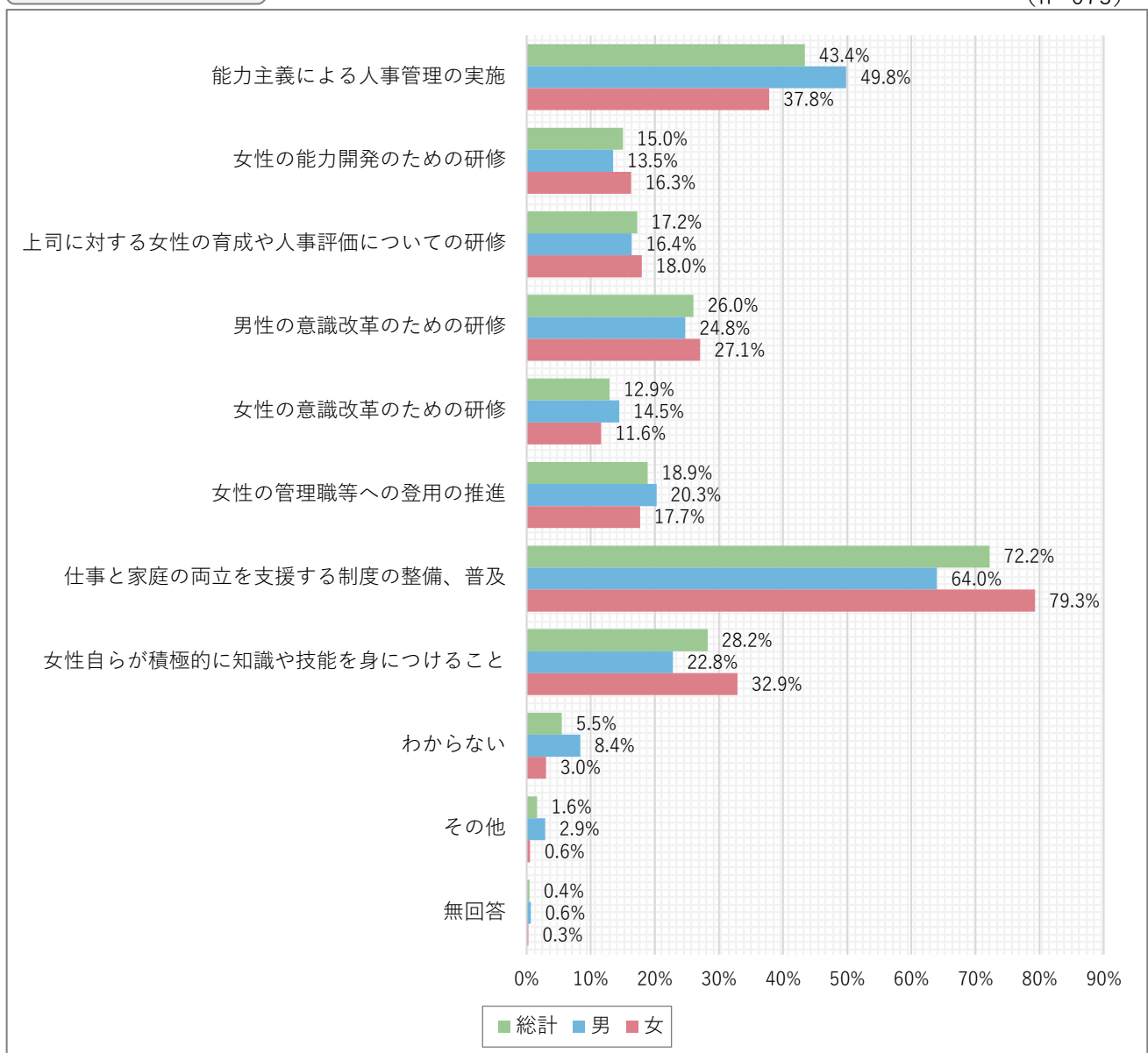


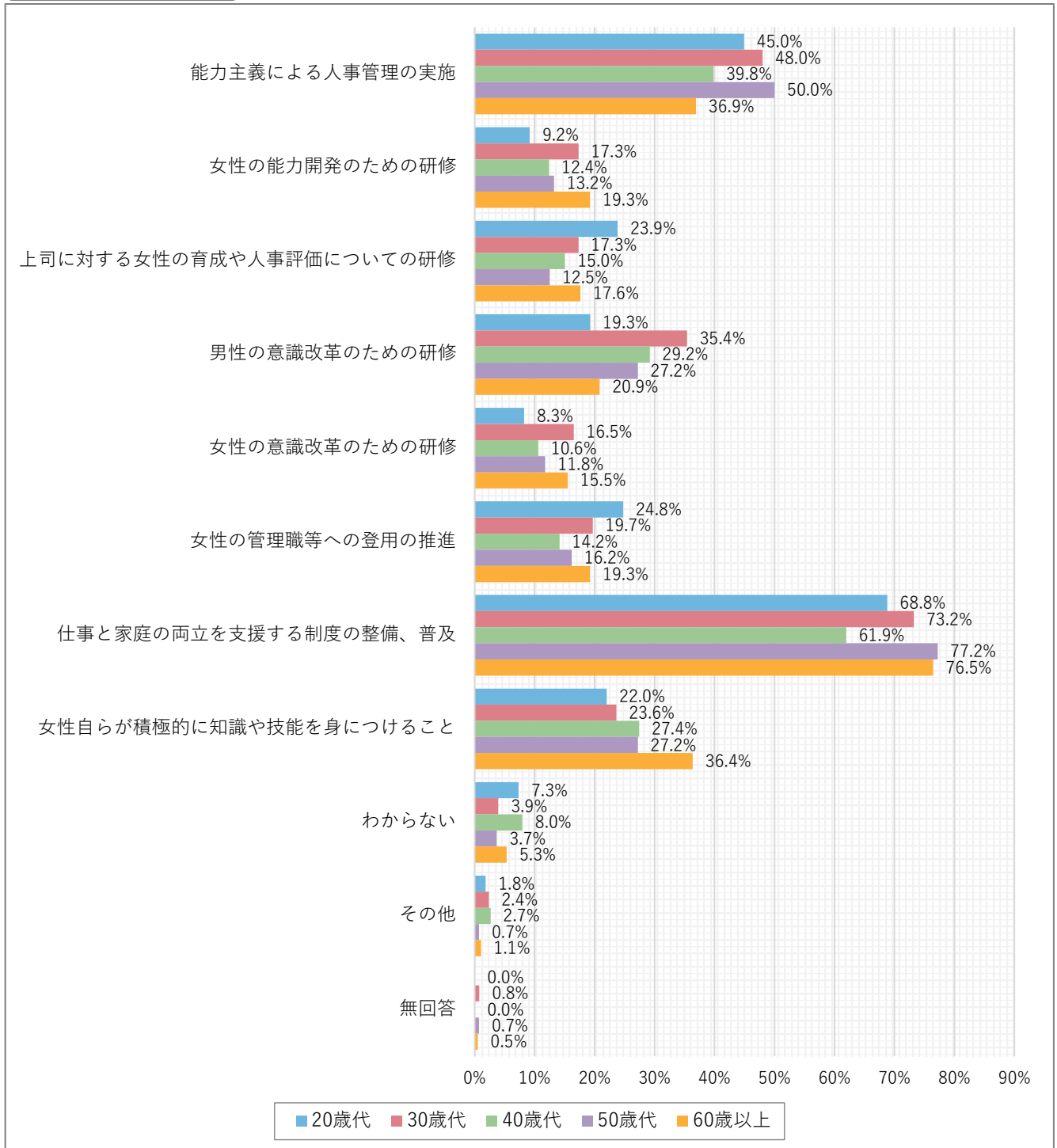
問 12 女性が職場で能力を発揮するためにどのようなことが必要だと思いますか。
 あてはまるものを3つまで選んでください。

女性が職場で能力を発揮するために必要なことについて尋ねたところ、最も多かったのは「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備、普及」で72.2%、次いで「能力主義による人事管理の実施」が43.4%、「女性自らが積極的に知識や技能を身につけること」が28.2%となっています。女性のおよそ8割の方が、女性が職場で能力を発揮するためには、「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備や普及」が必要と感じています。

性別でみた場合

(n=673)



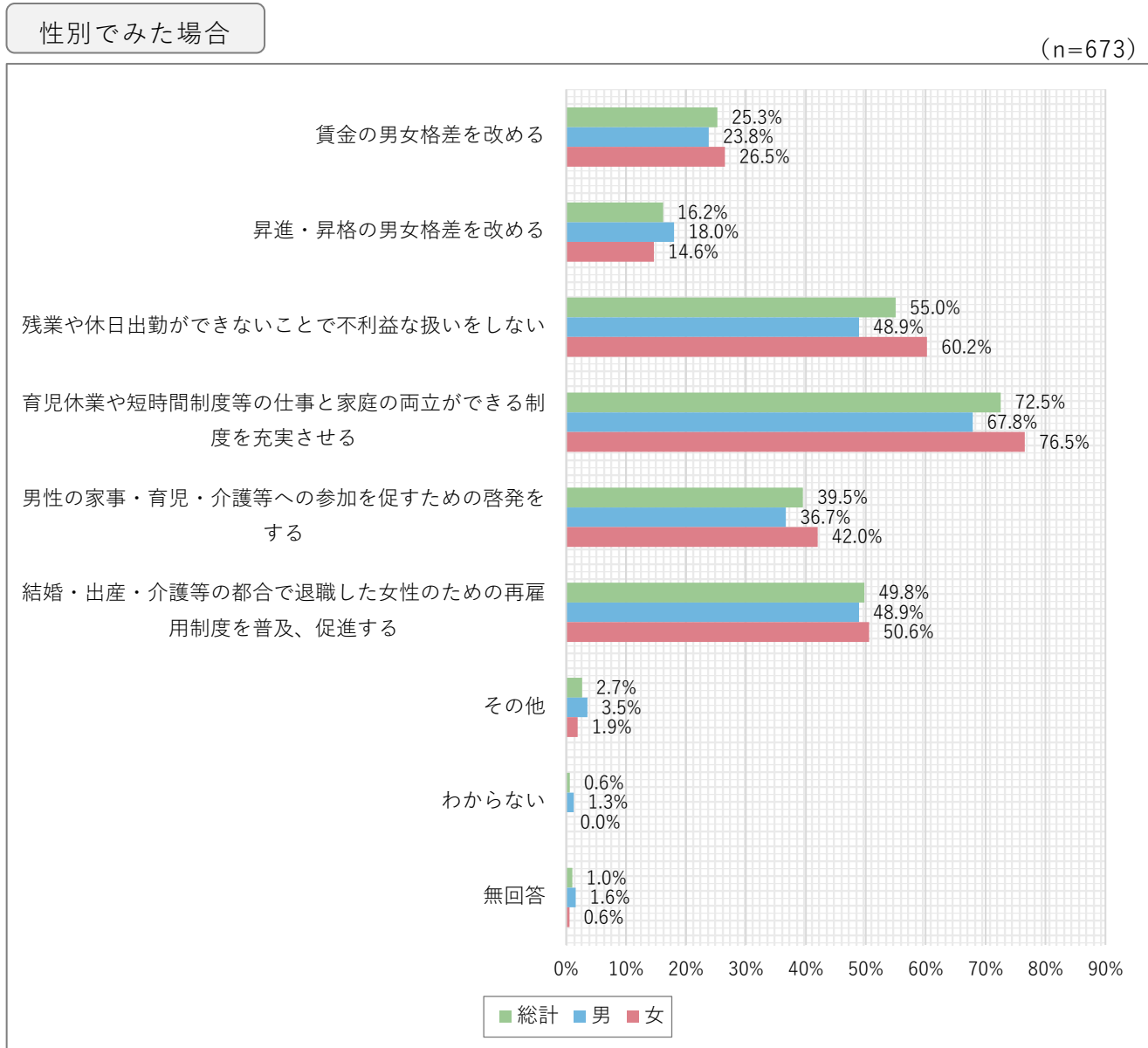


その他

- ・男女双方に意識改革が必要。(50歳代女性)
- ・女性への教育が大事だと思います。1人でも生きていけるだけの知識や技術、能力、価値観を幼少期から育成することが大切です。千葉県は教育にお金をかけなさすぎです。性教育も同じです。人生を豊かにしていくために、大人たちが次世代の子供たちにしてあげられること、キャリア形成のために考えさせなければいけないことを、しっかりと教育する必要があります。(30歳代男性)
- ・女性だけが仕事と家庭の両立をするのではなく、男性・女性も両立できたら良いと感じる共通認識が必要なのではないか。(30歳代男性)
- ・ベビーシッターを育てて、いつ母になっても子育てを手伝ってもらえる環境を作ってあげる。世の中みんなで子育て応援する。(40歳代男性)

問 13 女性が結婚・出産後も働き続けるにはどのようなことが必要だと思いますか。
 あてはまるものを3つまで選んでください。

女性が結婚・出産後も働き続けるために必要なことについて尋ねたところ、最も多かったのが、「育児休業や短時間制度等の仕事と家庭の両立ができる制度を充実させる」で72.5%でした。次いで「残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない」が55.0%、「結婚・出産・介護等の都合で退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する」が49.8%という結果でした。



その他

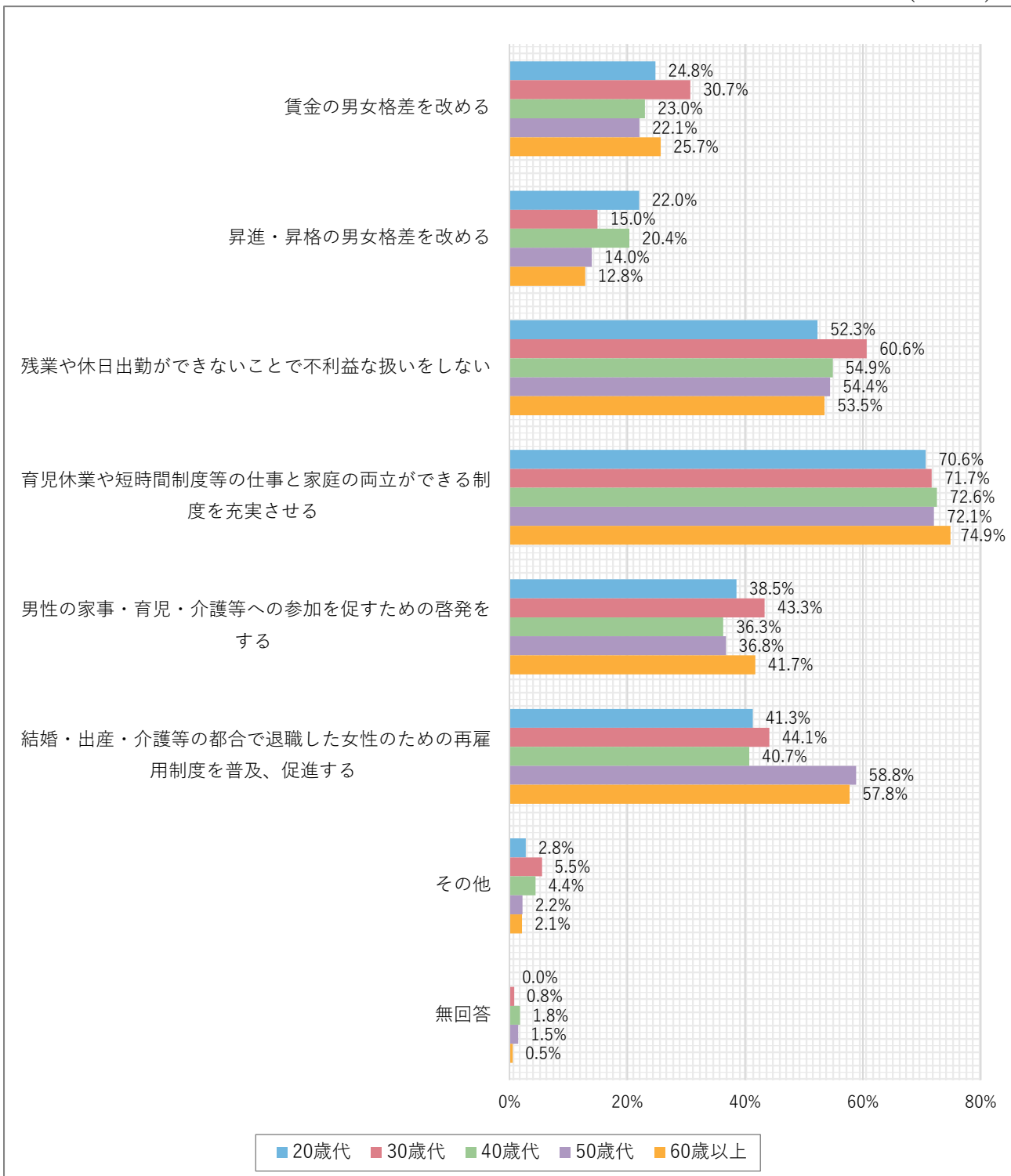
- ・公務員のように退職しなくてもすむ環境がどの職場にもあるようにすることが必要。(40歳代女性)
- ・職場復帰へのサポート。(20歳代男性)
- ・ひとりひとりの思いやり。(30歳代女性)
- ・男性と同様の仕事をする。(40歳代男性)
- ・出産を除いて結婚・介護については、男性にも適用しないのか？男女差を感じる質問だと感じた。(30歳代男性)

等

年代別にみた場合、「結婚・出産・介護等の都合で退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する」ことは、50歳代、60歳以上の世代では60%近くの方が必要だと感じており、他の年代と比べると高くなっています。

年代別でみた場合

(n=673)



5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 14 「仕事」、「家庭生活^{※1}」、「地域活動・個人の活動^{※2}」の優先度についてあなたの希望に最も近いものはどれですか。

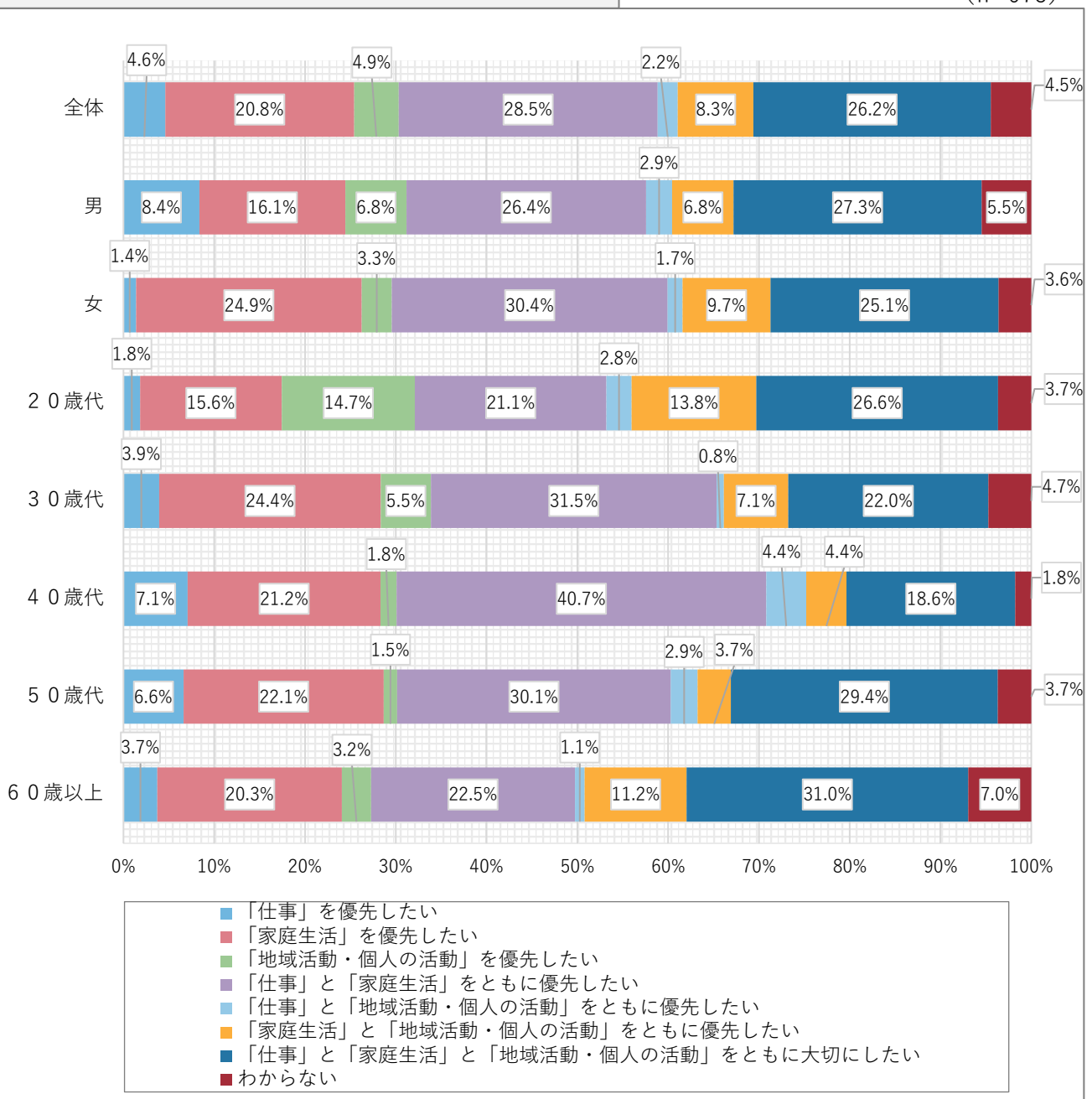
※1「家庭生活」は、『家族と過ごすこと、家事、育児、介護等』を指します。

※2「地域活動・個人の活動」は『地域・社会活動（ボランティア活動、社会参加活動、付き合い等）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽・スポーツ等』を指します。

ワーク・ライフ・バランスについて、「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の活動」の優先度の希望（以下、「優先度の希望」という。）を尋ねたところ、全体で見ると『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』という回答が28.5%と最も多く、次いで『「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の活動」をともに大切にしたい』という回答が26.2%でした。

ワーク・ライフ・バランスの「優先度の希望」

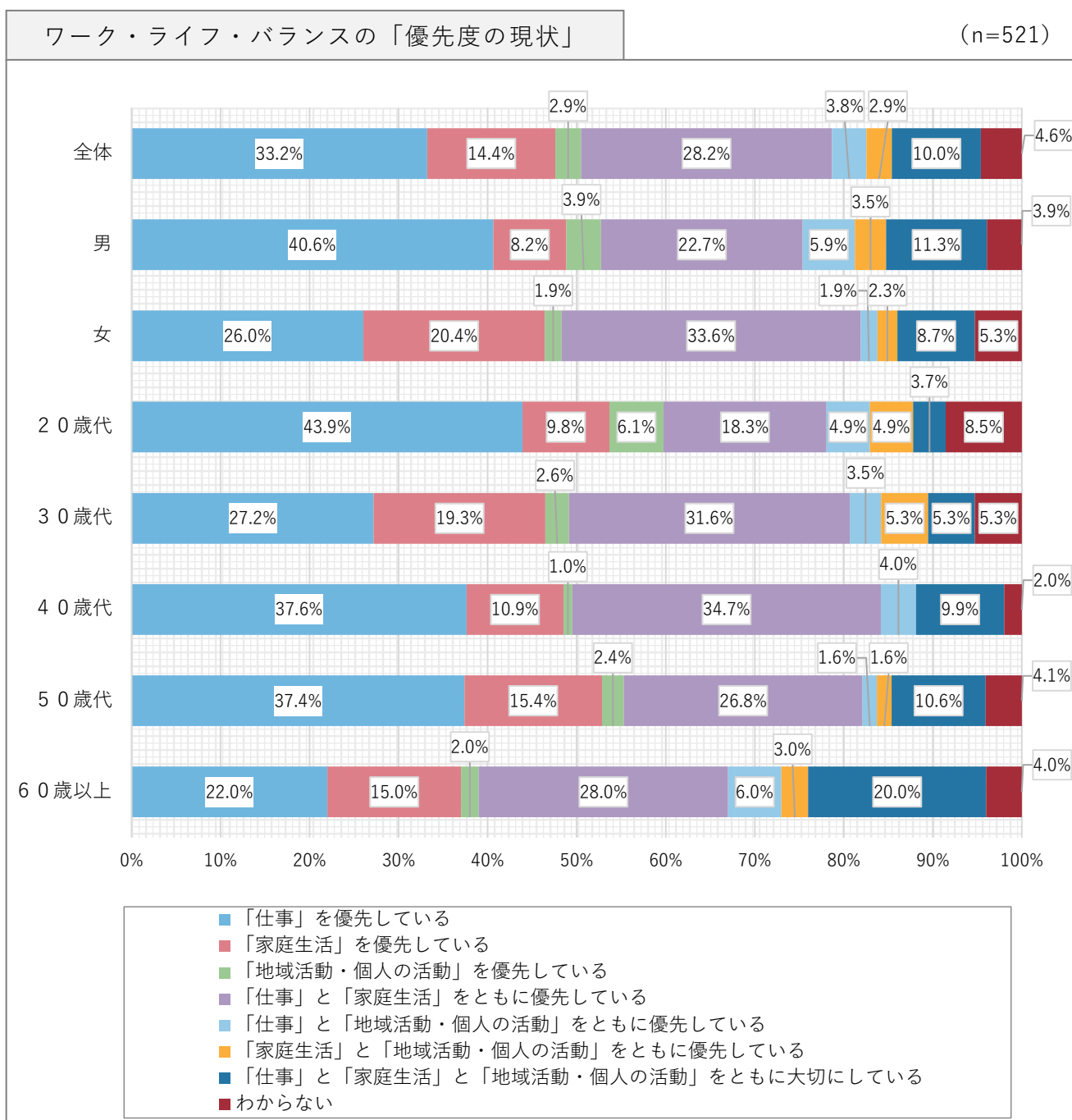
(n=673)



問 15 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の活動」の優先度についてあなたの現状・現実に最も近いものはどれですか。(働いている方のみ回答)

ワーク・ライフ・バランスについて、左ページの「優先度の希望」と優先度の現状・現実（以下、「優先度の現状」という。）を比べると、全体でみても、性別・年代別でみても「仕事を優先」という回答割合は、「優先度の現状」の方が高い割合を占めています。「仕事を優先」という回答について、「優先度の希望」と「優先度の現状」とで開きが最も小さい年代は60歳以上で18.3ポイント、最も大きい年代は20歳代で42.1ポイントの差がありました。

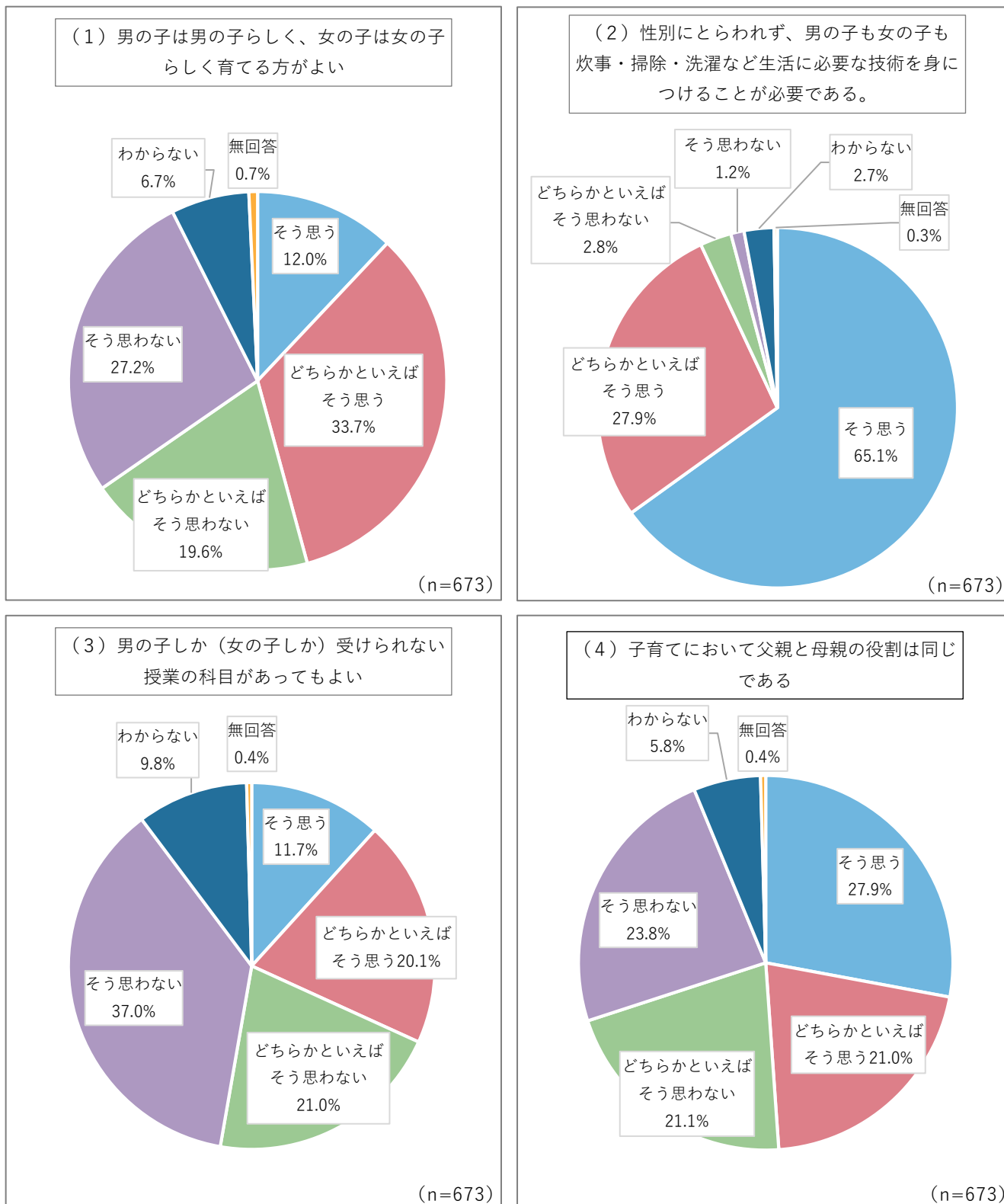
一方、「優先度の希望」で最も回答割合が多かった『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』という回答は、「優先度の現状」と比較してもほとんど差がありませんでしたが、『「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の活動をともに大切にしたい』という回答を「優先度の希望」と「優先度の現状」とで比較すると「優先度の現状」の方が少なくなっていることから「地域活動・個人の活動」の時間は、「仕事」・「家庭生活」とともに十分に確保することは難しいことが見受けられます。



6 子育て・教育について

問 16 あなたは、子育てや子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。
各項目についてそれぞれ1つ選んでください。

子育てや子どもの教育における男女平等の意識について以下の4つの項目について尋ねたところ、次のとおりでした。



上記4つの項目についての性別・年代別の回答については次のとおりです。

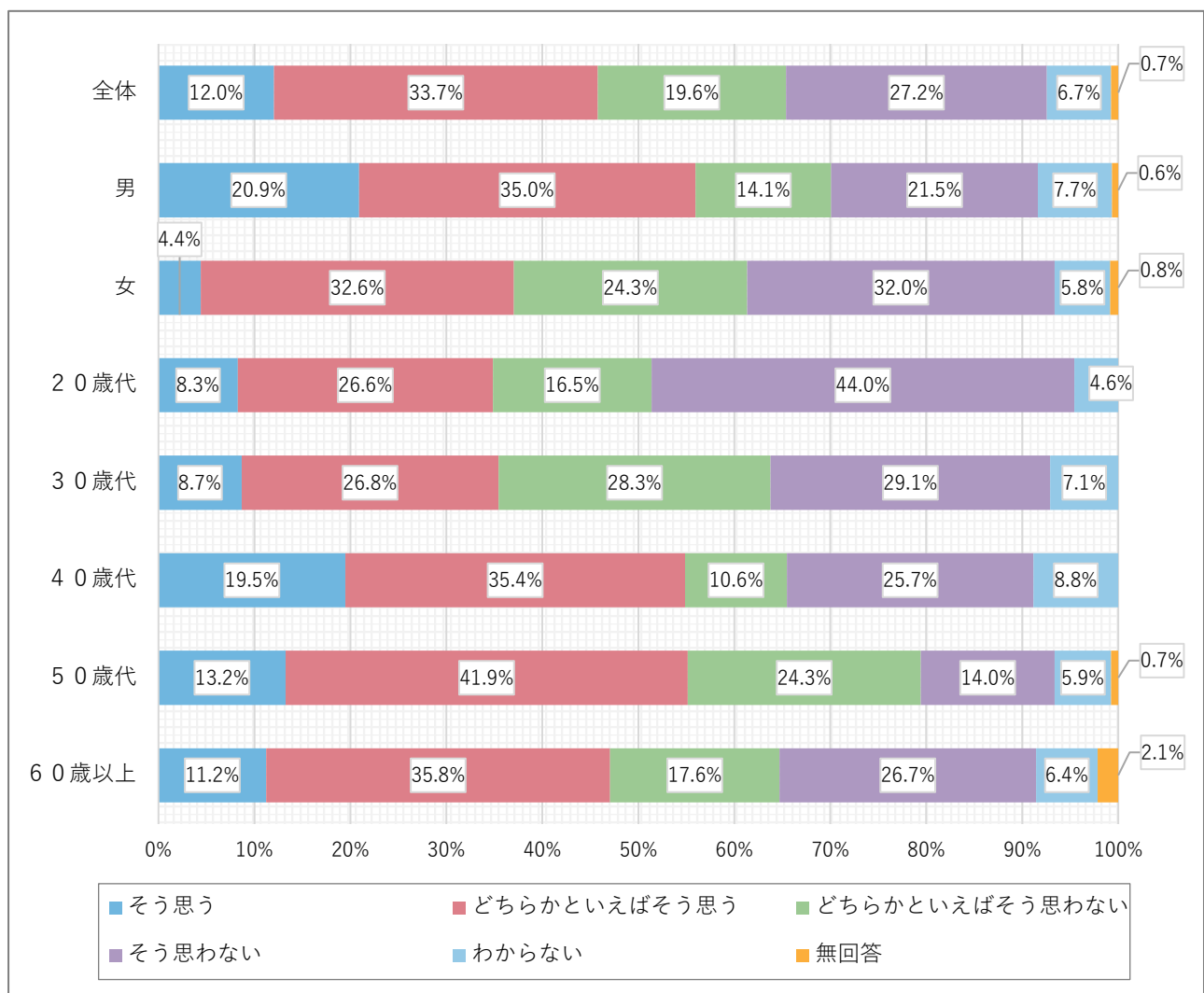
問 16 あなたは、子育てや子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。
各項目についてそれぞれ1つ選んでください。

(1) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」という質問に対し、全体でみると「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答（以下「賛成」という。）は45.7%となっており、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた回答（以下「反対」という。）は46.8%と「賛成」と「反対」が拮抗しています。

性別でみると、「賛成」は男性が55.9%に対し、女性は37.0%であり、「反対」は男性が35.6%に対し、女性は56.3%とほぼ正反対の割合であることが見られます。

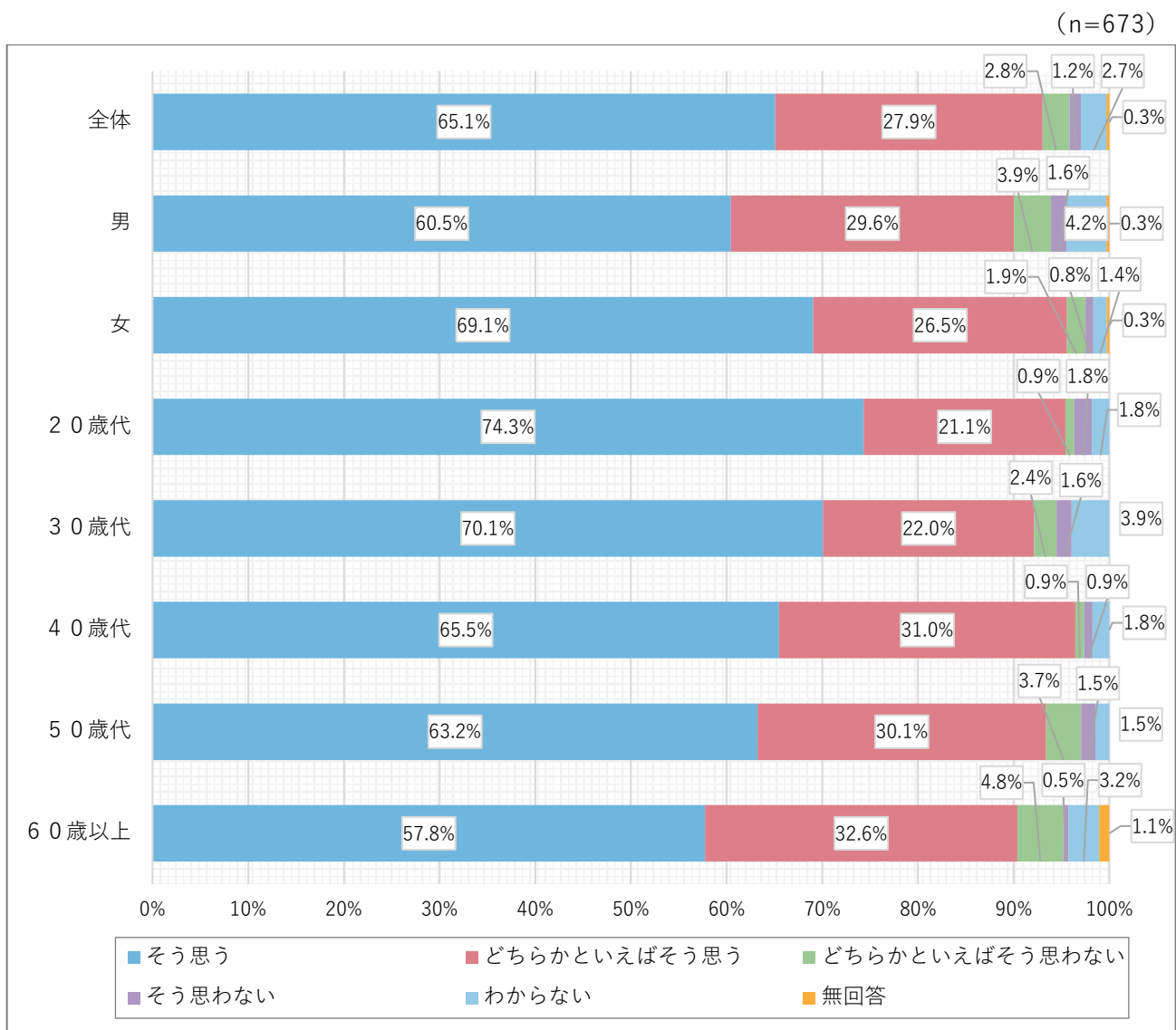
(n=673)



問 16 あなたは、子育てや子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。
各項目についてそれぞれ1つ選んでください。

(2) 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である。

性別にとらわれず、生活に必要な技術を身につけることが必要かどうかについて、性別・年代別でもほとんど差はなく、「賛成」という回答はいずれも90%を超えており、最も高かったのは40歳代で96.5%でした。前回調査では男性の回答と60歳以上の回答で「賛成」が85%ほどでしたが、今回調査では性別で見たとときも年代別で見たとときもいずれの回答でも90%を超えています。

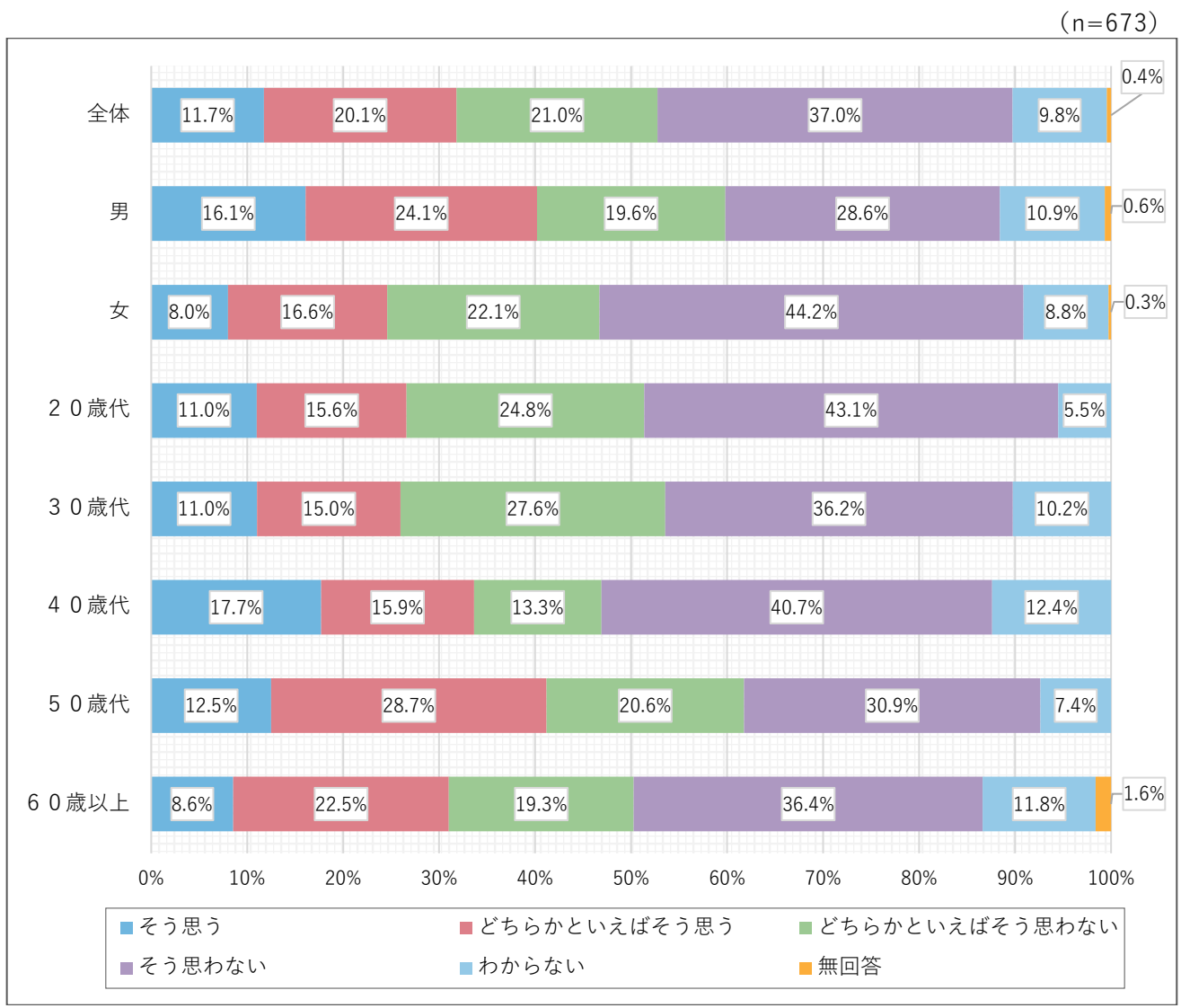


問 16 あなたは、子育てや子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。
各項目についてそれぞれ1つ選んでください。

(3) 男の子しか(女の子しか)受けられない授業の科目があってもよい

性差によって受けられない授業の科目があってもよいかについて、全体でみると「賛成」が31.8%、「反対」が58.0%、「わからない・無回答」が10.2%でした。

性別でみると、男性の方が「賛成」と回答している方が多く40.2%、女性が24.6%、「反対」は男性が48.2%、女性が66.3%という結果でした。

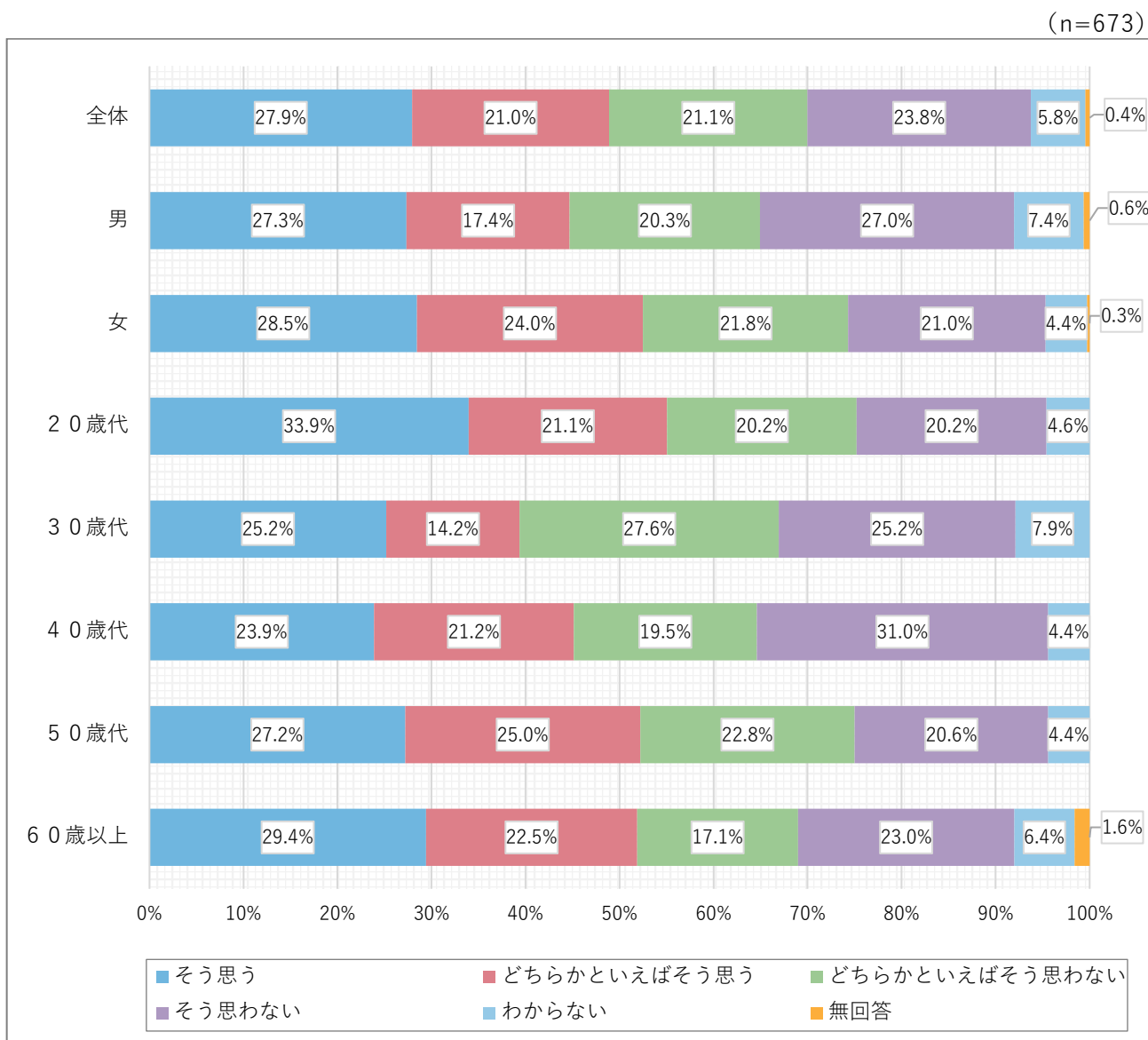


問 16 あなたは、子育てや子どもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。
各項目についてそれぞれ1つ選んでください。

(4) 子育てにおいて父親と母親の役割は同じである

子育てにおいて父親と母親の役割は同じであるかについて、全体でみると「賛成」は 48.9%、「反対」は 44.9%という結果であり、「賛成」が「反対」をやや上回っています。

年代別でみると 20 歳代、50 歳代、60 歳以上は「賛成」がやや上回り、30 歳代、40 歳代は「反対」がやや上回っています。



7 少子・高齢化について

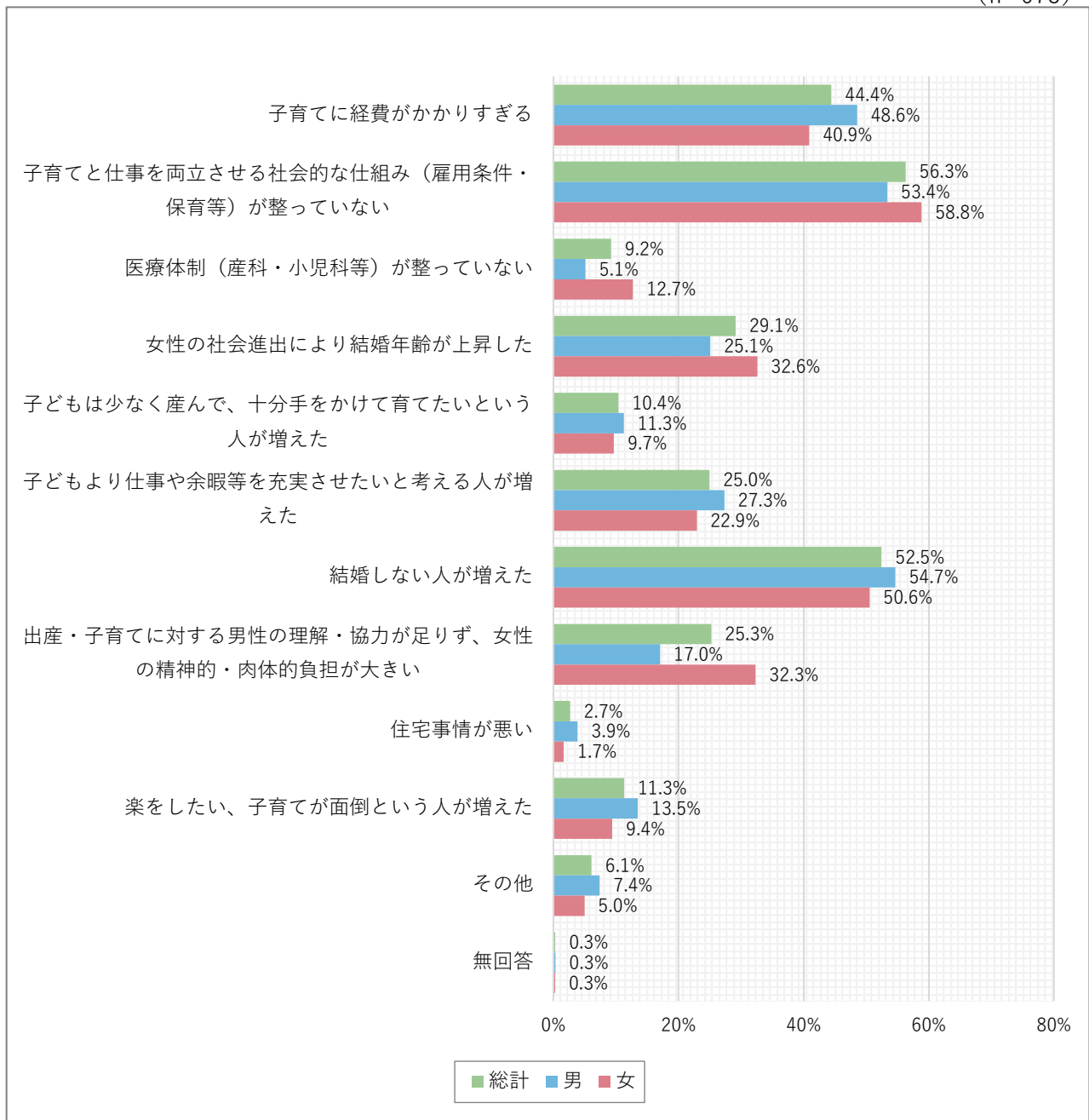
問 17 あなたは出生率が低下している原因は何だと思いませんか。あてはまるものを3つまで選んでください。

出生率が低下している原因について尋ねたところ、最も多かったのが「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」が56.3%で、次いで「結婚しない人が増えた」が52.5%、「子育てに経費がかかりすぎる」が44.4%という結果でした。

性別で見ると、男性の最も多い意見が「結婚しない人が増えた」で54.7%、女性の最も多い意見が「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」で58.8%でした。

性別でみた場合

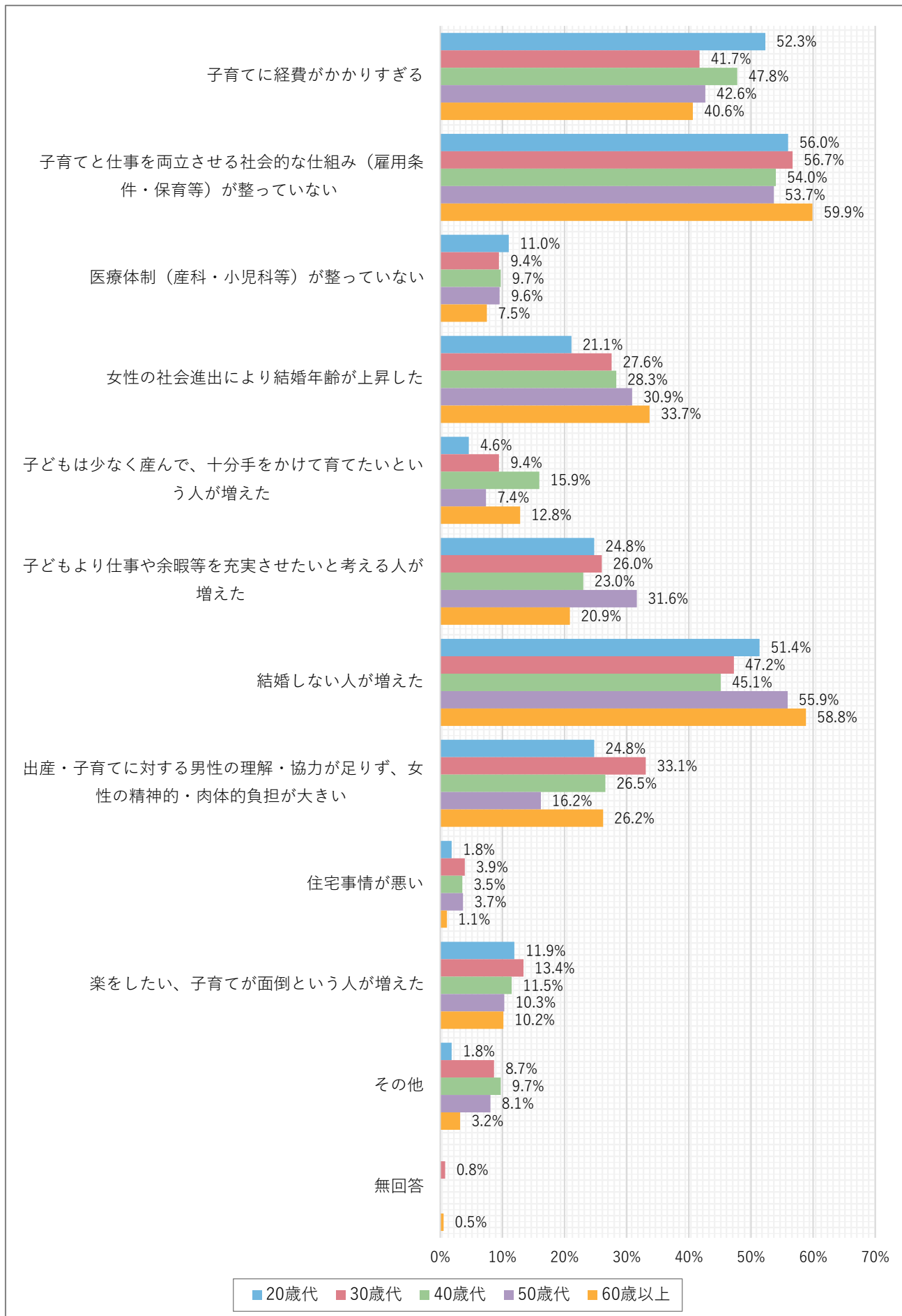
(n=673)



年代別で見た場合は、次のグラフのとおりです。

年代別でみた場合

(n=673)



その他

- ・結婚しても子どもを持たない、結婚しないという選択をする生き方をする人が増えた。(40 歳代女性)
- ・女性も働かないと生活が成り立たなくなった。(50 歳代女性)
- ・不妊の人が多い。(50 歳代女性)
- ・結婚や子育てに明るいビジョンや特別な価値を見出せない人や離婚率と再婚率の差がなかなか縮まらない印象。(30 歳代男性)
- ・取り巻く環境や社会に不安を感じ、子供を産む責任の重さを感じている (50 歳代女性)
- ・男女交際ができない人、結婚できない人が増えた。(50 歳代男性)
- ・世界の情勢が不安定で未来がみえない 子、孫を残してもかわいそう。(30 歳代女性)
- ・核家族化により子育ての負担が増えた。(50 歳代男性)
- ・子どもを産む以前に金銭的な補助や支援が受けにくく、税金や社会保険料、年金など負担が多く貯金がない。自分達が今も老後も安定した生活が出来るかも分からないのに子供を産めと言われても困るのではないか。(20 歳代女性)
- ・自分の親がそばに住んでいない状況で、共働きで子育てをするのは、父親、母親ともに負担感が非常に大きい。(40 歳代女性)
- ・1人でいても楽しいと思う世界が増えたから。ネットにつながる人との本当のつながりの方法がわかりづらいのではないだろうか。(40 歳代男性)
- ・昔に比べて養育費や日常経費がかさんでいる。携帯電話や習い事、娯楽施設など、そういったことも含めて子育てにお金がかかるからか。また、自己実現欲求が満たされる方法として、家庭を持ち子供を育てるだけという選択肢の世界では無くなったから。(30 歳代男性)

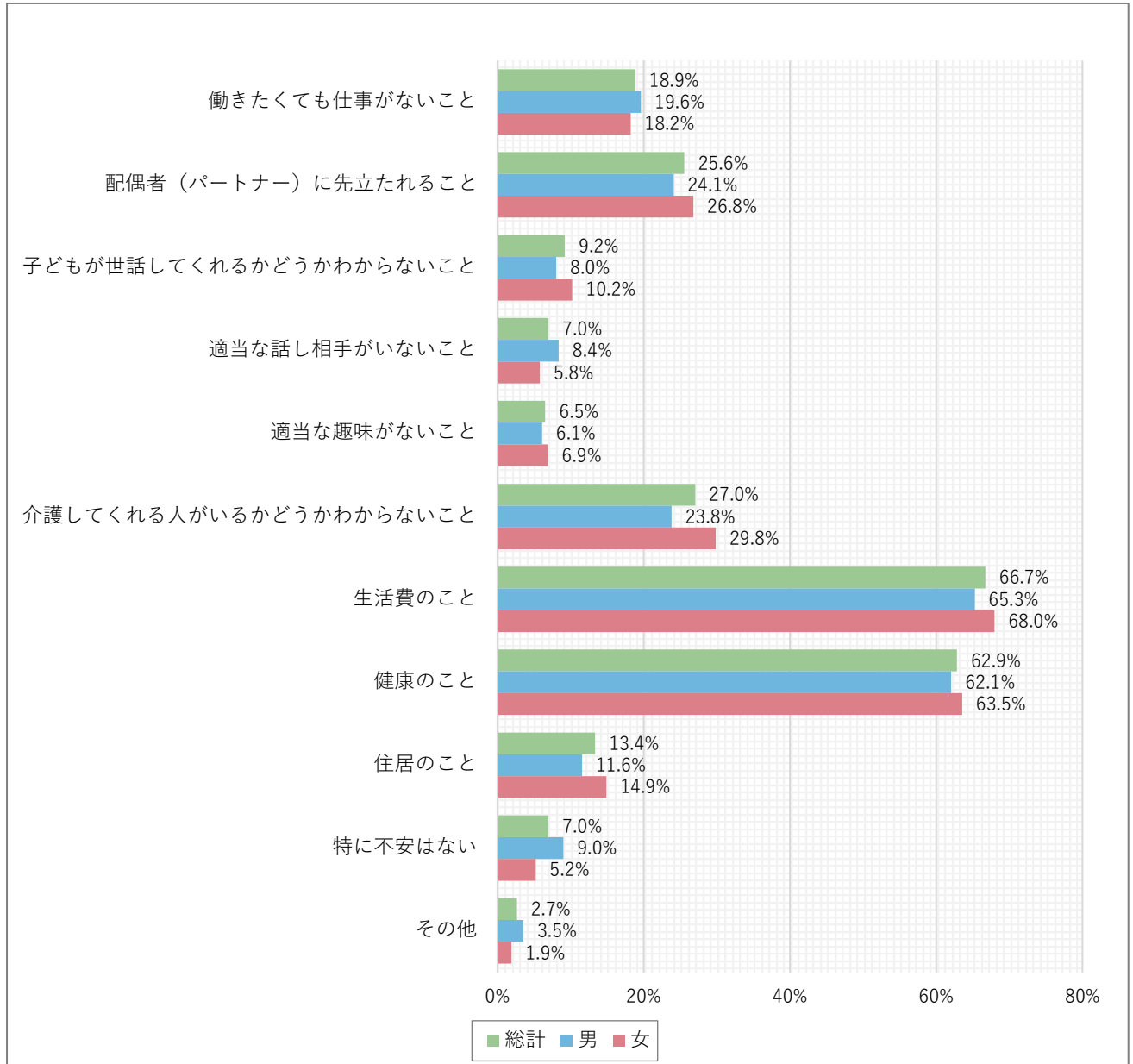
等

問 18 あなたが、自分の老後について不安に思うことは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

老後の不安について尋ねたところ、全体で見ると「生活費のこと」が最も多く66.7%、次いで「健康のこと」が62.9%でした。性別でも回答にほぼ差は見られませんでした。

性別でみた場合

(n=673)

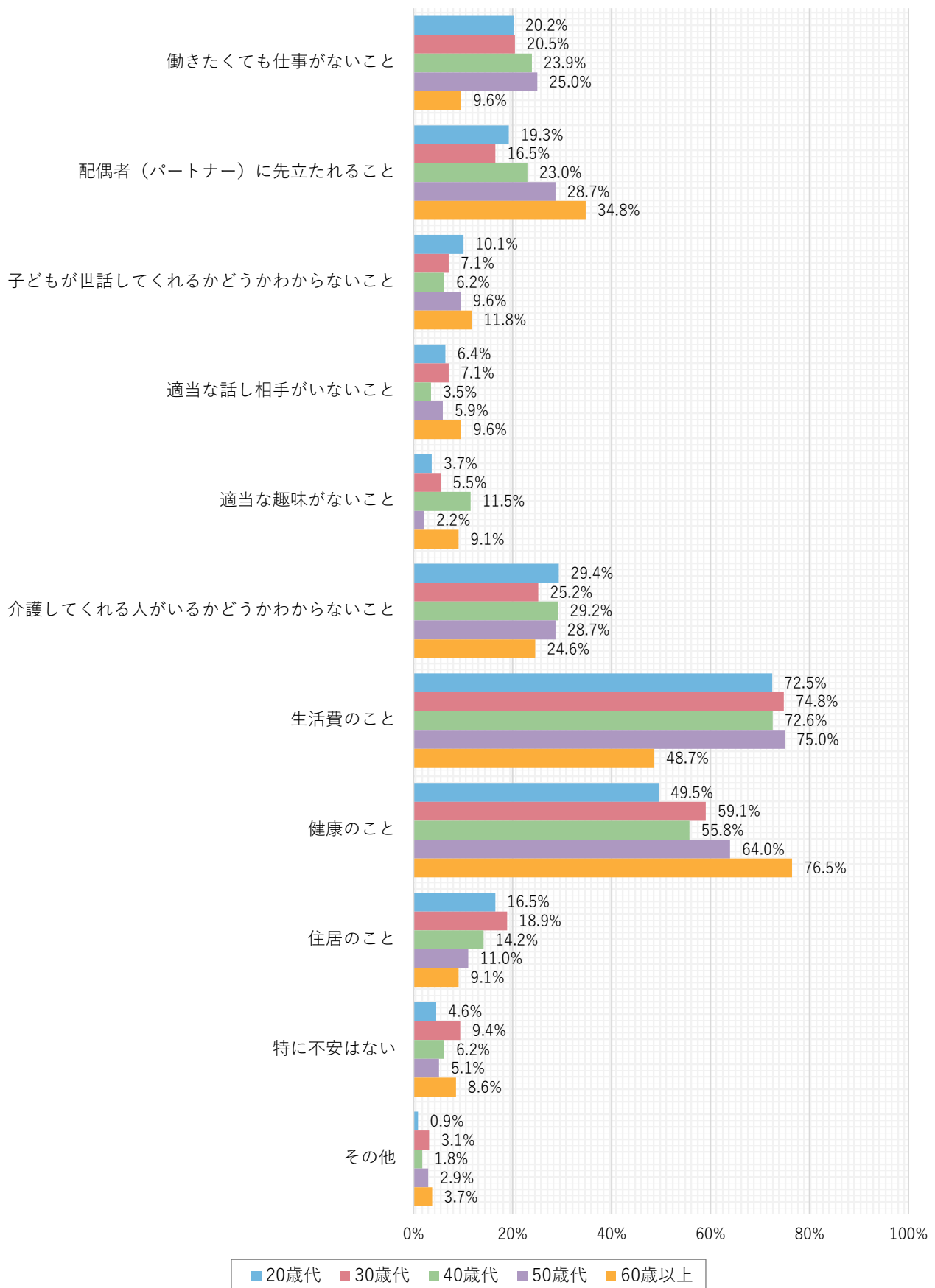


その他

- ・近くに買い物するところがない。(50歳代女性)
- ・子供が家庭を持てるか不安。(30歳代男性)

等

年代別で見ると、20歳代～50歳代は「生活費のこと」が最も高く、60歳以上は「健康のこと」が最も高いという結果でした。

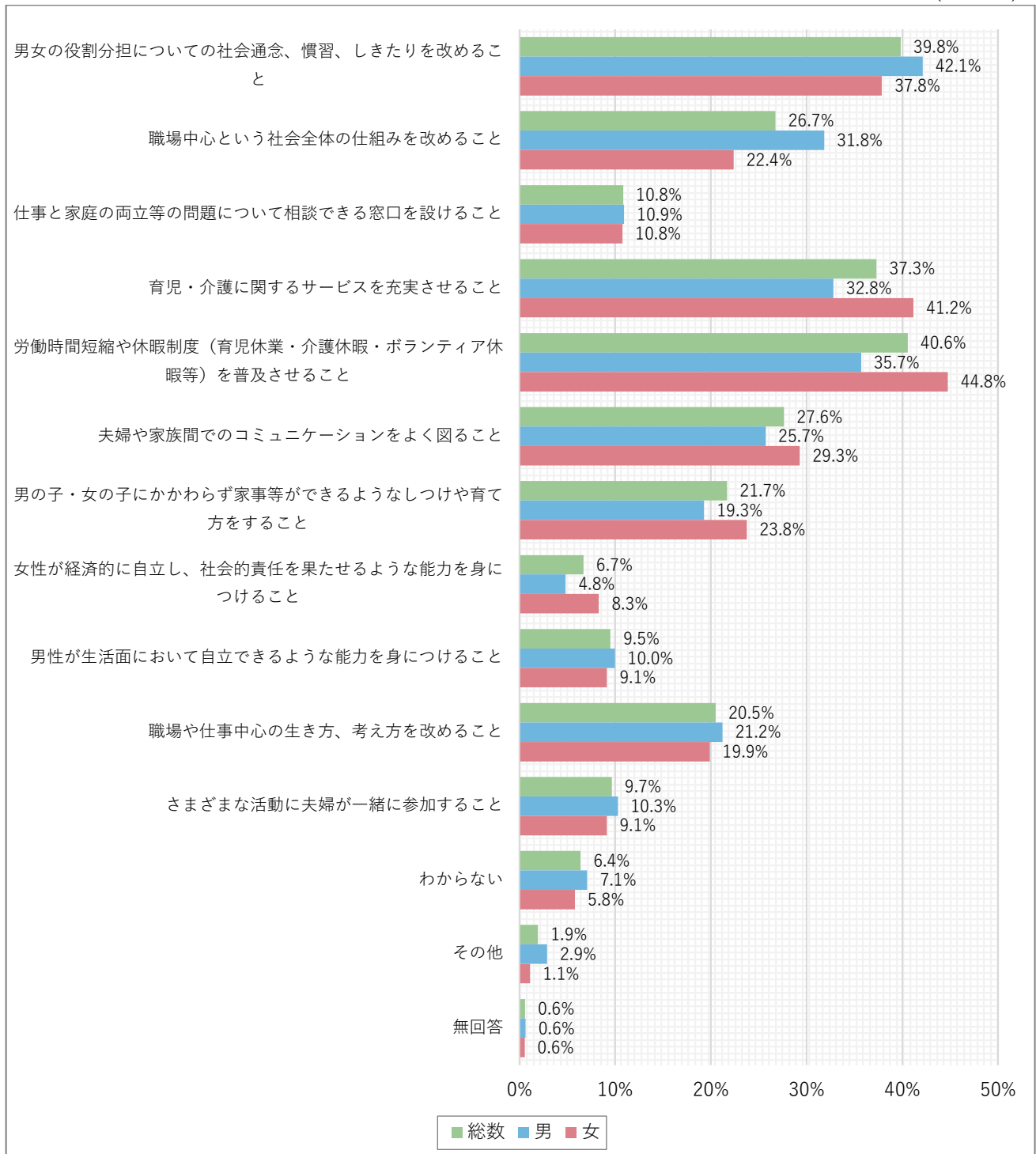


8 社会参加について

問 19 男女がともにあらゆる場面（仕事、家事、育児、介護、地域活動等）に、積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

男女がともにあらゆる場面（仕事、家事、育児、介護、地域活動等）に積極的に参加していくために必要なことについて尋ねたところ、「労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等）を普及させること」が最も高く40.6%、次いで「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が39.8%、「育児・介護に関するサービスを充実させること」が37.3%という結果でした。

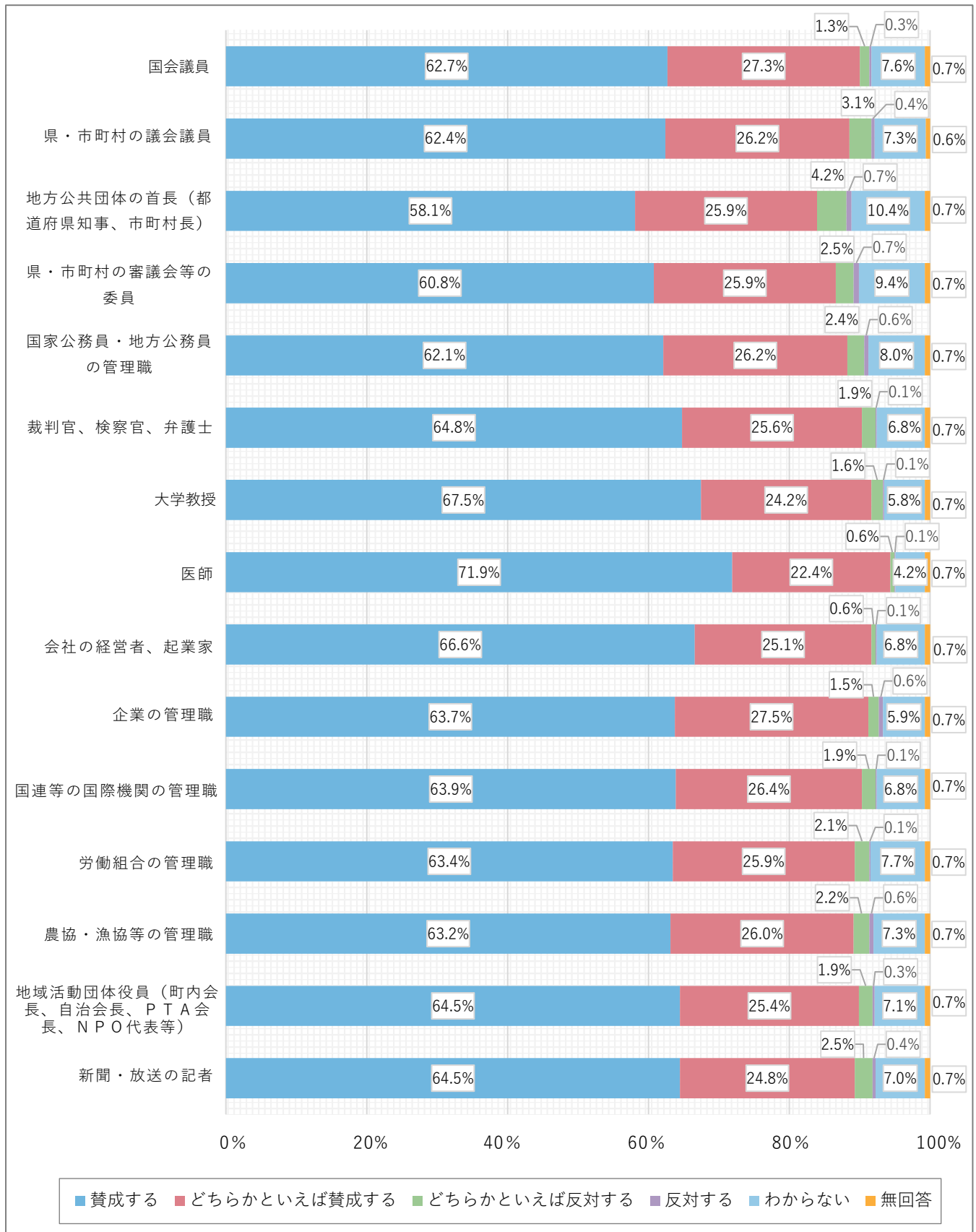
(n=673)



問 20 あなたは次にあげる役職・公職への女性の進出についてどのように思いますか。
各項目についてそれぞれ1つ選んでください。

各役職・公職においての女性進出についてどのように思うか尋ねたところ、「賛成」がいずれも80%を超えています。各役職・公職について、回答にほとんど差はありませんが、「賛成」という回答は「医師」が最も高く94.3%となっています。また「反対」という回答は、いずれの役職・公職についても10%未満です。

(n=673)



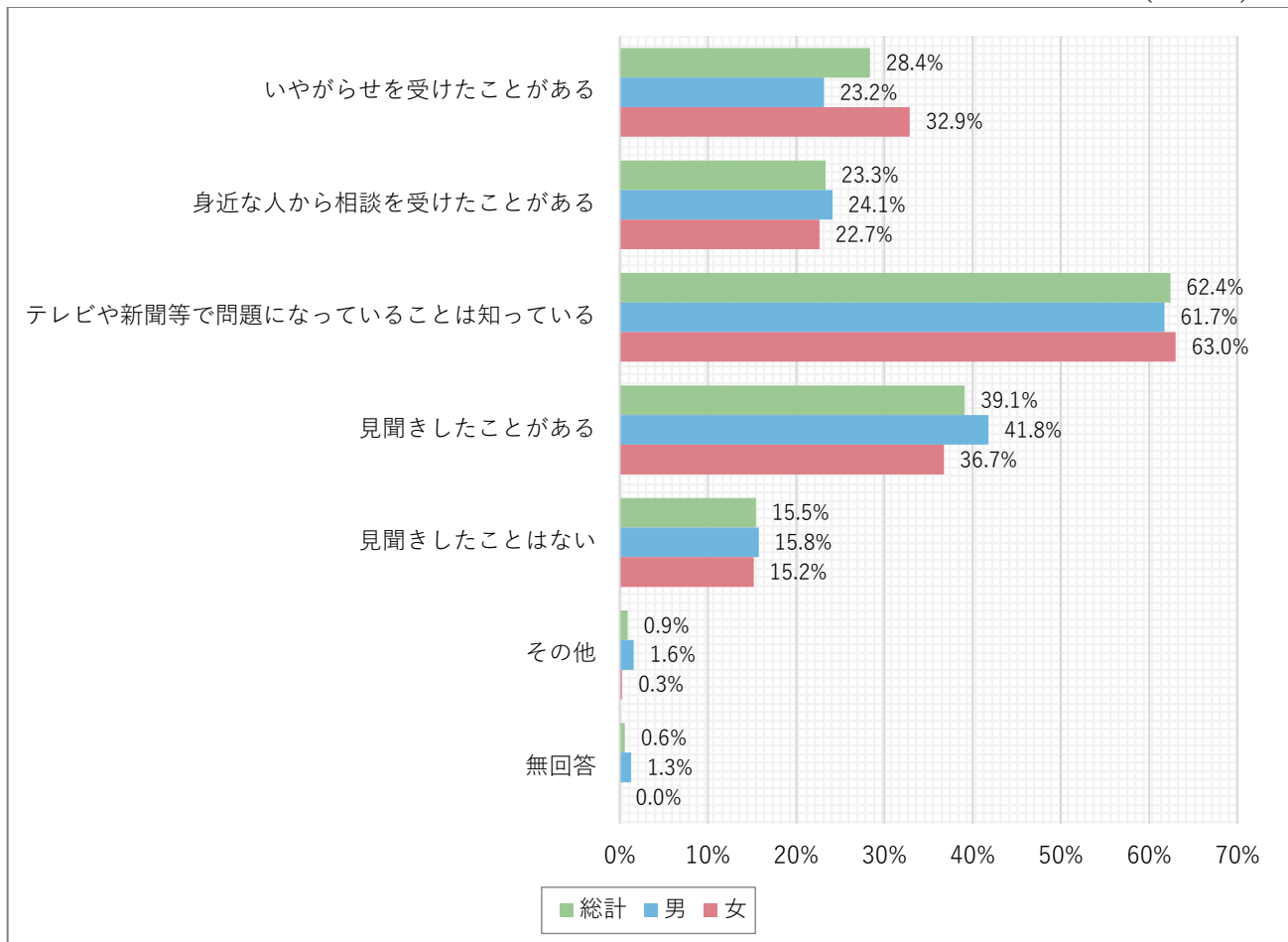
9 セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントについて

問 21 あなたは、セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）・パワーハラスメント（職権を乱用したいやがらせ）を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントを受けたことや身近で見聞きしたことがあるかについて尋ねたところ、28.4%の方が「いやがらせを受けたことがある」と回答しました。

性別でみると、「いやがらせを受けたことがある」と回答したのは、男性は23.2%、女性は32.9%と、女性の方が男性よりやや高い割合となっています。

(n=673)



その他

- ・本人の意識、感じ方の問題と思います。(50歳代男性)
- ・どんな言葉がパワーハラスメントになるのか勉強したいと思う。よくわかっていないので、きちんと知って理解したいと思う。(40歳代男性)

等

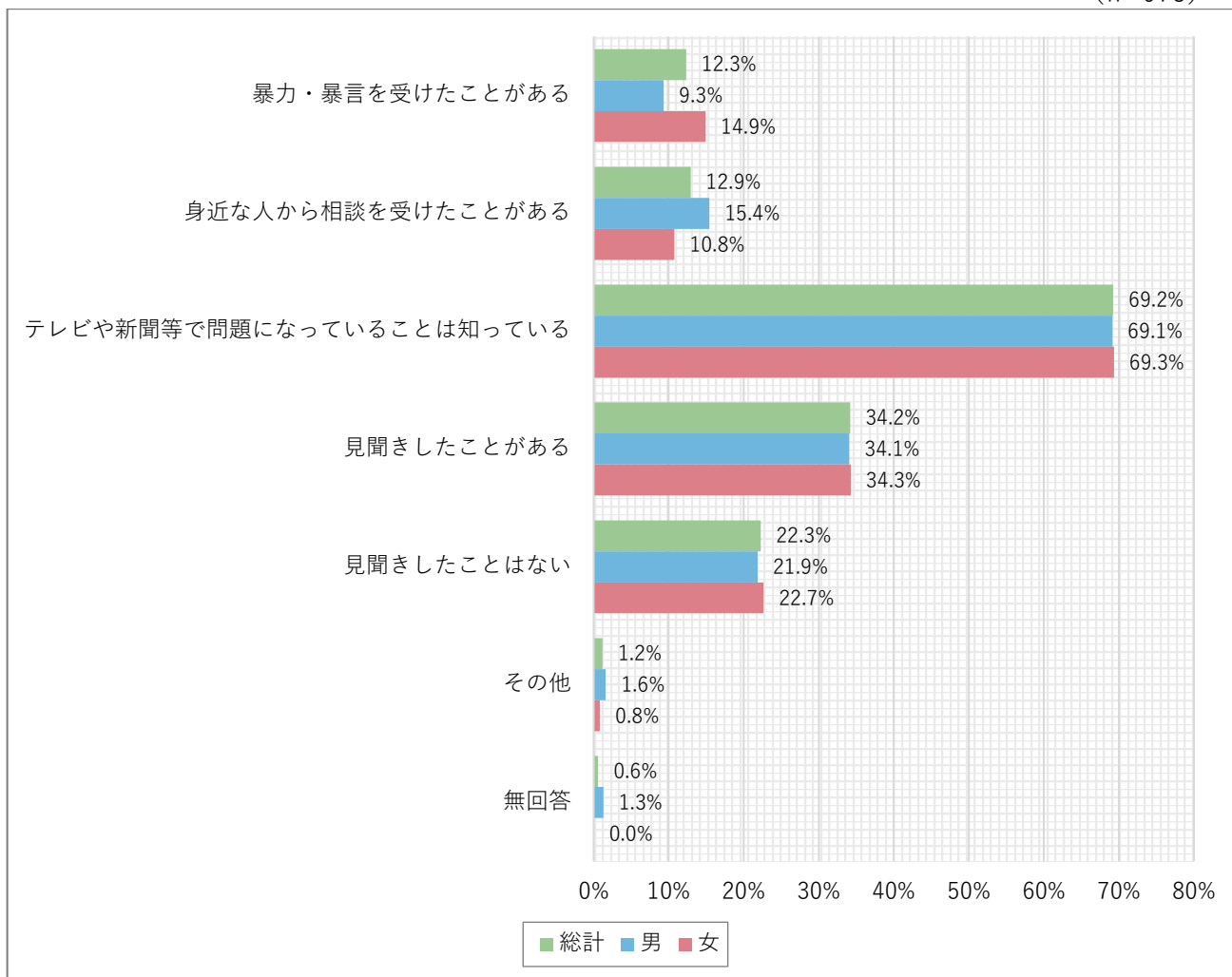
10 ドメスティック・バイオレンス（DV）について

問 22 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（夫婦間、恋人同士等の親しい間での身体的・心理的な暴力）を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。
あてはまるものを3つまで選んでください。

ドメスティック・バイオレンスを受けたことや身近で見聞きしたことがあるかについて尋ねたところ、12.3%の方が「暴力・暴言を受けたことがある」と回答しました。

性別でみると「暴力・暴言を受けたことがある」と回答したのは、男性は9.3%、女性は14.9%と、女性の方が男性より割合がやや高い結果となっています。

(n=673)



その他

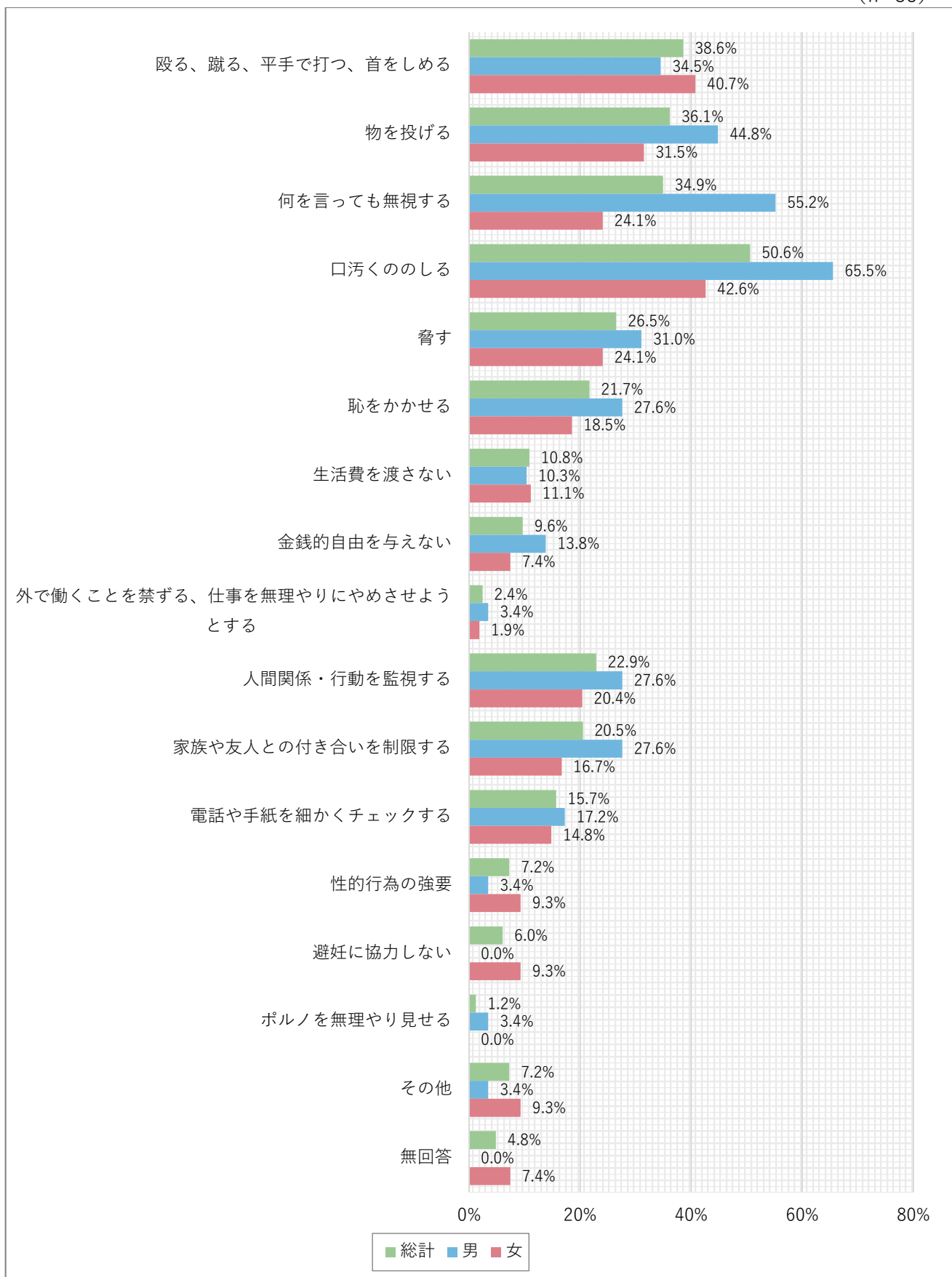
- ・知人に相談されたが、自分もどこへ相談したら良いかわからないのとプライベートな部分なので力になりたいが、聞き手であるしかない。誰もがすぐわかる相談窓口があったら良いと思う。相談員は、女性スタッフさんのほうが電話でも会ってでも話しやすいのではないかなと思う。男性だと相談したくないと思う。怖いのではないだろうか。(40歳代男性)
- ・相談業務で相談を受けたことがある。(60歳代男性)

等

問 23 あなたが受けたドメスティック・バイオレンスをすべてお選びください。
 (問 22 で「暴力・暴言を受けたことがある」と回答した方のみ回答)

「暴力・暴言を受けたことがある」と回答した方に、受けたドメスティック・バイオレンスについて尋ねたところ、以下のとおりでした。

(n=83)



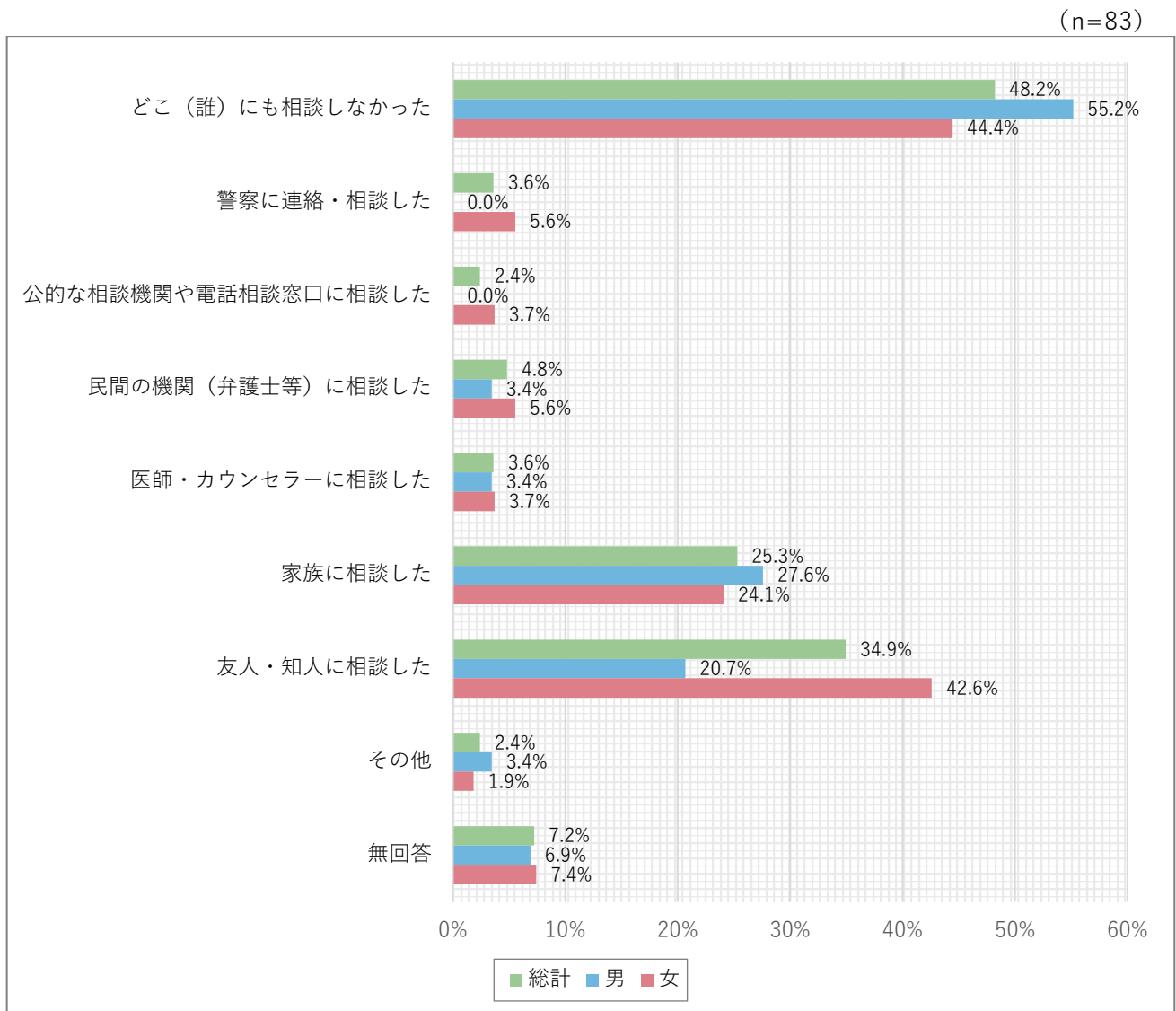
その他

- ・良かれと思った行動を、全面的に否定された事がある。(50歳代女性)
- ・刃物をむけられた。髪を引っ張りハサミで切られた。(30歳代女性)

等

問 24 これまでに暴力について誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。
 (問 22 で「暴力・暴言を受けたことがある」と回答した方のみ回答)

問 22 で「暴力・暴言を受けたことがある」と回答した方に、暴力について誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかについて尋ねたところ、「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した方が最も多く 48.2% でした。男性の方が女性に比べ、相談しない傾向が強いことが見受けられました。

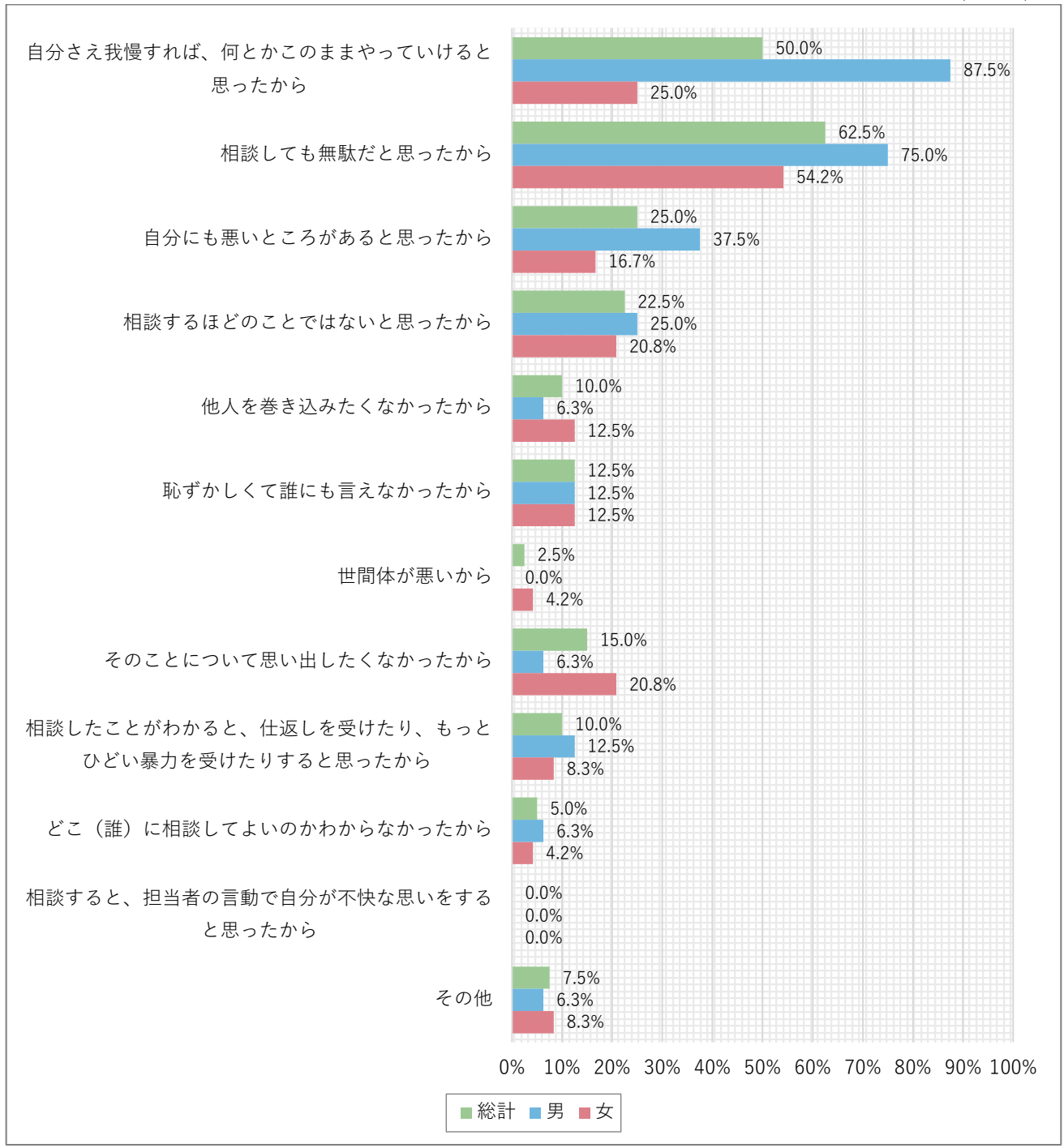


問 25 相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものを3つまで選んでください。
 (問 24「どこ(誰)にも相談しなかった」と回答した方のみ回答)

ドメスティック・バイオレンスを受けたことのある方のうち、「どこ(誰)にも相談しなかった」と回答した方に理由を尋ねたところ、「相談しても無駄だと思ったから」が62.5%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が50.0%でした。

性別でみると、男性の最も多かった意見は「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから」が87.5%で、女性の最も多かった意見は「相談しても無駄だと思ったから」の54.2%でした。

(n=40)

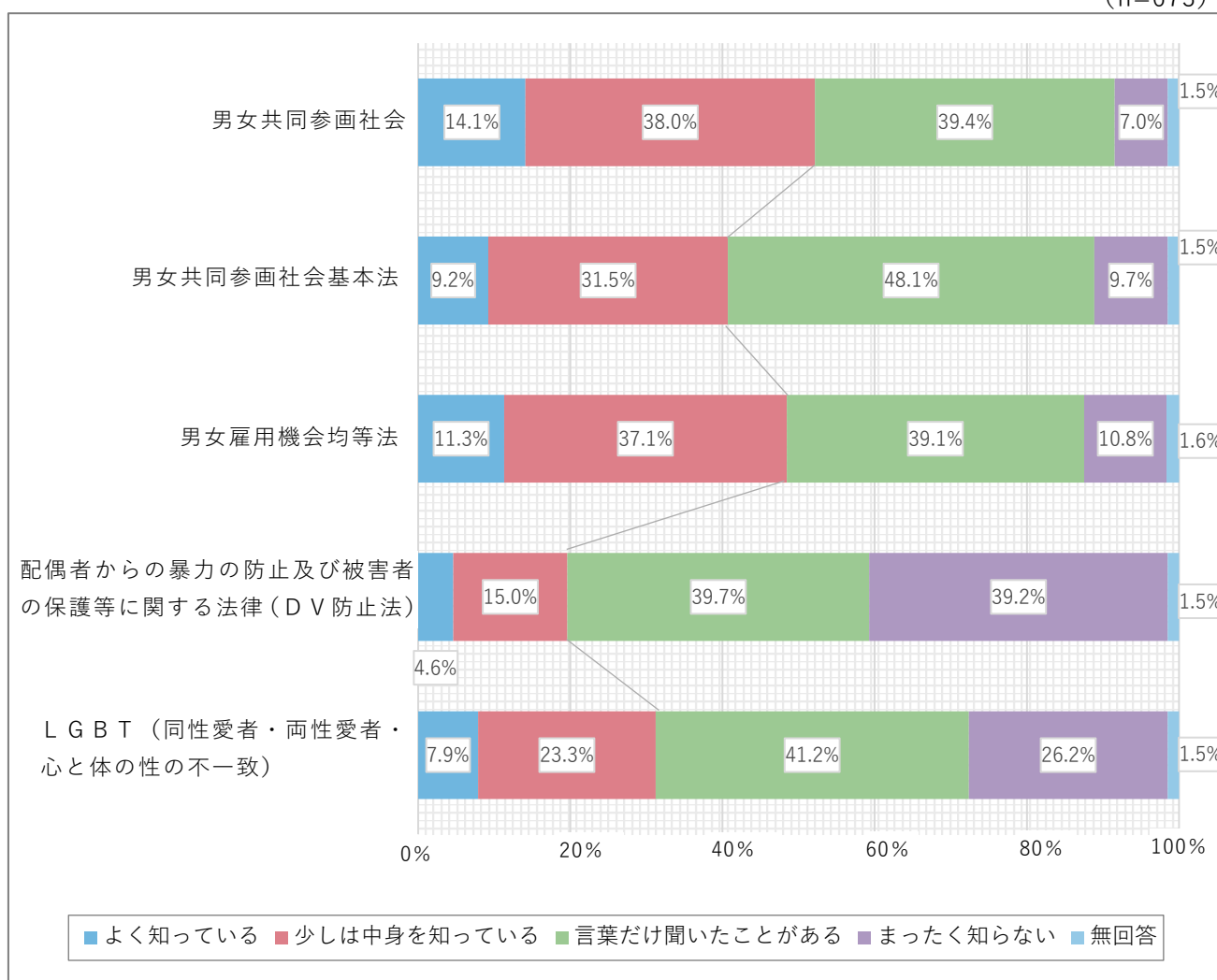


11 男女共同参画用語について

問 26 あなたは次の言葉を知っていますか。それぞれの項目について1つ選んでください。

男女共同参画関連用語について尋ねたところ、「よく知っている」「少しは中身を知っている」を合わせた回答が「男女共同参画社会」で最も高く 52.1% でした。これは前回調査と比較しても 26.6 ポイント高くなっていました。一方「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）」は 19.6% と最も低く、まだ広く認知されていない結果でした。

(n=673)



(用語解説)

■男女共同参画社会

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会。

■男女共同参画社会基本法

「男女共同参画社会の実現を 21 世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置づけ、国の政策に関する基本方針を明らかにするとともに、基本理念や国・地方公共団体・国民の責務、施策の基本となる事項などを定めている。(平成 11 (1999) 年 公布)

■男女雇用機会均等法

正式名は、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」。労働者が性別により差別されることなく能力を十分に発揮し、働く女性が母性を尊重されつつ充実した職業生活を営むことができるようにすることを基本理念とした法律。性別を理由とする差別の禁止、間接差別の禁止、妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いの禁止、セクシュアルハラスメント対策等が講じられている。(昭和 60 (1985) 年 公布)

■配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 (DV 防止法)

配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律。令和元年の一部改正 (令和 2 年 4 月 1 日施行) では、児童虐待防止対策及び配偶者からの暴力の被害者の保護対策の強化を図るため、児童虐待と密接な関連があるとされる DV の被害者の適切な保護が行われるよう、相互に連携・協力すべき関係機関として児童相談所が法文上明確化された。また、その保護の適用対象として被害者の同伴家族が含まれることも明確になった。(平成 13 (2001) 年 公布)

■LGBT (同性愛者・両性愛者・心と体の性の不一致)

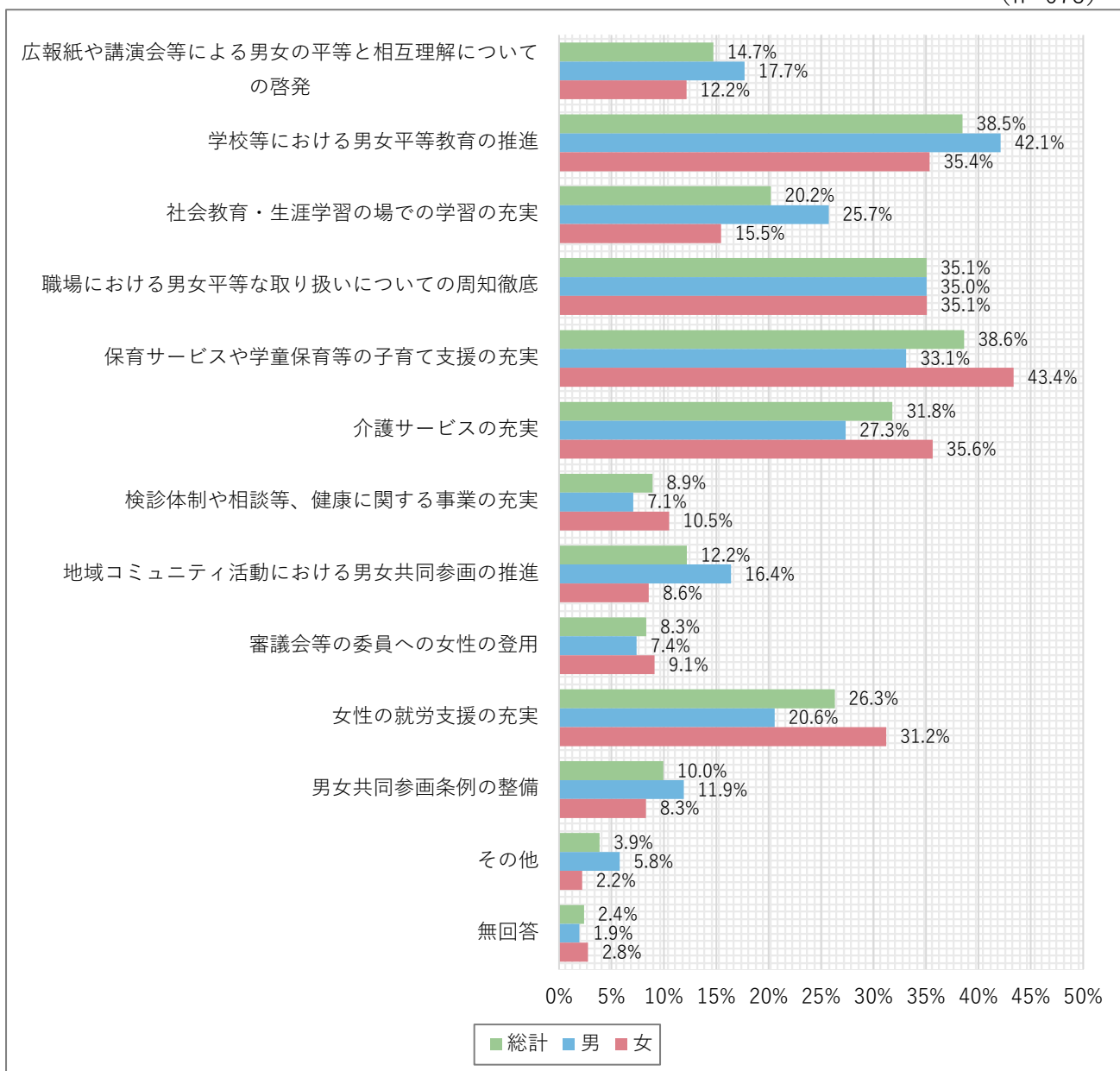
L = レズビアン：女性として女性が好きになる人、G = ゲイ：男性として男性が好きになる人、B = バイセクシュアル：性別に関わらず恋愛対象になる人、T = トランスジェンダー：生まれたときに割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人 (性同一性障がい (性別不合) を含む) の頭文字をまとめたもので、性的マイノリティ (典型的とされていない性自認^{*1} や性的指向^{*2} を持つもの) をいう) の総称の一つ。

12 男女共同参画社会実現に向けての取組みについて

問 27 「男女共同参画社会」を実現するために、いすみ市の施策に望むことは何ですか。
あてはまるものを3つまで選んでください。

「男女共同参画社会」を実現するために市の施策に望むことについて尋ねたところ、最も多かったのは「保育サービスや学童保育等の子育て支援の充実」で38.6%、次いで「学校等における男女平等教育の推進」38.5%、「職場における男女平等な取り扱いについての周知徹底」35.1%という結果でした。

(n=673)



その他

- ・学校等における男女平等教育の推進と共にその保護者世代に対しても男女共同参画に対する教育が必要だと思います。(30歳代女性)
- ・まずは女性が出席する場を作って慣れる事が大事では？(40歳代女性)
- ・子供の意識改革を教える立場の教師・上司の意識改革のほうが大事。年配者の意識が変わらないと能力ある若い人が育っていかない。(50歳代女性)

等

13 自由意見

問 28 「男女共同参画社会」や「女性が輝く社会への実現」について、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、ご自由にご記入ください。

NO	ご意見等	年代・性別
1	各、環境整備が必要	60歳以上男性
2	女性の意識改革と自立心を学校と家庭で養う教育と社会人として向上心を持てる環境作りが必要と思う。	60歳以上男性
3	男女問わず、自身が輝けるものを選択すべし。そのための学習機会は平等に与えるべき。	20歳代男性
4	今は立場が弱い女性だからという免罪符を元に男性を貶める声が強くなっていて、昔から弱かった層の男性の意見が封殺されているので、女性の声を聞くことも大切だが下層部の男性の声も聞くべきである。今の日本は女性が子育てすることへのデメリットが多すぎる、これでは出産率は減るし、出産しても女性は仕事を辞めたりしてしまい家計が苦しくなってしまう、このことで女性の立場は弱くなってしまう。デンマークやフランスがこのことに関しては非常に力を入れており結果も出ているので是非参考にしてもらいたい。	20歳代男性
5	より能動的に変革していくという意識が男女共に必要。	40歳代男性
6	女性の社会進出は大いに歓迎するところであるが、管理職登用率を上げることばかりに性急になりすぎて、適切な人材が登用配属されない現場を見てきていることから、十分な人材選考を行ったうえで登用する必要がある。	60歳以上男性
7	男性だから、女性だから、ということではなくそれぞれ個人の能力が活かせることで結果的に「女性が輝く社会の実現」と同時に男性も輝く社会が実現するのが理想と思います。過渡期としては、現在の男性優位な社会を各種施策で女性優位に逆ブレさせるくらいでない社会の認知が追いつかないと感じています。	30歳代男性
8	言葉は悪いが、「田舎」に行けば行くほど男女の格差は大きく、特に女性が虐げられている事が多いように感じる。その地域に昔から住む男性が、年代関係なく女性というだけで人を軽んじて見る空気がある。自分が勤めていた公的機関は特にそれが著明であり、昔からの風習に則っているように見える。男女共同参画社会や女性が輝く社会の実現は、そういった昔からの風習や偏見をなくすることができない限り難しいのではないかと正直感じている。	30歳代女性
9	男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。（男女共同参画社会基本法第2条） 男女が性別を問わず社会を形成することが基本概念と捕えると、現在の日本社会ではまず、法律整備をする必要はあるでしょう。一方で社会環境、雇用の現実を考えると、社会構造そのものが従来のもので形を変える要素が少ないのも現状です。例えば、国会議員にしても、票集めのために女性タレントなどの著名な人を何の実績がなくとも擁立し議員とし、票集めの人気投票化してしまいます。実績も政治的意見もないままに表面上要職に置きます。その思考方法が根底にある限り社会構造を変えるのは困難でしょう。もちろん立派な政治的な信条をお持ちな女性議員もおられることは承知しております。男女共同参画社会とは真に男性と女性がともに社会を作ることであり、一方が主、一方が従の関係とは違	60歳以上男性

	<p>うと思います。男女平等との概念を勘違いして、男も女も同じことをするのはそもそも勘違いです。それぞれの性差による特性の差はあって当たり前です。まず個々の人がお互いを尊重し、長じているところは任せる信頼関係の構築が必要であり、意識の変換をしなければならないでしょう。長年の現在の社会常識を改革するには時間がかかります。先にも書きましたが、国会議員レベルで現在のあの状況ですから、ボトムアップして社会変革は困難でしょう。日本の社会環境はトップダウン構造ですから時間がかかるでしょう。男性も女性もともに輝く社会は何でしょう。女性は花であればよい、それに乗っかっている女性も一方ではいるのも現実です。個々人の意識の改革も必要です。社会インフラの整備も必要です。長い道のりとなるでしょうが、一步ずつ女性が働くことの出来る環境づくりも大切です。まずは各人の意識の改革、そして社会環境の変革を地道に作ることが大切でしょう。教育・啓蒙・実務モデルの作成。様々な事柄をこなさなくてはならないでしょうね。既成の概念を変えるのは時間がかかります。例えば、医薬分業、今では薬局で薬を調剤するのが当然になりましたが、法整備は1874年明治7年『医制』150年前にさかのぼります。そして本格的に分業が始まったのは昭和50年、今から約50年前です。そして国からの完全分業の指示が1997年、現在の形ですがいまだにその体制が正しく評価されていません。二度手間の印象はぬぐえません。官民ともどもの共同歩調で徐々に作りましょう。</p>	
10	<p>当方女性ですが、現状で満足しています。働きながら育児もできて、幸せです。</p>	30歳代女性
11	<p>子供が産まれたことにより自身の仕事観や子育て感がガラリと変わった為、仕事、出会い、結婚、出産、育児、介護の流れをいすみ市内で完結できる仕組みや夫婦間のイメージをより描きやすくなればなお良いと感じます。</p>	30歳代男性
12	<p>「女性が輝く」って漠然としていてイメージのみ、まったく中身の無い言葉です。</p>	50歳代男性
13	<p>女性が社会進出してないからといって、女性のみを支援したら、それこそ差別だと思ふ。ただ、職場の昇進を實力主義は賛成。職場に長くいるだけで昇進している人が上司になると部下が大変。</p>	20歳代女性
14	<p>男女同一賃金であれば女性も力仕事に積極的に取り組む事が望ましい。</p>	60歳以上男性
15	<p>個人・相手等その他もろもろを尊重する精神の醸成。</p>	60歳以上男性
16	<p>男女平等、男女差別などという言葉が必要でなくなり、それが当たり前になってほしいと思います。</p>	60歳以上女性
17	<p>行き過ぎたジェンダーフリーには気をつけるべし。</p>	50歳代男性
18	<p>子どもが「家事は母がするもの」と思わない、「家事、育児をパパとママが同じくやっている」と言えるような家庭環境を作ることが、次世代の男女共同参画につながると考える。</p>	40歳代女性
19	<p>この社会の意義は、なんとか概要は分かるが、実現にはどのようにするのか？その先には何があるのか？よく見えない。</p>	60歳以上男性
20	<p>『結婚して子どもを持つ』ことを当たり前と思うことを当たり前と思わない社会になるように望みます。また、高齢男性には『セクハラ』の意識が軽薄で恐ろしいです。男尊女卑の現れでしょうか？これらのことが排除されない限り女性軽視の社会は変わらないのではないのでしょうか。</p>	40歳代女性
21	<p>以前私が務めていた会社は、男女が差別なく、女性の管理職もかなり多かったです。それぞれの分野で優れた者や意欲的な者たちが、組織を束ねていく、謂わば当たり前で自然な形である。女性と男性は根本的に考え方や行動に違いがあり、その違いを上手く調和させることが社会に必要だと思います。例えば、育児にしても・・・母親は私感的になりやすいが、父親は客観的に捉えられる事ができる人が多い。子育てへの調和が取れると</p>	50歳代女性

	<p>いうことだ。組織においても、男性は名声や出世を意識する者が多いが、女性はそこへの意識は高くなく、争いなく調和への意識が高い。感情的になりやすいのは女性だったり個人差もありますけど、その傾向は強い。男性と女性の両者があってこそバランスの良い社会が生まれるのだと感じますので、これからの時代は偏見を捨ててすべての者たちが幸せに暮らせることを大前提に平和社会に向かい、その教育改善を子供たちと共に考え進んでいく世の中になっていくことを期待しています。</p>	
22	<p>身体的な違いによる配慮はすべきだが、過剰な女性優遇は社会の成長を阻害する行為だと思う。</p>	30 歳代男性
23	<p>仕事や社会活動に関しては、性別に関係なく、1 人の人間として適材適所な活躍の場を作れば良い。平等ではなく公平な社会を目指すべきである。その為に行政が出来る事は、出産及び子育てに関しての手厚い支援策である。</p>	40 歳代男性
24	<p>女性だから、男性だからという考え方は次第に薄れてきていると感じる。ただ、女性が輝く～など性別を取り上げている時点で 1 人の人間として見られていないと思う。</p>	30 歳代女性
25	<p>このアンケートはいすみ市民の現状を表すだけで、市の現実的課題を市民から吸い上げるといふほどのものではなく、建設的には感じません。少子高齢化が顕著な農漁村地帯での現状を知るだけでは何も生まれません。男女格差で日本は世界 153 カ国中 121 位という悲惨な現状なのです。目指すべきゴールは明らかなのにアンケート内容はお粗末です。日本は 121 位であっても、いすみ市は違う方向にという気概を持って組み立てられるべきでした。「女性」に対する「感覚」は、失言の代表格である森喜朗元東京五輪会長だけでなく、多くの男性に埋め込まれているように感じます。悪気もなければ意識もなく「差別」なり「区別」してしまう類の男性が社会の上層部（政界財界ほか）に多くいる限り、男社会日本の趨勢に変化が訪れるとは思いません。今一度目を閉じ、目前の人が男女どちらかではなく、「人」として扱われる社会（いすみ市）になるように願っています。</p>	60 歳以上女性
26	<p>介護職関係について：女性がほとんどです。男性が入職しても、給料が安く生活ができないとやめてしまいます。それは、会社通念は、女性が安くてもかまわないと思っているからなのではないでしょうか。若いときは女性をひとくくりされ、嫌な思いをたくさんしましたが、年齢があがるにつれ、自分の意見も少しずつ言うようになりました。また、地域でも「女はだまっている」でしたが、女性が一丸になって少しずつ変わってきています。</p>	60 歳以上女性
27	<p>保育園の時から子どもへ男女平等に関わる考え方に即した教育が必要であると思う。男の子だから女の子だからとかで分けて考え方を押し付けないようにしてもらいたい。（すでに家庭では性自認やセクシュアリティについて教育している家庭も多いのに教育の現場で偏見が強いと困る。）</p>	40 歳代女性
28	<p>いすみ市として、小さな事でもやれる事から実践して行って下さい。</p>	20 歳代男性
29	<p>女性だけではなく、若年層への重圧が、新しい芽を摘んでしまっていると思います。若い人は「男女平等」の教育を受けて育っているのに、実際に社会に出ると、受けてきた教育と真逆の現実に愕然とする状態です。女性に限らず弱い立場にある人たちの意見に素直に耳を傾けること、そういう場を意識して設けることがまずは必要だと思います。年配者の顔色をうかがわなくてはいけないような会議ばかりではなにも変わっていかないと 생각합니다。</p>	50 歳代女性
30	<p>当市における当該問題は、地域間の格差があるなかで進展しにくいと思う。しかし、今回の調査等を手はじめに着実に前進していくことが重要と思われる。当面は DV 時の潜在的実体を把握することからはじめるのがベターと思うが、今後の活躍を希望します。若い世代に期待して！！</p>	60 歳以上男性

31	祭礼で、近年は女性が平気でみこしに触るようになって、それが気に食わない古参の氏子その後祭礼に参加することがなくなった。田舎には、変化より現状維持。新しいことを始めて伝統が消えてしまうことのほうが危うい。伝統と慣習で保っているのがこの町だと思う。女性が人権を主張する気持ちもわかるが、女性に生まれてしまったのだから受け入れて生きるほかないと思う。それは差別でも何でも無い。個性を主張するくせに女性という個性は受け入れていないように感じる。私も何度男になりたいと思ったかわからないけど、それは運で、それを「女性に人権を！」などと騒ぎ立てるのは私は気に食わないです。おとなしく生きたい。女性なのだから。	20歳代女性
32	メディアが騒ぐほど、女性自身が差別を感じているか疑問です。以前ネット番組で女性へのアンケートで日本女性（アンケート回答者）の70%が次も女性に生まれたいと答えたそうです。世界の中でもかなり上位だそうです。それだけ日本女性自身は優遇されていると思っている人が多いということです。そのどこが差別なのか国会議員に女性枠を入れてまで増やす意味があるのか男性が多いのは、単に女性が議員に興味がないだけなのに、なぜそれが不平等なのか意味が分からない。	50歳代男性
33	とても難しいですが、職場や行政で女性の立場、意見を聞いてもらう機会が増えるといいと思います。もちろん男性の意見もですが、どちらかというと女性のほうがその機会が少ないように思います。	50歳代女性
34	子育てに対して、もっと男性にも深く参加してもらえるよう、パパのための子育てセミナーみたいなものがあったらいいな、と思います。（パパにしかできないようなダイナミックな遊びを紹介したり、試したくなるような子育てのヒント、声かけの仕方を紹介したり）男性が主体的に子どもに関わってくれる時間が増えると、女性は社会進出しやすくなると思います。	20歳代女性
35	男女というのではなく、一人の人格者としてのあらゆる場で尊ばれる社会になればよいと思う。	60歳以上女性
36	このようなアンケートは不自然に感じます。男女平等は当然のことですが、特別女性を〇〇に参加させる、進出させるというのは平等ではなく不平等だと感じます。当アンケートで私が思うことを表せる〇印はありませんでした。非常に不自然なアンケートだと感じます。この結果をもって”市民の声”とするのは誘導にすぎないと思います。	60歳以上男性
37	女性が子供を出産することにより、必ず女性は仕事を休職、又は退職しなければならない。社会復帰するには数年かかり、その時点で男性とは大きく差がある。大学を出て、せっかく就職しても数年後には、結婚となれば産休や育休で職場をはなれなければならない、となると結婚も考えてしまうだろう。私の知人で40代で結婚していない人はたくさんいます。そのため少子化が進行していくのでしょうか。女性が退職後の再雇用制度が普及すればいいなと思います。	40歳代女性
38	子育て支援（保育園や学校等）や医療の現場などで働いている方たちに対してもっと手厚い処遇をしてあげなければ、大切な人材をなくすことになると思います。サービスを受ける側ばかり優遇せず、提供する側にも目を向けて欲しい。	40歳代男性
39	オレ様意識の高いおじさん世代がいる限り、変わらないのでは。そういう方とは極力関わりを持たないで生活するのがベスト。	30歳代女性
40	先駆者達の地道な努力で少しずつではあるが改善されてきたところではあるが、まだまだ根強く残る日本の男尊女卑はなかなか変わらない。幼い頃からの男女共同参画社会の教育と共に、条例の整備、社会全体の意識改革等々まだコツコツ進めていくしかないでしょう。	60歳以上女性
41	女性が輝く社会への実現には、男性の協力が不可欠だと思います。食事の準備や家の修繕もそれぞれ向き不向きがあるので、得意な人がやれば良い。子どものしつけや教育も父親の役目、母親の役目がそれぞれある	60歳以上女性

	のでどちらかに押し付けない。親の介護も妻でだけにまかせず本人もすすんで協力する姿勢が大切。	
42	女性が男性並みに収入を得られない限りむずかしいと思います。	60歳以上男性
43	男女の別なく能力のある人が活躍できる社会になってほしい。	60歳以上女性
44	まず上に立つ人達が「男女共同参画社会」「女性が輝く社会への実現」に対し真摯に向き合い良く理解してもらってからでないと進まないと思う。また、それに向けて誰でも理解協力できる体制、教育が必要。これから教育、現在教育を受けている子供たちにはこのことが普通で当然であるとの認識を持って成長してほしいです。家庭での子育ても男女平等の意識づけが必要と思う。男女との区別名称も違和感を持つ人もいるかもしれないです。	60歳以上女性
45	このいすみ市における地域の偏見・慣習をまだまだ強く感じる。いろいろな男女参画の推進を力強くしていく事を希望いたします。	60歳以上女性
46	現在、夫の介護中、仕事もしています。家事も全部一人でやっています。介護施設も利用しています。助かっています。	60歳以上女性
47	仕事では、特に男性は男性の仕事内容、女性は女性の仕事内容になっていると感じていることはあると思いました。	30歳代男性
48	夫は仕事中心。休みの日も仕事となれば子供を見るのは妻となる。そうならば、妻はパート or アルバイトのみとなる。学校のPTA等も協力したいが、むずかしい事もある。少子化が進み役員も毎年に近い程やらざるをえないとなると、やはりパートの妻は正社員で働く事はむずかしい。パートが悪い訳ではないが、女性が輝く社会ではなく女性が我慢する社会の方が今現在の様だ。	30歳代女性
49	力仕事等向いていない職場に参加しない方が良いと思う。	20歳代男性
50	初めてその言葉を聞きました。まずはその言葉の意味を市民に理解して広めて行く事が必要不可欠ではないでしょうか？	60歳以上女性
51	まずは、国会議員、県知事、県議会議員、市議会議員から女性を起用してみてもどうか。先生方が見本を見せないかね。	50歳代男性
52	すべてにおいて平等というのは無理だと思います。男が子供を産める時代が来れば別ですけど。	40歳代男性
53	男性が育休1年取っても良いのではないかな。そして女性が働いても良いのではないかな。そんな社会が実現してくれたら良い。	30歳代女性
54	物事を押し付けるのではなく、協力し合う世の中になれば必然的に男女平等は実現できる。法や義務の問題ではなく思想の問題。	40歳代男性
55	大原方面の漁師町出身の友人から聞いた話だが、小学1年生時に学校で男の子達が「男は掃除しなくていいんだ。家の人達からもそう言われている。」と言い張り、担任の先生がその部分から教育しなくてはならず、大変そうだったとのこと。確かに漁師町というと、どうしても男性が船に乗り、家庭を女性が守ることになっており、今でもあまり変わっていないようだ。男女共同参画といっても、職業によってはなかなか難しいこともあるのではないかなと思う。	40歳代女性
56	体力的なことなどで男女の差が出るのは仕方ないと思うのに、男女平等にこだわって不都合が生まれるほうが良くない。女性が優遇されれば男性が引け目を感じ、男性が優遇されれば女性はすぐ文句を言う。どちらも主張しすぎるのは問題しか生まない。地域で言えば、男は青年部、女は婦人会。今の現代社会において時代遅れの行事ばかり。年寄りやエラソーりに若手に接し、仕事、家庭を優先にしたいとしても消防活動等で自由が利かない。田舎ほどムダな付き合いを強いられる。男女平等をうたうより前に地域の状況を改善すべき。子供の遊び場も無さすぎ。市民なのに公共施設（文化とか）が有料とかバカげてる。	40歳代女性
57	若い世代よりも、高齢になってくるとどうしても「昔は、〇〇だった」という方々が多い中、理解するにはとても時間や根気のいることだと思	60歳以上女性

	う。良い面をどんどん紙面等で知らせてほしい。(経験談があるとわかりやすいのかも)	
58	女性が働きやすいように、保育サービス、熱が出たらすぐに呼び出される(迎えに行かなくてはならない)、などどうにかできて、子育てしながら働けるといいのかなと思います。あと、結婚して旦那さんが転勤が多くても、転勤先で正社員としてスムーズに就職できるといいのかなと思います。一方、私は結婚して、子供ができたらある程度大きくなるまでは、育休→パートでいいかなと思っていますが、、不妊治療とかそっち系の支援も充実してくれると大変うれしいと思います。	20歳代女性
59	女性が自立すること。	60歳以上女性
60	男女、男性女性と騒ぐこと自体がそもそもナンセンス。	60歳以上男性
61	暴言について以前よりかなり少なくなったと思います。暴言によって心がどんなにきずついたか図り知れませんが、優しい言葉で心がどんなに救われるか考えて行動していただけたら幸いです。	60歳以上女性
62	以前、市外の職場に勤務しており、産後、育休後、職場復帰の際、女性だからとの理由で、勤務異動をすすめられたことがあり、時代はすすんでいるのに考え方は昔のままの社会であると感じたことがある。大原はだか祭は、以前は"男の祭り"だった。でも今は、女性も分け隔てなく参加できる。いすみ市には、そのような時代にあった文化をできる市だからこそ、女性も男性も関係なく、子育てもしやすい市町村の1つであってほしいと思います。	30歳代女性
63	兄が園児の時、「お花屋さんになりたいです」と言ったら周りのいじめっ子たちから「男のくせに、花屋だってー」と騒がれたけど、先生が「男のお花屋さん、素敵だよ。全然おかしくないよ。」とフォローしてくれたそうです。教育は大切だと思う。	20歳代男性
64	男性だから、女性だからではなく、人として自由に生きられる社会が実現することを願います。	60歳以上女性
65	学校で男女平等を教わっているものの、妊娠・出産だけはどうあっても不平等を感じざるを得ない。つわりや陣痛などの肉体的苦痛、アルコール、カフェインなどの食事制限、大きなお腹のため行動制限が出て、体が不自由になることで時間ややりたいことが犠牲になる。妊娠中は社会的弱者であると感じるが、割に合わないのは、将来の国民または納税者を出産しようというのに見返りが無いことだ。母親の時間や肉体を犠牲にしているのに。この男女間の不平等を埋められるのは、正直金銭くらいしか思いつかない。(それが本来の金銭の意味だと思う。物々交換できないから金銭で解決するしかない。)あとは男性が出産できるようになるか、母体外で胎児を育てられるようにならないと、真の男女平等はおそらく実現しない。つまり男女平等は結局のところ永久に不可能だ。	40歳代女性
66	女性、女性と世間がいうことで仕事面、法律面でも女性が有利になることが多すぎる。会社でも女性がしたことなら大抵のことなら許されてしまう。また、痴漢冤罪になるなど男性が圧倒的に不利なことが多すぎる。頼むから平等な社会を作ってほしい。	20歳代男性
67	自分が働いているところでは、本部と女性部があって女性部は女性の体調や働きやすさ、本部で出た議題に対しての意見などを言うという部です。小さなことでもやりにくい、それはおかしいのではないかと感じることを言える空気と言われた側も柔軟に対応してくれているので、社会全体がそういう風になっていけばいいと思う。男女では体のつくりが違うので、平等に100%というのは難しいと思うが、それぞれの得意分野を活かせるよう子どもの教育から平均的な能力を身につけさせるというより得意分野を作るような教育をしてほしいと思う。関係ないことかと思いますが、いすみ市に図書館がないのは文化度が低いと思う。	30歳代女性

68	社会、地域、男性の意識改革。制度を変えても社会が変わっていない。別姓も最高裁の判断を見る限り、日本は遅れている。経済的先進国ではあるが、社会的には後進国である。	60歳以上男性
69	個々の考え思考は十人十色なので、男女共同参画社会が履き違えたら、女性はもっと苦しむと思う。むずかしい課題だと思います。	40歳代女性
70	若い時に肉体労働（男だけ）について70になって今でも両足ももに肉離れの痛みが寝ているときに起きる。年金収入の少ない人間にとって一律に消費税増はつらい。	60歳以上男性
71	保育所をもっと気軽に利用できるようにしてほしい。預かり保育を受け入れる際に書類準備したり保育所まで出向いたり大変です。もっと母親が外出したりパートに出たりその当日にすぐできるようになれば経済がまわると思います。大原保健センターの保健師さんがまったく親切でなかった。悩みにこたえようとしない。グーグルに聞けばよかった。読んでいただきありがとうございます。	30歳代女性
72	「男女共同参画社会」「女性が輝く社会への実現」についてとあるが、貧しいものがものを上に言えないような社会であってはならないし、心の病をもつ者が増えつつある現代社会であることは周知のことと思うので、根本的な人としての平等、弱者を助けてゆく人々が増えなければ、女性が輝く社会というものも、ごく一部の生活に、能力に恵まれた女性だけが社会で活躍するという表面的なものに終わってしまうと思うので、そういうことも頭に入れ、活躍できる女性が出てくるような、弱者、貧しい方にも差別をもたない、心の豊かさを持てる人格者を育てるセミナー的なものがあるといいと思う。社会に出られる女性は能力の高い方だと思う。	60歳以上女性
73	本人が障害者のため、家族が記入しました。本人には理解能力がありませんので、今後このようなアンケートはできれば送付しないでいただきたいと思います。障害者手帳等の有無確認の上、送付していただければと思います。標題の意見でなくてすみません。	30歳代男性
74	自分自身が男女平等に生きるためにどうすればいいのかと最近考えたことがあったり、就職活動でもそういった質問があったので、地域の中でこういった取り組みをしていることは素晴らしいなと思いました。	20歳代女性
75	どんどん女性が活躍する場が増えていくとよいと思います。	40歳代女性
76	家庭・学校における男女平等教育は推進、定着してきていると思う。女性が不安なく社会に出て活躍するために保育や介護のサービスの充実をいすみ市の施策に望みます。	20歳代男性
77	女性の一人暮らしの就労支援があったら良いと思う。	50歳代男性
78	余りにも女性達の立場が無く男性上位社会の事で男女差別社会を無くして共同社会の両立の社会になってほしい。	50歳代男性
79	能力に応じての賃金の格差があっても良いと思う。みんな一律の給料、時給はモチベーションが上がらないし、むしろ出来る人は下がってしまい生産性、向上力の低下につながってしまう。それを見極める管理職をちゃんと身近に置く。できない人はその人ならこなせる仕事を与えて充実させる。できない人の分までできる人が仕事を補い、疲れて、なぜ!?という疑問が生じ、仕事が嫌になってくる。そして同じ賃金。いすみ市に関わらず社会全体でこういうことはあると思う。	30歳代男性
80	核家族だと、子供が産まれると子守をしてくれる人がいないので、女性が仕事をやめなくてはならなくなる。あまり、お金をかけずに子供を安心して預かってもらえる場所があれば職場に再復帰できると思う。	50歳代女性
81	一長一短で臨機応変だと思います。エリアにより異なる。私の年と若い人達とは意見が異なると思います。若い頃に職場では、男女とか感じなかった。審議会等など女性が少ない？いすみ市に都会から若者など、住みやすい町 No. 1。まずはコロナですね。仕事と交通便ね	60歳以上女性

82	<p>女性は、結婚・出産・育児という大変なタイミングで仕事と家庭の選択を迫られるときがあります。家族・夫の理解がないとできないものです。私の場合は、出産で退職し、育児をして子供が保育園に入ってからパートに出ながら25年くらい勤めました。その後、主人の親の介護で退職。女性はそのタイミングで心を決めるときがあります。夫婦どちらかが家庭を守らなければ家庭は崩壊します。男女平等は素晴らしいことですが、女性のできることは家庭を守ることだと思います。</p>	60歳以上女性
83	<p>アンケート内では、「職場」という言葉で回答を求めている設問がありますが、必ずしも「職場」＝”一定の場所”で仕事をしている人ばかりではないと思います。いすみ市には移住してくる家族が増えています。その多くの人たちは個人で職を持ち、働いているのではないのでしょうか？小商いを推進しているにもかかわらず、質問が画一的かと思いました。何に重点を置くのかは難しいと思います。根底にあるものをくつがえすのは不可能に近い。ただまだ差別なく接することができる子どもたちなら何かを変える力になるかもしれない。学校だけでなく家庭も含めた社会間での”教育”（お互いに学ぶ育つ）ことが今私たちにできる大きなことかと思っています。設問に返答していない箇所があります。申し訳ありません。</p>	50歳代女性
84	<p>今の女性たちは、「不当な差別を受けている」「女性が住みにくい世の中だ」と思っている人が多いのですか？抑圧されていると感じているのかな？いい意味でも悪い意味でも「男女平等」である必要はないかなと感じています。</p>	40歳代男性
85	<p>家庭の中でなんでも話し合えることが土台だと自分のことを振り返りしみじみ思います。家族の理解、協力、応援が妻や母親を社会に出す大きな力になると思います。</p>	60歳以上女性
86	<p>（『問6「男は仕事、女は家庭」という考え方があるますが、あなたはどうのように思いますか』について）</p> <p>男性は、働く体力があるので。そして丈夫な女性はどんどん仕事をする人それぞれでいいと思う。この言葉は古臭く感じる方が多いと思うが、差別している表現ではないと思う。悪く考えない十人十色の考え方をしたいので。</p> <p>元気な男女ばかりに目がむいてしまいがちですが、頑張っても世の中になじめない男女のためにも引きこもっている男女に対してもなんとか小さなことでも社会参加できるようにしてあげたらと思う。そのような子供を持つ親御さんもきっと大変だと思うので。弱い人たちのことを心から思いやりの手を差し伸べる。元気に生まれてきた人間の責務だと思います。みんなを巻き込んで、世の中をよりよい世界にできたら素敵だなと思います。</p>	40歳代男性
87	<p>男女がよく理解し合わなければ、うまくいかないと思います。家族全員で協力し合わなければだめだと思います。</p>	60歳以上男性
88	<p>男女平等の仕事をするには40代の私には体力に限りがありとても難しく感じます。役職者につきたいという願望はありません。子供のSOSに気づかなくなるからです。仕事と家庭と子育てを両立しながら「平等を」と考えるとしたら、これまで通りの仕事をする中に週に1、2度正社員の休みに自分を発揮することができる日があり、パートを理由とした変動のない決まったお給料が入れば満足です。</p>	40歳代女性
89	<p>男性も女性も力を合わせ協力して物事を進めていくそのための努力が大切なのだろうと思っています。人には、それぞれ向き不向きがあるので、カバーしあっていけることのできる人材や環境を作っていくことだと思います。</p>	60歳以上女性
90	<p>これからの世の中、男女が平等であることがとっても大事であると思いますが、今の自分はパートで仕事をしていても、家庭のことはすべてこ</p>	60歳以上女性

	なすことが当たり前と思うパートナーではどうにもならないと思います。まず、男性の意識改革からではないでしょうか。	
91	男女平等というが、全部が全部通用するとは限らないと思う。仕事（業種）によっては男女が分かれると思う。女性は特に仕事の内容で自分は女性だからと言い訳する人もいる。男女平等で本心困る人もいないだろうか。	50 歳代女性
92	不妊治療を経験しましたが、特に女性は頻繁な通院が必要となります。私は職場の理解・協力があり、治療と仕事を両立することができましたが、両立はなかなか大変でした。働きながら不妊治療を受けられるよう社会前回の理解がさらに深まればよいと思いました。	30 歳代女性
93	質問の内容にかなり偏りがあるため答えづらい。	30 歳代男性
94	女性が輝く社会と言っても、現状は子育てや家事などに時間を費やされ、なかなか社会と繋がりを持つことが難しいと思われる。幼い子供達に男女平等教育をしても変わるのは何年も先のこと。今すぐにも変えていくには、高齢者の意識改革も非常に大事だと思う。若者にアンケートをさせるのは結構だが、高齢者にも同じように意識させるのが重要なのではと思う。	20 歳代女性
95	思いやりなどの優しさ、心の余裕があれば良くなっていくと思います。	30 歳代男性
96	アンケートは女性にも送るべき	20 歳代男性
97	今の時代、男女の差だけでなく、LGBT、心や体に障害のある人、サポートが必要な人 etc. 多くの場面で同時に整備が必要だと感じています。男女の差にスポットを当てるのではなく、様々な状況の人達が等しく社会に参画できたらと思います。法整備等乗り越えなくてはならない課題、多いと思いますが、是非よろしくお願いします。	50 歳代女性
98	女性が輝く社会への実現は各自が意識を変えないと難しいのではと思う。	30 歳代男性
99	問に関係ないが、働く場が男女ともに少ないのでいすみ市に大きな会社が移転してくれると地域で働いてくれて東京などにいかなくて結婚してくれて少子化を防ぐのではないか。平等になると結婚する人が少なくなる傾向になるのでは。結婚はよいものだと若いことから学校とはよいものだと映画など見せると良いのでは。	50 歳代女性
100	現在問題にされている男女の平等は人権の平等と同じようなものと捉えている。能力が等しい、あるいは抜きん出ているのであれば男女問わずに採用すればよい。ただそこに性別による差別ではなく区別はきちんと取り入れていくべきだろう。出産は女性にしかできない事であるのだし、おのずと子育ての中心は母親になると思う。もちろん男性や社会が積極的に子育てを後押ししなければならない。個人的に思うのは先ほども述べた「性別による差別と区別」の履き違え。現在の男女平等の唱え方はどうもこれを無視したものに思える。今回の設問の回答にもいくつかそれらしいものが見受けられるように感じる。	40 歳代男性
101	女性は出産、育児でどうしても仕事を休職するか辞めなければならないのが現実なので、復帰後の就労支援や育児休暇等の充実を図ってほしい。	60 歳以上女性
102	なぜ、女性の地位が低いのか？そう思っている人が多いだけじゃないでしょうか？そんなことは、そう思っている経営者や高齢者が居なくなれば自然と消えていきます。今は、様々な場所で女性が活躍する時代です。それを見ている子供たちは、女性が社会で輝けないなんて思うわけもないんです。じゃー、なぜ女性が社会で活躍する機会が少ないと感じて、このようなアンケートを行うのか？それは、女性への教育が時代を超えて不足しているからです。ずっと負の連鎖が起こっているんです。親は高校生の子供に勉強を教えるだけの知識があるのでしょうか？「自分も	30 歳代男性

	<p>勉強ができなかったから卒業すればいいよ」と放ったらかしてはいないでしょうか？習慣的な勉強や社会に対する、働くことに対する意識を小さい頃から教育することで、その子供が親になった時に、自分の子供もしっかりと育てていけるのではないのでしょうか？</p> <p>私の価値観ですが、学生は「楽しいこと(遊び)<辛いこと(勉強)」が普通だと思うんです。だからこそ、自分をコントロールする理性も身につき、知識も増えるわけです。たいした努力もせず、地元企業や学校と繋がる企業に就職し、すぐに辞めてしまう。当然、知識や技術、能力が低いために再就職できない。これは男女に言えます。それでは、なぜ女性だけが社会参画できていないと感じるのか？それは、子供がいた場合、子育てをしながらも仕事を提供する企業側のメリットが少ないからだと思います。子供がいて、ガッツリ仕事を任せられない人よりも、仕事メインで働いてくれる男性を重宝するからです。だからこそ、女性は子供がいても働いてほしいと思わせるだけのスキルが必要なんだと思います。あくまでも、子供がいた場合ですが、居なければ男性と同じだとも思います。</p> <p>結局何が言いたいかというと、幼少教育からキャリアシステムを意識させた教育をするべきです。また、その親に対しても同様です。もっと、教育に予算を！未来の人材育成に地域の理解と協力を！長々と失礼しました。</p>	
103	女性の社会的地位を向上させるために女性が仕事を持つことももちろん大切だと思いますが、専業主婦の社会的価値観が低すぎる。専業主婦という一つの職業として社会全体が認めるべき。	50 歳代女性
104	性別、関係なし、社会への進出は良いことだと考えます。女性にも、いろいろな分野で活躍してほしいと思います。一方昨今、セクハラ、パワハラ、DV等いろいろあり、どこまでがこの言葉に当てはまるのかよくわかりません。ある人が働きにくい今日であると言っていました。上司が新人に一言注意すると、セクハラだ、パワハラだと言われたそうです。DVにしても夫婦げんかとDVの違いはなんなのでしょう。どちらにせよ忍耐力、我慢できない人が増えたように思います。とにかく働きにくい今日だそうです。	60 歳以上女性
105	男は男、女は女という時代に育った人たちの意識が変わらないと、制度、サービスが充実しても男女平等の達成は難しいと思う。	30 歳代男性
106	私は 1980 年代、B・フリーダンの“女性解放”について読んだり、「女性のアクセスを求める会」にも参加していたが、子育て（6人）をすることに専念し、世の中から取り残されたと思っていたが、今、江原由美子著『女性解放という思想』を読んでいるとその当時から世の中はあまり変わっていない—男社会—特に日本は。バブル時代末の夫は毎晩接待と称して“午前さま”。自分の子どもの成長も見なければ、行事（入学式、卒業式）にも参加せず、母親がすればいいという考え。そしていまだに妻が子育てし、子どもの面倒を見、自分は外で働けばいいと。しかし退職したら妻との会話が成立せず、60～80、90才まで男はどういう風に生きていいか。そのつけが今、日本の団塊の世代の男に来ている。そして引きこもっている40代のところに（父親不在のつけが・・・）	60 歳以上女性
107	<p>このアンケートを記入、回答していく中で、時代が少しづれている気がします。</p> <p>幸いにも、私が勤めていた環境では、男の仕事、女の仕事の区別も無く、自分の能力を生かし資格を取り、切磋琢磨してまいりました。そこには男女の区別無く家庭の両立を保ちながら40年ほど勤めてまいりました。</p> <p>公務員であったということもあったのでしょうか。</p> <p>民間の社会については語れませんので、その内容がすべてではないと思いますが。</p>	60 歳以上女性

108	習慣やしきたりの大事なところは残し悪いところは改めて行くという事は大事だと思う。	60歳以上男性
109	人はこの世に生を受け様々な体験をしながら一生を過ごしていくが、男女の性によって差別されることは決して許されるものではないと思う。人が人として幸福に生きることができるような世の中を望みたいと思う。日々生きていく中で1人1人が自分自身の言動を見つめ直す機会をたくさん持っていけたらと思う。コロナ禍で大変な世の中になっているが、できる限り情報発信、受信を心がけていきたいと思う。	50歳代女性
110	いすみ市で女性の社会参画をすすめるためには、まず市役所内の女性職員の管理職登用や女性の副市長をおくなどし、企業や団体のモデルとなって欲しいです。	60歳以上女性
111	職場での育休、産休について風当たりが強いことは聞いていましたが、実際同僚が妊娠して出産前に産休に入るとなったときに、「今の時期にやめてほしい」「正直迷惑だ」と上司が話しているのを聞いたときに、もっと妊娠について喜べないのだろうか、人の気持ちなんて考えられないのだと思ったことがありました。このような環境だと、言い出しづらいことになり、何も悪くない本人が罪悪感を感じるようになるのはいかなものかと思いました。女性がより活躍するためには、一人一人の考えや休むことへの迷惑だという気持ち、意識を変えなければ、この世の中どうにもならないと思いました。	20歳代女性
112	介護施設で掃除、洗濯を担当しており、女性管理者は数名おりますが、主要な部署管理者はやはり男性がとりしきっております。	60歳以上女性
113	年齢、資格問わず仕事を行いながら資格が取れるということにもう少し目を向けて欲しいです。自身の経験から資格を取ってから来てくださと言われてたことがあります。このことであきらめるこういうことがあってはならないと思います。	60歳以上女性
114	「男女共同参画」という言葉を知らなかったのので、そこについて意見、要望はありません。ただ、女性1人で生きている中で疑問に感じることは多々あります。生活をするため、家賃、食費、楽しみを確保するために働いています。国民の三大義務だと思っています。しかし、周りには生活保護を受け、勤労の義務を怠っている人もいます。子どもを授かっても、離婚をして、保護を受け、再婚はせずにパートナーとして生活をする。交通の便が悪いから自家用車購入、本当なのでしょうか？教育の義務に対しても無償教育には疑問があります。子供医療も同様です。「無償」というのは「タダ」。「どうせタダ」「どっちみちタダ」「本当に医療を受けたい」「本当に教育を受けたい」同様一体化しています。受ける側の気持ちを尊重してほしいです。無償にするくらいなら安価にしてほしいです。	50歳代女性
115	望まない妊娠をして墮胎する数が、日本の死亡者の多くを占めるという話を聞きました。私の周囲には子どもが欲しくても恵まれない方がたくさんいます。墮胎せず、出産して子どもが欲しい方が育てる。これが普通にもっと簡単にできればいいと思います。少子化問題も解決。出産しても育てられずノイローゼになって虐待したりするのも子どもはみんな育てよう！って社会になると良いと思います。女だから男だからってこだわらない世の中になってほしい。子どもは産んだことがなくても育てられます。産んだだけで育ててない人はたくさんいます。そういう子はとてもかわいそう。	50歳代女性
116	義務教育において男女平等やLGBTQ+への教育が足りていないと感じられます。特に中学校で「男らしさ」や「女らしさ」を押し付けることをしないでほしいです。男子生徒が長髪を禁止されていることや性教育が男女別に行われていること、あらゆるものが格差や無知による害につながっています。今日では、20～30人に1人セクシュアルマイノリティが存在すると言われていています。多様性を認め合うことのできる社会	20歳代女性

	の実現のために、若年期から学びとコミュニケーションの場を設けてほしいです。	
117	会社では女性のほうが賃金が低いように感じる（事務方が多いせい）。仕事柄男性がとて多いのでその影響か女性のほうが優遇されている。人それぞれが男女関係なく好きな仕事につけて平等な評価を得られるように子どもの教育（家庭～学校～社会人）をし、社会もそれらをよしとする制度にした方がよいと思います。人々の意識を変えていくことが大事だと思います。社会人歴が浅いのでわからないことも多いです。お疲れ様です。	20 歳代男性
118	50 歳過ぎてパートで働いたところで社員の女性からどうせパートだという感じで扱われ、すごくイヤな思いをした。家庭の事情で5時間くらいしか働けなかったのが、社員からするとダメと思ったのかお昼も会社の倉庫で食べさせられたりして今どきこんな扱いを受けると思わなかった。いすみ市にある会社です。	50 歳代女性
119	男女平等という言葉がある時点で本当の平等はないのではと思います。男女ではなく、自分自身ができることを見つけることが大切なのは。男でもできないことがある、女でもできないことがある。それを受け入れていくことが大切だと思います。偉そうに書いて申し訳ありません。	20 歳代女性
120	子どもたちが住みよい社会になって今以上に仕事、子育ての十分な男女共同な実現を望みます。	50 歳代男性
121	男女平等には賛成だが、男女の特性や役割を考慮していないかのような平等については反対。LGBT のような方々もいるので、男女の役割だけでなく、その個性に応じた役割が与えられ、自由と自分らしさ、才能が発揮されることが望ましい。	40 歳代男性
122	結婚出産育児は女性にできる最高の強みとなります。その強みを社会で活かせるようなまずは資格習得の特別枠資格習得間に支援の充実です。支援も中途半端なものではなく完璧な支援です。それさえ充実していれば家庭に埋もれた才能を引き出すことができ女性の社会進出と少子高齢化対策になります。	50 歳代女性
123	情報社会における現在の雇用状況について疑問に思う点が多数あります。男女平等とはいえ、男性が働きづらい職場や女性の妊娠出産による周囲の理解、協力等が得づらい環境について又クレーム等による処分について改善した方がよいと感じる部分があります。倫理観や道徳観念は人によって様々ですが、マタニティハラスメントや一部の犯罪者による男性教諭（保護者）への偏見への改善についてクレーム処理による一方への社会的不利益の改善について、社会（地域等）はどう行動すべきだとお考えでしょうか？	30 歳代女性
124	例えば、区の役員を決める会議（集まり）などに出席するのは、殆ど男性、又、役員を決める候補には男性にしか声がかからない。大半の人は面倒な役員はやりたがらないのかもしれないが、そもそも女性を選ぶなどということははなから考えてもいない。「田舎」ほど「女性が出しゃばるな」と言われる。よく、役員のお割は女性で、という目標があったらしいが、必要な能力のある人がいれば、それにこだわらなくても良いと思う。ただし、そのためには女性だけでなく男性ももっと幅広い知識を身につけてほしい。	60 歳以上女性
125	子育てはどうしても女性が主になることが多く、ストレスが溜まってしまっているので、子育てに関する支援を充実させてもらいたい	50 歳代女性
126	都市部と地方とは意識に差があるので地域（いすみ市）のニーズに応じた計画の策定をお願い致します ご活躍をお祈り申し上げます	60 歳以上男性
127	働くのも家庭優先にするのもその家庭の事情それぞれだと思います。女性云々と言うよりは、男性に家事育児をするように意識を変えさせるほうがいい	30 歳代女性

128	政治家に男が多すぎる。例えば首相や大統領がみんな女性だったら戦争はほぼ起こらないと思う。 介護や子育て（特に介護）は男性は正面から向き合うことをおそれたり、面倒がる傾向がある。意識の改革が必要と思う。	40 歳代女性
129	男女平等といえども職業や職種によっては偏りがある 現実的に男女平等は難しいのでは、、 法律や制度を見直ししても職種や企業によって制度や休暇等利用しづらい また、企業の規模によって福利厚生も違う	40 歳代女性
130	口ではわかっているとしながらも、内心では男尊女卑の50代以上の社会、会社での力を持っている人が多いと思う。社会で言われているより30代以下の男女平等意識は高くなっていると思う。学生、会社、社会に向けて、これからも男女共同参画に向けての活動を進めていきながらも、考えを改められない人達への意識改革をしていけるとよいと思う。また、保育、看護等女性が優位の職業もあり、いじめもあるが表沙汰にあまりなっていない。「男女共同参画」女性が輝くのみではなく、男性も輝く社会という事を念頭において、考えていってほしい。	40 歳代男性
131	現在育休中ですが、産休に入れる時期が遅いのと、育休期間が短いと感じます。 3歳くらいまで面倒が見られるような制度があればいいのと思います。	20 歳代女性
132	男性がうまく仕事をやっていけるように望む。	60 歳以上男性

